國立政治大學日本語文學系

碩士論文

指導教授：蘇文郎

國立政治大學
National Chengchi University

N ガデキル構文の研究

研究生：邱姿維　撰

中華民國一〇六年七月

國立政治大學
National Chengchi University

謝辞

本論文の作成に当たり、多くの方がのご支援とご指導を頂いたこと、衷心より感謝を申し上げます。真っ先に感謝したいのは、不才で不真面目な私の論文指導を引き受けてくださった蘇文郎先生です。外国人として研究に当たり、何に注意すればいいかなど、丁寧に教えてくださいました。卒業する前に一緒に東京外国語大学の夏季セミナーに参加したことが思い出となりました。

次に、炎天下で審査に来てくださった王淑琴先生と東呉大学の陳世娟先生、ご貴重なご意見・ご指摘をいただき、どうもありがとうございました。ことに、王先生の授業を履修したおかげで、コーパスの使い方やクオリア構造などを教わったきっかけで、本論文のひな型の「N ガデキル動詞句」という期末レポートができ、本論文に発展したのです。

そして、時には厳しく時には優しくしてくださった吉田妙子先生、一学期だけの授業で日本語はどれほど面白いことかがわかりました。退官なさった後も何回も勉強会なりプライベートなり、お宅にお邪魔しました。大学院生活で最も憂鬱な時期に、マリア様みたいに暖かく見守っていただきました。認知言語学を教えてくださった先輩の葉秉杰先生、古典文法と古典文学の面白さを教えてくださった鄭家瑜先生、敬語の奥深さを教えてくださった蔡瓊芳先生、授業を聴講させてくださった栗田岳先生、ありがとうございます。

また、東呉大学客座教授としていらしゃった広島大学の白川博之先生、毎年集中講義を聴講させていただき、感謝しております。白川先生の授業では、日本語教育における文法記述の仕方などが勉強になりました。

さらに、先輩の姜鈞傑さん、城戸秀則さんと陳祥さん、吉田先生のお宅で行われた勉強会で過ごしたことが貴重な時間となりました。ことに、城戸さんは私にとってかけがえのない研究仲間です。同期の楊舒涵さん、劉徳駿くん、黄振維くんと鄭涵蔚さん、また、洪依帆さんと翁晨禕さんをはじめとするかわいい後輩たち、皆さまは私の良き学友です。行政上サポートしてくださった頼庭筠さん、徐欣瑜さんとその妹さん、いつもありがとうございます。

また、上智大学での交換留学期間中に、言語研究の考え方を教えてくださった福井直樹先生、厳しく一研究者であるべき姿勢を教えてくださった加藤孝臣先生、研究者の卵として大変勉強になりました。言語科学研究科の院生の皆様、お世話になりました。ことに、留学中に多方面助けてくれた櫻岡愛美さん、本論文の文法チェックを快く引き受けてくれて、本当に感謝感激です。

このように、私はこの三年間半でこんなにも多くの偉い先生方と優しい方々に恵まれて実に幸運の極まりです。改めて感謝の意を申し上げます。

最後に、好きなことをさせてくれた両親と兄たちに、感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございます。

なお、本論文における不備な点に関しては全て筆者の責任です。

N-ga DEKIRU 句構之研究

摘要

本論文目的於探討 N-ga DEKIRU 句構在何種情形下表達＜生起＞、＜完成＞以及＜可能＞中的其中一種語意。至今為止，N-ga DEKIRU 被定位於可能表現的一種，而尚未有以 N-ga DEKIRU 為中心，針對其多義性分析的研究。針對動詞 DEKIRU 的多義性有所提及的只有針對 DEKIRU 的歷史上的型態與語意變化的研究以及辭典而已。因此，本論文藉由導入屬性結構（Qualia Structure），論述 N-ga DEKIRU 動詞句的語意是由名詞 N 和動詞 DEKIRU 兩詞組成分經由共構成的過程而衍生。又，本論文不局限於 N-ga DEKIRU 動詞句，也以句構單位來探討影響句子整體的要素。

本論文共 7 章，首先於序章闡述研究動詞及目的、研究方法與本論文的構成。於第一章，概觀先行研究，指出其問題點，並提出本論文的課題。在第二章，以認知語言學的分析方法探討動詞 DEKIRU 的多義性，並使用屬性結構探究其語意構造。於第三章，筆者以 NINAL-LWP for BCCWJ 語料庫收集與 N-ga DEKIRU 句構中的名詞作為本研究的考察對象，並將之分類為事件名詞（event noun）以及實體名詞（entity noun）。於第四章，筆者推論 N-ga DEKIRU 動詞句的語意是經由名詞與動詞兩者共構成而衍生，並探討共構成時所使用的類型強制的適用條件。最後於第五章，筆者以句構單位探討第四章所無法解決的多義性的問題。第六章為結論。

經由以上論述得到結論為，N-ga DEKIRU 句構的語意，有取決於名詞的情形，也有在以 N-ga DEKIRU 動詞句單位時擁有兩義性的情形，而後者的語義又受附加部的有無、否定接詞 nai 以及時態等影響。

關鍵字：N-ga DEKIRU 句構、多義性、屬性結構、共構成、類型強制

國立中興大學 National Chungkai University

N ガデキル構文の研究

要旨

本論文の目的は、N ガデキル構文がどのような場合に、生起、完成、可能のうちのどの意味を表すか、という疑問を明らかにすることである。従来の研究では、N ガデキルを可能表現の一種として位置づけ、N ガデキルという形式を中心にその多義性については研究されてこなかった。唯一、動詞デキルの多義について言及したのは、デキルの形態的・意味的変化に関する研究と辞典しかないという現状である。そこで、本論文では N ガデキル構文の研究にクオリア構造という理論を導入するという試みにより、N ガデキルの意味が N とデキルという二つの構成素が共合成して生成されることを論じる。また、N ガデキルという句レベルに留まらず、構文レベルで文全体の意味を左右する要素を洗い出す。

本論文は全 7 章から構成される。序章では、研究動機と目的、研究方法と本論文の構成について述べる。第 1 章では、先行研究を取り上げ、その問題点を指摘し、本研究の課題を提示する。第 2 章では、デキルという動詞を中心に、その文法的振る舞いについて考察するとともに、その意味に関しては認知言語学の枠組みを用いてその多義性を分析した上で、それらの意味の意味構造を規定する。第 3 章では、NINJAL-LWP for BCCWJ というコーパスで N ガデキルにおける N のデータを集め、モノ名詞とコト名詞に分類する作業を行う。第 4 章では、N ガデキルという動詞句が共合成という意味生成のプロセスにより意味が生成されると想定し、タイプ強制という共合成の際に適用されるプロセスの適用条件を探り、N ガデキルの意味がガ格名詞句の N が指定することを論じる。第 5 章では、句レベルで解決できない多義性の問題について、構文レベルで考察する。第 6 章では結論を述べる。

以上のことから、N ガデキル構文の意味が、名詞 N が指定する場合もあれば、N ガデキル単位でも両義性を持つ場合もあり、後者の場合、付加部の有無・否定接辞のナイとテンス・アスペクトによって意味が左右されるという結論に至る。

キーワード：N ガデキル構文、多義性、クオリア構造、共合成、タイプ強制

Study of N-ga DEKIRU Construction

Abstract

The purpose of this study is to examine which meaning amoung OCCURENCE, PERFECTIVE, and POTENTIALITY is represented in case of 'N-ga DEKIRU' construction. In conventional research, 'N-ga DEKIRU' has been regarded as one of the potential expressions, but as for its polesemy, it has barely been studied yet. There is only one research focusing on the morphological and semantic change of the verb 'DEKIRU', and its polysemy is only mentioned in dictionaries. Accordingly, Qualia Structure is introduced into the study of N-ga DEKIRU construction to show that the meaning of N-ga DEKIRU is generated by means of the process of co-composition from its constituents, N and DEKIRU. Furthermore, I also investigate what elements affect the meaning of the whole sentence at the syntactic level.

This thesis consists of 7 chapters. In the introduction, I describe the motivation and purpose of this work. In chapter 1, I point out the problems after reviewing the previous research, and present the subjects of this paper. In chapter 2, I examine the syntactical behaviors of the verb 'DEKIRU'; meanwhile, I analyze its polysemy through cognitive linguistic approach, and stipulate its semantic structure. In chapter 3, I collect the nouns co-occuring with DEKIRU from the corpus named NINJAL-LWP for BCCWJ, and categorize them into event nouns and entity nouns. In chapter 4, I assume the meaning of the verb phrase 'N-ga DEKIRU' to be generated by the process of co-composition, and explore the condition of type coercion which is applied in the process of co-composition. In chapter 5, I examine the unsolved problems in previous chapters at the syntatic level. Finally, in chapter 6 comes the conclusion.

From the above, the conclusion is that in some cases, the meaning of N-ga DEKIRU construction is determined by the nouns; whereas there are cases that the verb phrase 'N-ga DEKIRU' still represents two meanings. As for the latter case, adjuncts, negation, tense and aspects are the elements affecting the meaning of N-ga DEKIRU construction.

Keywords: N-ga DEKIRU Construction, Polysemy, Qualia Structure, co-composition, type coercion..

國立政治大學 National Chengchi University

目次

序章　はじめに 1

0.1.　研究動機および目的 1
0.2　研究方法および本論文の構成 2

第 1 章　先行研究 3

1.1　デキルをめぐる研究 3
1.1.1　デキルの語源：前田（1983） 3
1.1.2　辞典における記述：小泉・船城・本田・仁田・塚本（1989） 4
1.1.3　まとめ 6
1.2　可能表現としての N ガデキル：渋谷（1993） 7
1.2.1　可能文の形式 7
1.2.2　可能文が成立する要因 7
1.3　先行研究の問題点と本研究の課題 8
1.3.1　先行研究からの示唆と問題点 9
1.3.2　本研究の課題 9

第 2 章　デキルの文法的振る舞いと意味 10

2.1　デキルの文法的振る舞い 10
2.1.1　格と意味役割 10
2.1.2　デキルのニ格名詞句と場所 11
2.2　デキルの多義性 12
2.3　クオリア構造 16
2.3.1　項構造と名詞範疇 18
2.3.2　事象のタイプ 20
2.3.3　語彙概念構造 22
2.3.4　デキルの意味構造 26
2.4　まとめ 28

第 3 章　モノ名詞とコト名詞 29

3.1　データ 29
3.2　先行研究 30
3.2.1　寺村（1981） 30
3.2.2　池上（2000） 31

國立政治大學 National Chengchi University

3.2.3　上原（2010）.....31
3.2.4　影山（2010）.....32
3.2.5　先行研究からの示唆.....33
3.3　統辞的テスト.....34
3.4　分類の結果.....36
3.4.1　モノ名詞.....37
3.4.2　コト名詞.....42
3.4.3　モノゴト名詞.....43
3.5　まとめ.....44

第 4 章　N ガデキル動詞句.....45

4.1　共合成とタイプ強制.....45
4.1.1　先行研究：小野（2005）.....45
4.1.2　問題点と仮定.....46
4.2　N $_{コト}$ガデキル.....48
4.2.1　可能を表す N $_{コト}$ガデキル.....48
4.2.2　生起を表す N $_{コト}$ガデキル.....56
4.2.3　完成を表す N $_{コト}$ガデキル.....58
4.2.4　まとめ.....60
4.3　N $_{モノ}$ガデキル.....61
4.3.1　生起と完成を表す N $_{モノ}$ガデキル.....61
4.3.2　可能を表す N $_{モノ}$ガデキル.....63
4.4　N $_{モノゴト}$ガデキル.....67
4.5　まとめ.....69

第 5 章　N ガデキル構文の意味用法.....70

5.1　完成と可能の両義性を持つ N ガデキル.....70
5.2　付加部の有無.....71
5.2.1　N ニ N ガデキル.....71
5.1.2　ADJ +達成動名詞ガデキル.....72
5.1.3　ADJ+N $_{モノ}$ガデキル.....74
5.1.4　まとめ.....75
5.2　否定接辞のナイ.....75
5.3　テンス・アスペクト.....79
5.3.1　ル・タ・テイル.....79
5.3.2　N $_{コト}$ガデキルと V スルが表す事象.....82
5.4　N ガデキルを後接する形式.....84

國立政治大學 National Chengchi University

5.4.1　N ガデキタラ.....85
5.4.2　N ガデキ次第.....86
5.4.3　N ガデキルマデ（ニ）.....87
5.4.4　結び.....88
5.5　まとめ.....88

第 6 章　終わりに.....90

6.1　結論.....90
6.2　今後の課題.....91

参考文献.....92

付録.....94

國立政治大學
National Chengchi University

國立政治大學
National Chengchi University

序章　はじめに

0.1.　研究動機および目的

可能を表す形式は、日本語の教科書において概ね「動詞の可能形」と「スルコトガデキル」を含めた「N ガデキル[1]」の二種類あり、最初に導入されるのは後者である[2]。初級日本語の教科書では次のように提示される。たとえば、『みんなの日本語』によれば、（1 a）は能力可能を表す N ガデキル文であるが、（1 b）は状況可能[3]を表す。一方、（2）は、可能ではなく、「新しく作られて完成される」という意味である。

（1）a.　私は｛日本語／漢字を読むこと｝ができます。

b.　ここで、｛コピー／お金をかえること｝ができます。

（『みんなの日本語』18 課）

（2）駅の前に大きいスーパーができました。（『みんなの日本語』27 課）

このように N ガデキル文は、可能とそうでない意味を表す。N の位置にどのような名詞が来るかにより、文として意味が違ってくると考えられる。「V ルコト[4]」と並行に使えることから、N はコト名詞だと考えられる。しかし、（1 a）の日本語は、コト名詞ではなくモノ名詞[5]である。

N ガデキルの N について、富田（1991：98）は（3）のようにまとめているが、（1b）の「コピーができる」は（3）のいずれにも当てはまらない。

（3）a.　言語、例：日本語、中国語、英語、韓国語…
b.　スポーツ、例：サッカー、テニス、野球、水泳…
c.　楽器、例：ピアノ、ギター、チェロ、バイオリン…
d.　技術的なもの、例：車の運転、時計の修理、料理、将棋…

また、次の二文は N ガデキル文であるが、（2）と同じように可能の意味は

---

[1] 本研究ではスルコトガデキルを含めた N ガデキル文のことを一括して「N ガデキル構文」と呼ぶが、実際にスルコトのような NP については考察対象としない。N の選定については第 3 章で詳しく論じる。

[2] 『みんなの日本語』シリーズでは 18 課で「N ガデキル」が、27 課で可能形が導入される。一方、『学ぼう!日本語』シリーズでは 15 課で「N ガデキル」が、22 課で可能形が導入される。

[3] 可能表現は、動作実現の条件が、能動主体の能力に関わる場合は「能力可能」と、関わらない場合は「状況可能」に二分する。（日本語記述文法研究会 2009）

[4] 本論文において動詞の連体形は「V ル」と表記する。

[5] モノ名詞は、物理的・抽象的な実体を持つと認識される物体を表し、時間的に変動しない（しにくい）という特徴がある。一方、コト名詞（「コト名詞」は益岡（2013）の用語である。影山（2011）では「デキゴト名詞」と呼んでいる）は出来事や状態を指し、時間の流れの中で捉えられる（影山 2011）。

全く読み取れず、自発[6]に近い意味がある。それはなぜだろうか。

（4）a. 鼻にニキビができた。
　　b. 学校で友達ができた。

そもそもデキルという動詞には可能という一つの意味のみならず、(2) に対する説明で述べた「新しく作られて完成される」という意味もあり、また、上記の自発に近い意味もある。それゆえ、N ガデキル文も多義性を持つと思われる。N ガデキル文がどの意味を表すかは N の位置に来る名詞が決めると仮定する。本研究は、N の位置にどのような名詞が現れ、どのような意味を表すか、という疑問を明らかにするために研究する。

なお、日本語教育文法について研究するような導入の書き方をしているが、本研究では単に N ガデキルという形式を中心にその多義性を分析することを目的とし、日本語教育ではどう教えるかについては立ち入らない。

0.2　研究方法および本論文の構成

本研究は、N ガデキルを N とデキルの二つの構成素に分けて考察する。本論文全体のアプローチは生成語彙論と認知意味論を融合したアプローチをとる。具体的には、デキルの多義性について認知言語学のアプローチをとり、その多義性が派生したプロセスを明らかにする。そして、必要に応じてデキルのイメージ・スキーマで説明する。次に、デキルという動詞の意味構造については生成語彙論（Generative Lexicion）のクオリア構造（Qualia Structure）を用いてデキルの意味構造を規定するが、このクオリア構造では百科事典的知識も記載されるので、認知言語学的には有意義なものである。また、N ガデキルという動詞句の多義性について研究するが、具体的には、NINJAL-LWP for BCCWJ というコーパスによって「N ガデキル」のデータを集め、その N についてクオリア構造を用いて意味分析を行う。最後に、N ガデキルという句レベルでは解決できない多義性の問題は構文レベルで改めて考察する。

本論文はまず、第 1 章では先行研究を概観する。次に、第 2 章ではデキルの多義性などについて分析を試みる。また、第 3 章では N ガデキル文における N についてデータ収集し、モノ名詞とコト名詞に分類する。第 4 章では N ガデキル動詞句の多義性について考察し、クオリア構造により意味分析を行う。第 5 章では第 4 章で解決できないことについて構文レベルで改めて考察する。第 6 章は結論と今後の課題である。

[6] 自発とは、「あるものが、自然に、ひとりでにある状態を帯びる、あるいはあるものを対象とする現象が自然に起きる（寺村 1982）」ことである。

第 1 章　先行研究

本章で取り上げるデキルに関する先行研究は二通りに分けられる。デキルの意味を中心に考察した研究と可能表現としてデキルに言及した研究である。

前者には前田（1983）があり、小泉・船城・本田・仁田・塚本（1989）は辞典における記述である。可能表現としてデキルについて触れた研究については渋谷（1993）を取り上げる。

本章ではそれらを概観し、問題点を指摘し、本研究との接点を述べたうえで、本研究で解決すべき課題を提示する。

1.1　デキルをめぐる研究

デキルを中心とする研究は前田（1983）しか見当たらず、デキルの意味用法について記述があるのは、辞典のみであるという現状である。以下、まず前田の研究を見たうえで、辞典における記述を概観する。

1.1.1　デキルの語源：前田（1983）

前田によれば、デキルは歴史を遡れば「出で来」（以降、「イデク」と表記する）が本来の姿であり、上代から「出て来る」と現在の「出来る」、「生ずる」に近い意味で使われていた。前田の調査によると、『万葉集』においては、イデクはほぼ人や月などの具体的なモノが出てくる場合に使われている。また、中古に入っても同じように、「出て来る」と「生じる」の両方の意味の用法があると前田は述べている。中世に入り、形態的には（イ）デク（ル）、デキル、デケルという三つの形が使われるようになったが、意味的には（イ）デク（ル）は「自然とそのようになる」という意味で、デキルとデケルは人間が仏などを作るということが前提となっているそうである。

（5）a. 月がいでく。
　　b. 仏がでける。　　（ibid.：4）

近世に入ると、デクルよりもデキルのほうが優勢になり、ある動作をすることが可能であることを意味するようになった。以上、前田の調査をもとに、筆者は次の表を作成した。

（6）デキルの歴史的変化

時代	形態	意味
上代と中古	イデク	①出てくる。②生じる。
中世	（イ）デクル、デキル、デケル	①自然とそのようになる。 ②N を作るという前提で N が完成される。

時代	形態	意味
近世	デキルが優勢	①自然とそのようになる。 ②N を作るという前提で N が完成される。 ③することが可能である。

形態はやがてデキルという一つの形に合流するが、その意味は歴史の変遷に伴い、積み重なってきたと考えらえる。ただ、現代日本語におけるデキルには「出て来る」という意味がなくなっている。その証拠として、次の文はデキルに言い換えられない。

（7）a. 失物：出て来るでしょう。　（浅草寺観音籤）
　　b. 失物：*できるでしょう。

中世に入って（他の形を含めた）デキルは「自然とそのようになる」という自発的意味と、「N を作るという前提で N が完成される」という人間の意志性が関わる意味を持つようになるということは相当興味深い。前者は「おのずと然る」という人の意志性が関わらない非対格動詞と考えられる（影山 1993：194）。後者は次のような行為連鎖[7]において「作る」という動詞と意味的に対を成すと考えられる。これは、人が仏を作るという行為の結果、仏というものが無から有になる、ということを示している。

（8）　＜行為＞　→　＜変化＞　→　＜結果状態＞
　　（人が）仏を作る　　仏が形になる　　仏ができた[8]

デキルが「作る」と意味的に対応していることはすでに、日本語記述文法研究会（2009：28）で指摘されている。また、意味的に自他の対応を持つ動詞のペアにナルとスル、「死ぬ」と「殺す」があるという。

以上のことをまとめれば、デキルは行為連鎖における＜行為＞の有無により、二種類の用法に分けられ、可能を付け加えて三種類の意味用法があると考えられる。

1.1.2　辞典における記述：小泉・船城・本田・仁田・塚本（1989）

小泉・船城・本田・仁田・塚本（1989：342-343）では、意味を優先に分類した上で、その用法を記述している。筆者はそれに基づき、次の表を作成した。以下、丸括弧（）は任意項、角括弧〔〕は名詞範疇（ヒト、モノ、コト、トコ

[7] 行為連鎖（action chain）とは、人間の日常の営みを捉える考え方であり、「＜行為＞　→　＜変化＞　→　＜結果状態＞」というような関係を指す（影山 2001：5-6）。
[8] 「仏作って魂入れず」という諺があるが、「仏ができる・できた」という言い方は検索エンジンでは見つからなかった。ここでは単に前田の例文を引用しているまでである。

ロなど)、波括弧｛｝は助詞を示している。

(9) 小泉らが規定したデキルの意味と文型

意味①	**新たに子供が生まれたり、物事が生じたりする。**
文型 a.	（〔人・組織・所〕に）〔子・物・事〕ができる
例文	息子のところに子供ができた。 道路に水たまりができる。 両国の間に合意ができる。
文型 b	〔人〕は（〔人・所〕に）〔子・物・事〕ができる
例文	私は子息に子供ができた。 彼女は額にニキビができた。 先生は家に用事ができた。
意味②	**物・事が作られたり、完成したりする。**
文型 a	（〔所〕に）〔物・事〕｛が／は｝できる
例文	駅前に喫茶店ができた。 支度ができた。
文型 b	〔物〕｛が／は｝〔物〕｛で／から｝できる
例文	この机は木でできている。 水は水素と酸素からできている。
文型 c	〔物〕｛が／は｝（〔所〕で）できる
例文	お茶は静岡や京都でできる。
意味③	**あることを行う能力や資格を持っている。**
文型 a	〔人・生き物〕｛に／が／は｝〔事〕ができる
例文	母は車の運転ができる。 お前にこんなことができるわけがない。
文型 b	〔人・生き物〕｛に／が／は｝$\boxed{\text{文}}$ことができる
例文	関係者以外はここに入ることができない。
意味④	**人柄が円満である。**
文型	〔人〕は（〔性格〕が）（$\boxed{\text{副詞的要素}}$）できている
例文	あの家の奥さんは人間がよくできている。

すでに見たように、意味①と②は「動作主が N を作るという前提」で異なっている。本研究では前者を＜生起＞、後者を＜完成＞と呼ぶ。意味③は本研究で言う＜可能＞である。

このように、小泉らはデキルの意味を体系的に捉えている。その記述もどのような名詞句が必須か、どの格助詞か副助詞でマークされるか、極めて厳密に網羅的に記述している。

ところが、小泉らの記述に問題点が二つある。まず、場所格を全て任意項に

する点である。確かに意味①で場所格があってもなくてもよいという点で任意項とみなしてもよいが、意味②の文型 c は場所格が欠けると、「?お茶はできる」という座りの悪い文になる。もう一つの問題点として、序章で問題提起したように、＜可能＞を表す場合、ガ格名詞句は必ずしもコト名詞ではない点が挙げられる。

1.1.3　まとめ

これまでデキルをめぐる歴史的研究と辞典における記述を見てきた。本研究では小泉らがまとめたデキルの意味を踏襲し、「N ガデキル」という形式に絞り、その名詞について改めて考察を試みる。本研究で「N ガデキル」という形式に絞る理由は、いずれの意味でもガ格名詞句が欠けてはいけない成分であり、デキルという動詞との緊密性が見られるからである。他方、ハでマークされる名詞句は、次のニ格名詞句と同じように、あってもなくてもよいという点で付加部（adjunct）と考えられる。つまり、＜生起＞か＜完成＞か＜可能＞かは「N ガデキル」という形式ができた時点で意味が指定されているということである。

（10）a.（私は）（子息に）子供ができた。
　　b.（彼女は）（額に）ニキビができた。
　　c.（先生は）（家に）用事ができた。
　　d.（駅前に）喫茶店ができた。
　　e.（母は）車の運転ができる。

意味が N ガデキルという段階で決められるということは、「彼は」をハでマークされる名詞句とし、テンスをタ形に統一すれば、更にはっきり見えてくる。

（11）a. 彼は子供ができた。
　　b. 彼はニキビができた。
　　c. 彼は用事ができた。
　　d. 彼は論文ができた。
　　e. 彼は昔、車の運転ができた。

このように、「N ガデキル」という形式で＜生起＞（a～c）、＜完成＞（d）と＜可能＞（e）の意味を成すことがわかる。本研究では N ガデキルを後接する文のことを「N ガデキル構文」と呼ぶ。

では、N ガデキル構文がどの意味を表すかはどのように決められるのであろうか。おそらく、名詞が意味を指定するのだと考えられる。そこで、本研究は N ガデキ構文に見られる多義性について名詞を考察することで明らかにしたい。

但し、小泉ら（1989）における意味④は「N ガデキル」という形式ではなく、「N ハデキ（テイ）ル」という形式であるため、本研究では取り扱わないことにする。同様に、意味②の文型 b と c は必ず「N ハ／ガ N カラ／デデキル」という形式であるため、考察対象としない。

1.2　可能表現としての N ガデキル：渋谷（1993）

渋谷は可能表現について全般的に研究している。以下、N ガデキルに言及したところを取り上げ、可能表現の実態を概観する。

1.2.1　可能文の形式

渋谷は可能を表す形式を次のようにまとめている。

（12）（A）可能動詞：書ける、見れる
（B）動詞の未然形+助動詞（ら）れる：書かれる、見られる
（C）デキル
・N+デキル：勉強できる
・N+ガ+デキル：勉強ができる
・V ル+ガデキル：勉強することができる
（D）動詞の連用形+得る：勉強し得る　（ibid.：6）

（C）に注目すると、渋谷はサ変動詞の語幹を名詞として捉えている。この記述では、次の例におけるサ変動詞ではない語が「～ができる」と共起し得る理由について、説明が可能になる。

（13）a. 私は日本語ができる。
b.*私は日本語をする。

つまり、「～ができる」はサ変動詞の語幹だけと共起するわけではなく、名詞と共起するということである。

1.2.2　可能文が成立する要因

可能文は内容に制限がある。まず、可能文における動詞は従来、意志動詞でなければならない[9]と言われているが、渋谷は意志・無意志という二分法よりも、原則的に森山（1988）の「主体性」という考え方を採用している。「主体性」とは、「動作がその表す動きを発生・成立させるための、主語名詞の動き

[9] 可能動詞になる動詞について、寺村（1982）、蘇（1990）、井島（1991）では「意志動詞」、井上（1976）では「非状態動詞」、益岡（1987）では「非状態述語」、益岡・田窪（1992）では「動態動詞」といったように、学者によって使う言葉も異なる。

に対する自律的な関与の度合い（森山 1988：201）」ということである。その観点から考察すれば、可能文は次のようにいくつかの段階に分けられる。a は最も主体性が高く、d まで主体性が徐々に減っていき、e と f は主体性がないので、可能文は成り立たないとしている。

（14）a. 人間動作主段階　［狭義意志性］
例：太郎は 100 メートル 10 秒で走ることができる。
b. 有情物動作段階　［動物意志性］
例：虎は 100 メートル 6 秒で走ることができる。
c. 経験者段階
例：人は一生に一度、いい友にめぐりあうことができる。
d. 自発的発生段階
例：この車は 400 メートル 12 秒で走ることができる。
e. 自然現象
*雨は降ることができる。
f. 仮定不可能なもの
*春は来ることができる。　（渋谷 1993：8）

次に、可能文の内容は、常に話し手が期待する動作でなければならない、という主張である。この、話者が期待するか否かということは、本研究では「望ましさ」と呼ぶ。

（15）a. 人は一生に一度いい人に出会うことができる。
b.*人は一生に一度嫌な奴に出会うことができる。　（ibid.：9）

ただし、渋谷は話し手が期待するか否かということは動作主性と連動していのが一般的であると指摘している。例えば、次の文では動作主性が低いため非文となる。

（16）*私は不注意から道の真ん中に落ちることができた。　（ibid.：9）

以上をまとめれば、可能文が成立するには主体性と望ましさが揃わなければならないということである。

1.3　先行研究の問題点と本研究の課題

これまで、デキルに関する先行研究を概観してきたが、デキルを中心とした研究は前田（1983）のみであり、デキルの意味用法を記述したものは辞典のみに限られている。また、可能表現として N ガデキルについて言及した研究は、

渋谷（1993）を取り上げた。本研究では、可能表現のみならず、「N ガデキル」という形式で表しうる諸意味について考察したい。

1.3.1　先行研究からの示唆と問題点

まず、先行研究から可能文であるか否かは、意志性、主体性と望ましさの有無から判断がつくという示唆を得た。

次に、辞典類の先行研究を見たが、いずれでも「N ガデキル」という形式が可能を表す場合、N がコト名詞であるとされている。しかし、「日本語ができる」や「ピアノができる」といったモノ名詞について言及したのは、序章で触れた富田（1991）のみである。また、「N ガデキル」という形式を中心にその意味用法を体系的に捉えようとする研究は未だに見受けられない。そこで、本研究では、N ガデキル構文について考察する。

1.3.2　本研究の課題

前節に挙げた問題点を踏まえて、本研究で解決すべき課題は以下に挙げる。

（17）a. デキルの多義性と意味構造
　　b. N ガデキル構文において、どのような場合に生起、完成、可能を表すのか。

方法として、N ガデキルが名詞「N」と動詞「デキル」という二つの構成素に分けられるため、まず第 2 章でデキルからその多義性と意味構造を考察し、第 3 章で名詞について考察した上で、第 4 章でこの二つの構成素が結合した「N ガデキル動詞句」を見ることとする。また、第 5 章では、構文レベルで、第 4 章で解決できない N ガデキル構文について改めて考察する。

なお、N ガデキルにおける N は、基本的に語単位の N に絞るが、説明や記述に当たり、修飾語句を受けた NP を考察対象とする場合もある。

第 2 章　デキルの文法的振る舞いと意味

本章では、動詞のデキルを中心に、その文法的振る舞い、多義性と意味構造を見る。

2.1　デキルの文法的振る舞い

本節では＜生起＞、＜完成＞、＜可能＞の三つの意味の文法的振る舞いについて考察する。文法的振る舞いは構文レベルで考察すべきかもしれないが、本研究では、文法的振る舞いは主に動詞に由来すると考える[10]。

前章では、（11）に示したように、この三つの意味は、言語形式が同一である場合があることを見た。しかし、N ガデキルの意味が異なれば、前に来るニ格名詞句も異なってくる[11]。そこで、本節では、ニ格を中心にデキルの文法的振る舞いについて考察したい。

2.1.1　格と意味役割

これまでガ格名詞句やニ格名詞句などについて書いてきたが、いまだに格の定義について触れていないため、ここで格を定義し、各格名詞句が担う意味役割についても述べたい。

格が何であるかは言語研究の大きな課題であるが、簡単に言えば述語と名詞句との関係である（蘇 1990）。名詞句とは名詞に格助詞が付いたひとまとまりのことである。格の表し方は言語によって異なるが、日本語の場合、格助詞で表すことが主となる。日本語において、ガ格名詞句は主格、ヲ格名詞句は対格、ニ格名詞句は与格といったように呼ばれている。しかし、本研究は主格、対格、与格と呼ぶのではなく、形でわかるように「ガ格名詞句」などの名前で呼ぶ。

各格名詞句は必ず何等かの意味役割（semantic role）（または主題役割 theta role）を担っている。意味役割には一般的に次のようなものがある。

（18）a. 動作主（agent）：意図的に動作を行う
　　b. 経験者（experiencer）：ある動作や状態を非意図的に経験する
　　c. 着点（goal）：動作の着点
　　d. 起点（source）：動作の起点
　　e. 場所（location）：動作が行われる場所か変化が起こる場所
　　f. 対象（theme）：動作を受けるあるいは自発的に動作を行う

[10] この考え方は仁田（1997）、仁田（2010）の語彙的統語論の考え方による。
[11] この「N ガデキルの意味が異なれば、ニ格名詞句も異なってくる」という考え方に特に注目されたい。本研究は N ガデキルの段階で生起、完成、可能の意味が指定されているという立場にある。一方、「ニ格名詞句が異なれば、文全体の意味が異なる」という考え方は本研究と真逆の立場であり、意味はニ格名詞句に指定されるということになる。

デキルにおけるガ格名詞句は、いずれの意味でも対象の意味役割を担うと考えられる。また、論文の先取りになるが、本研究で使う意味役割は動作主、経験者、場所、対象のみである。

このように、格と意味役割について述べてきたが、2.1.2 節では N ガデキルに前接する名詞句、即ちニ格名詞句について見ていく。

2.1.2　デキルのニ格名詞句と場所

先行研究の小泉ら（1989）がまとめたように、生起、完成、可能のニ格名詞句は異なっている。以下、（9）を部分修正して再掲する。

（19）a.（〔人・所〕に）N ができる　　＜生起＞
　　b.（〔所〕に）N ができる　　＜完成＞
　　c.〔人・生き物〕に N ができる　　＜可能＞

上記のように、生起の場合、ニ格名詞句はヒトとトコロである[12]。しかし、このヒトというのは、「太郎が二郎を殴る」における「太郎」のような動作主ではなく、「先生に用事ができた」の例に見られるように単に生起した場所である。つまり、ヒトを生起した場所として捉えるということである。

N ガデキルが完成を表す場合、次のように、ニ格名詞句は必ずトコロであり、ヒトが来ることはない。

（20）a. テーブルの上に料理ができている。
　　b. 駅前に喫茶店ができた。　　（＝小泉ら 1989 から）
　　c. ?私に料理ができている。
　　d. *兄に喫茶店ができた。

要するに、ヒトをトコロとして捉えられるのは、N ガデキルが生起を表す場合のみである。更に、完成の場合、次の樹形図[13]に示すように、デキルが動詞の「作る」と意味的に対を成す[14]ため、動作主は統辞構造に現れない。そのため、b の NP_1 は空白にしておく。

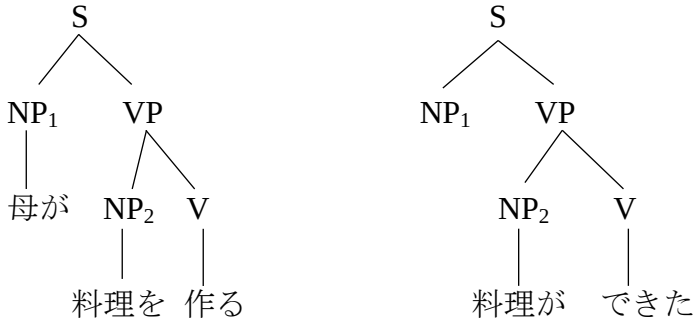
---

[12]（9①a）に書いた「組織」をトコロとして扱うことができるので、ここではヒトとトコロのみ記述する。また、小泉らでは漢字を使っているが、ここでは、名詞範疇としてヒト・トコロというようにカタカナで表記する。名詞範疇については 2.3.1 で詳しく論じる。

[13] この樹形図は影山（1996：19）を参照にしたものである。「作る」は他動詞なので、（21a）の統辞構造をしているのに対し、デキルは「作る」と意味的に対を成すので、非対格自動詞の統辞構造をしていると考えられる。

[14]「焼くー焼ける」や「壊すー壊れる」などのように、形態的にも意味的にも対を成しているが、「作るーできる」の場合は、意味的に対応しているだけである。同様な意味対は、「殺すー死ぬ」が挙げられる。

（21）a. [$_S$ 母が[$_{VP}$ 料理を作る]]　b. [$_S$[$_{VP}$ 料理ができた]]



また、N ガデキルが可能を表す場合、ニ格は必ず有情物である。この有情物は能力の所有者[15]であり、常に助詞ニが伴う。

以上より、可能だけが場所を表す名詞句が欠けているように見える。では、場所を表す場合はどうなるのであろうか。場所を表す場合はデ格名詞句で表すのである。場所を表すデ格名詞句のみならず、下記のような「この時代で」という時間副詞句などが伴われる可能文は「状況可能」と呼ばれている。状況可能については第 5 章で詳しく論じる。

（22）この時代でこの場所で何ができるだろう。
（http://www.utamap.com/showkasi.php?surl=k-170517-087）

ここまで、デキルの諸意味のニ格名詞句を中心に見てきたが、まとめれば次のようになる。生起を表す N ガデキルは、ニ格名詞句にヒト・トコロを指定し、ニ格名詞句の意味役割は場所である。次に、完成を表す N ガデキルはニ格名詞句にトコロを指定し、ニ格名詞句が場所の意味役割を担う。最後に、可能を表す N ガデキルはニ格名詞句にヒトを指定し、ニ格名詞句が能力の所有者である。場所を表す場合、デ格名詞句を用いる。

このように、N ガデキルの意味が異なれば、ニ格名詞句と場所を表す格も異なってくる。このことが、筆者が用例を取り扱う際の、意味判断の基準となる。

2.2　デキルの多義性

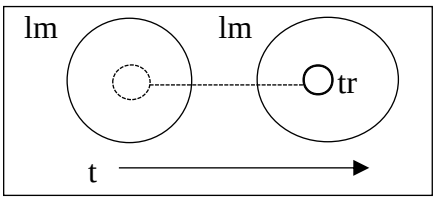
本節では、デキルの多義性について考察する。前章で見たように、本論文で考察するデキルの意味は＜生起＞、＜完成＞、＜可能＞である。この三つの意味についても 1.1.1 節でその歴史的変化を見た。本節では認知言語学のアプローチを用いてデキルの意味のネットワークを明らかにする。

デキルは「無から有になる」という生起の意味が原義である。そして、歴史の流れに伴い、デキルが完成と可能などの意味も表すようになる。生起のイメ

[15] 益岡（2000：238）では、「属性の持ち主」といえる点で「属性主」と呼んでいる。但し、これはあまり見受けられない呼び方であるため、本論文では使わない。

ージ・スキーマは次のように図示できる。

（23）デキル$_{<生起>}$のイメージ・スキーマ[16]



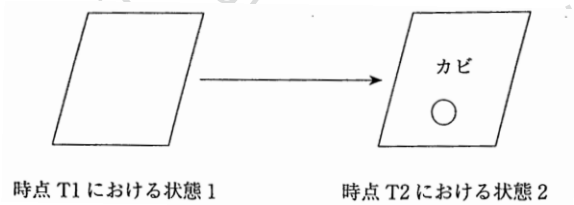
外円はランドマーク（landmark : lm）であり、N ガデキル文のニ格に相当する。太線の〇はトラジェクター（trajector：tr）[17]であり、N ガデキル文のガ格名詞句に相当する。最初のランドマークには点線の〇があるが、これはまだ生起していないトラジェクターを示している。点線の〇と太線の〇の間の点線は同一のものであることを示し、矢印は時間の流れを示している。要するに、このイメージ・スキーマは lm に何もない状態から tr が生じるということを示しているのである。

このスキーマが事例化した、「ニキビができる」のような文における、モノの生起がプロトタイプであり、デキルは「妊娠」か「誕生」（拡張義 1）、完成（拡張義 2）、可能（拡張義 3）も表し得る点で、プロトタイプからの意味の拡張が見られる[18]。

---

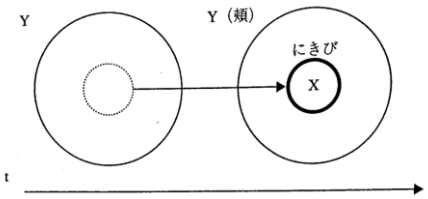
[16] イメージ・スキーマの描き方として、筆者は定延（2012）と岡（2003）を参照にしている。定延（2012：109）では「カビが生えた」といったようなナル的なデキゴトは次のようなイメージ・スキーマを持つと述べている。

（i）



一方、岡（2003：131）では、「頬にニキビができた」という文を例に「Y に X ができる」文は次のようなイメージ・スキーマを持つと書いている。

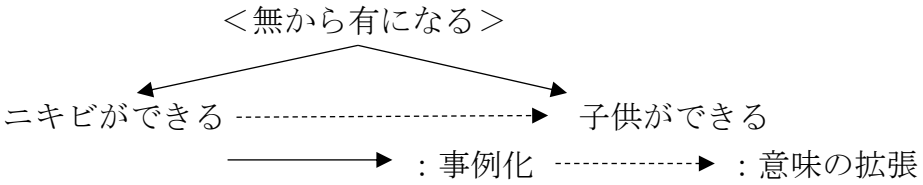
（ii）



[17] トラジェクターとは言語表現において最も際立つものであるので、典型的には主語がこれに当たる。一方、ランドマークは、トラジェクターの次に際立つものであるので、典型的には目的語がこれに当たる。（河上 1996）

[18] デキルにはさらに多くの意味用法があるが、ここでは「子供ができる」という＜生起＞、＜完成＞、＜可能＞の三つに絞る。

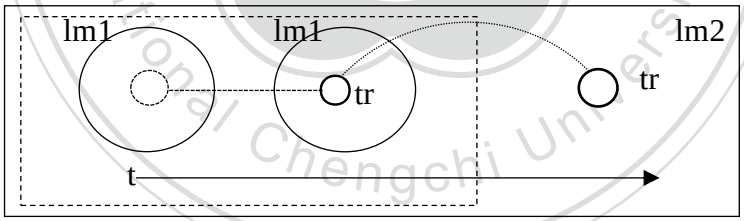
（24）デキルの意味[19]



スキーマ的意味：無から有になる
プロトタイプ的意味：ニキビができる。
拡張義 1：子供ができる。
拡張義 2：仏像ができる。
拡張義 3：車の運転ができる。

まず、拡張義 1 の「子供ができる」におけるデキルの意味について見る。「子供ができる」というのは「妊娠」と「誕生」の二つの意味がある。いずれの場合も、子供がトラジェクターであるが、ランドマークは違う。前者の場合、女性のお腹がランドマークであるのに対し、後者の場合、この世界がランドマークである。つまり、ランドマークが二つあると想定し、次のように図示できる。点線は lm1 における tr と lm2 における tr が同一であることを示している。破線は妊娠の場合の認知範囲である。そして、lm2 は実線の四角であり、これが「世界」を表示するため、lm1（母体）も lm2 の中にある。誕生の場合、lm1 の中にある tr が lm1 を出て lm2 に現れる。

（25）「子供ができる」のイメージ・スキーマ

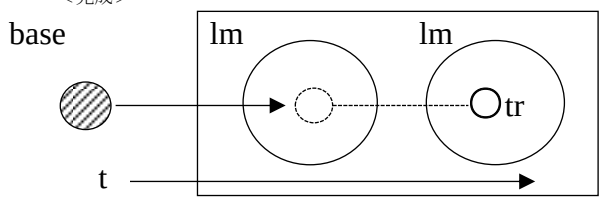


次に、拡張義 2 の「仏像ができる」は、「動作主が仏像を作る」ということが前提となっている＜完成＞の意味である。この前提は、認知言語学では「ベース（base）」と呼ばれ、「語の意味を生む際にその前提として概念化されるもの」（河上 1996：20）である。ベースを考慮に入れて、完成は次のように図示できる。左側の斜線の〇は変項であり、ここでは動作主である。変項から点線の〇までの矢印は関係であり、ここでは動作主が何かを作るという「作り手と作られる側」の関係を示している。この動作主と関係はベースであり、言語形式に現れない前提である。そして、実線の四角は「仏像ができる」という言語

[19] この書き方は吉村（2004：99）を参照にしている。但し、吉村では、プロタイプ的意味と周辺的意味としているが、「子供ができる」、「仏像ができる」と「車の運転ができる」などはよく使われている意味なので、「周辺的意味」となれば、よく使われない意味となる。それを避けるため、「拡張義」としたのである。

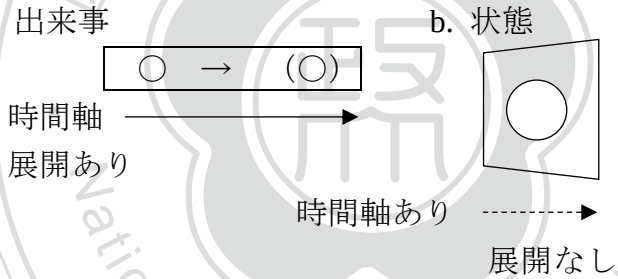
形式の認知範囲である。つまり、完成は lm に何もない状態から tr があるという状態になることに注目するのである。このイメージ・スキーマから見れば完成が生起から派生した意味であることが裏付けられる。

（26）デキル$_{<完成>}$のイメージ・スキーマ



最後に、拡張義 3 の「車の運転ができる」について、これは可能の意味を表している。可能は、生起と完成のような時間の流れにおける出来事と異なり、時間的展開のない状態である。この＜可能＞という意味はどのように生起から派生したのであろうか。眞野・影山（2009）によれば、出来事には時間軸があり時間による展開もある一方、状態には時間軸はあるものの展開がないという。そして、出来事と状態はそれぞれ次のように図示できる。

（27）a. 出来事　　b. 状態



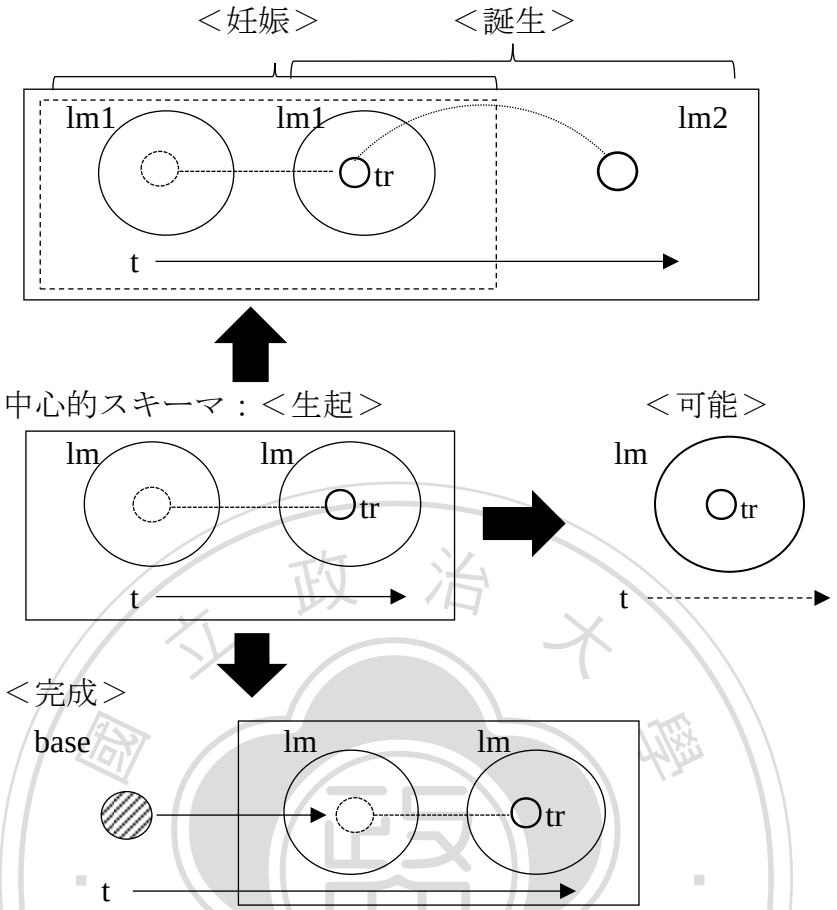
（ibid.：49）

この考え方を踏まえた上で、＜可能＞のイメージ・スキーマは、生起した状態を凍結したと考えられ、次のように想定できる。破線の矢印は展開のない時間軸を表示する。

（28）デキル$_{<可能>}$のイメージ・スキーマ

以上のことをまとめ、デキルの意味のネットワークを次のページに掲げる。上記のように、デキルは＜無から有になる＞という生起の意味から＜妊娠＞か＜誕生＞の意味、更に、＜完成＞、＜可能＞の意味へ派生していくのである。

（29）デキルの意味のネットワーク



2.3　クオリア構造[20]

従来、意味論研究には主に形式意味論（formal semantics）[21]と認知意味論（cognitive semantics）がある。形式意味論では命題内容の真偽を問題とし、辞書的知識のみ扱うのに対し、認知意味論では辞書的知識と百科事典的知識[22]を区別しない。つまり、「辞書＝百科事典」という考え方をしている（影山 2005：67-69）。両者は両極に据わるように対立していながら、「前者は言葉の意味をあまりにも狭く限定しすぎるし、逆に、後者は言葉の意味をあまりにも広く捉えすぎる」（ibid.：68）。そこで、本研究では影山（2005）が提案した第三の立場、即ち形式意味論と認知意味論の中間の考え方を採る。この立場では「百科事典的知識にも言語学的に有意義なものを認める」（ibid.：69）。

この考え方を踏まえた上で、本研究では、動詞と名詞に適用するクオリア構造（Qualia Structure）を用いて意味分析をしたい。クオリア構造は、Pustejovsky

[20] 影山（1999）では「特質構造」と呼ばれている。
[21] 形式意味論について詳しくは杉本（1998）をご参照のこと。
[22] 影山（2005：67）は辞書的知識と百科事典的知識を次のように規定している。
a. 辞書的知識＝言葉（語彙）を用い理解する上で必要な知識であり、すべての話者について成立する。
b. 百科事典的知識＝その語が表す指示対象に関する知識であり、個々の話者や文化、社会において 100%成立するとは限らない。

（1995）が提唱した生成語彙論（Generative Lexicon）で、既存の単語の意味を辞書で記述するのみならず、既存の単語に基づいて新しい意味や用法が作られること、すなわち語彙の創造性を体系的に説明しようとするものである[23]（影山 2011）。Pustejovsky（1995）の生成語彙論では、レキシコンの記述は｛A(rgument structure)（項構造）, E(vent structure)（事象構造）, Q(ualia strauctureq)（クオリア構造）, L(exical conceptual paradigm : LCP)｝という四つの階層からなっている。本研究では LCP の代わりに語彙概念構造を取り入れる。

クオリア（Qualia）とは「語彙項目に関連した、その語を最もよく説明する属性や事象の集合[24]」（小野 2005）である。クオリア構造は品詞を問わず四つの役割に分けられている。しかし、Pustejovsky（1995）が提示した動詞のクオリア構造には不明な点が多く、影山（2005）と小野（2005）がそれを修正している。まず、クオリア構造の説明を兼ねて影山が修正したクオリア構造を見る。

（30）クオリア構造

a. 構成役割（Constitutive）＝その動詞の語彙概念構造（LCS）
b. 形式役割（Formal）＝その動詞が表す事象のタイプ
c. 目的役割（Telic）＝その動詞が含意する行為の目的・機能
d. 主体役割（Agentive）＝その動詞表現が成立するための前提、場面や背景状況　（影山 2005:83-84）

まず、構成役割とは、ある物とその構成素との関係[25]である。動詞の場合、「その動詞の意味を構成する種々の意味述語とその意味的な項を構造化して表示する語彙概念構造」（影山 2005：84）である。

次に、形式役割とは、より大きなドメインにおける、物を区別する属性である[26]。動詞においては、ある動詞が他の動詞と区別される特徴の中で最も重要なのは事象タイプである（ibid.：84）。より簡単に言えば、動詞か名詞を問わず、形式役割というのは分類である[27]。Pustejovsky（1995）が規定した事象タイプには状態（state）、過程（process）、推移（transition）がある。Pustejovsky は事象構造を独立させて記述しているが、影山の修正では事象構造が形式役割に入っている。

また、目的役割とは、モノの目的と機能である[28]。動詞の場合、行為の目的や行為の機能である。具体例を挙げれば、「洗濯物を乾かす」ことは「洗濯物

[23] 本研究におけるクオリア構造は小野（2005）と影山（2005）（2007）（2011）を参照したものであるため、Pustejovsky (1995)と異なる部分があることは予めお断りしておく。
[24] “A set of properties or events associated with a lexical item which best explain what word means.” (Pustejovsky 1995:77)
[25] “the relation between an object and its constituents, or proper parts.” (Pustejovsky 1995:85)
[26] “That which distinguishes the object within a larger domain.” (ibid.)
[27] そのためか、形式役割は影山（2011）では「外的分類」と訳されている。
[28] “Purpose and functions of the object.” (ibid.:86)

が乾く」ことが目的である。

最後に、主体役割とは物の産出に関わる要因[29]である。動詞の場合、その出来事や行為が成立するための前提（presupposition）またはフレーム（簡単にいえば、場面や背景状況）である。

以上、影山（2005）が修正したクオリア構造を見てきたが、補充として、動詞における起因事象（causing chain）と結果事象（result chain）もクオリア構造で指定される（小野 2005：34-35）。例えば、「乾かす」の意味として、[[x ACT ON y] CONTROL [y BECOME [y BE AT DRIED]]]という使役構造が想定されるが、この場合、上位事象の[x ACT ON y]は主体役割によって指定され、下位事象の[y BECOME [y BE AT DRIED]]は目的役割によって指定される。

繰り返し述べるが、本研究でクオリア構造を使うのは、同時に動詞と名詞の意味分析ができるからである。更に言えば、動詞句の意味はその構成素である動詞と名詞の共合成（cocomposition）やタイプ強制（type coercion）などの意味生成プロセスにより生成される、というように分析できる。共合成とタイプ強制については 4.1 節で詳しく見ることにする。

なお、本研究で使うクオリア構造は基本的に影山（2005）が修正したバージョンであるが、小野（2005）が修正したものも混ざっている。また、筆者が修正した部分もある。それを踏まえ、次からクオリア構造を構成する項構造、事象構造と語彙概念構造を見た上で、デキルのクオリア構造を規定したい。

2.3.1　項構造と名詞範疇

項とは述語がとる名詞句のことである。Pustejovsky（1995）のクオリア構造で使われている項構造は、「項構造と統辞構造との対応関係を一般的な項連結（argument linking）の規則によって原理的に捉えようとする理論ではない」（小野 2005：41）。Pustejovsky が使っている項構造は、統辞構造上あってもなくても良い要素―デフォルト項（default argument）―まで記述する。例えば、「払う」の項構造は次のように想定できる。以下、「買い手（x）が（商品（w）のために）売り手（z）にお金（y）を払う」ということの説明になる。

（31）「払う」の項構造
ARG1＝x：buyer
ARG2＝y：money
ARG3＝z：seller
D-ARG＝w：goods

本研究では Pustejovsky が言うデフォルトの存在を認めるが、項構造の記述において、項連結により統辞構造へ投射する記述の仕方を中心とする。つまり、

[29] “Factors involved in the origin or “bringing about” of an object.” (ibid.)

本研究は表層の言語形式を中心にするが、意味の考察に応じてデフォルト項の有無を確認する。

また、Pustejovsky は項構造の記述に“human”“physical obeject”などを使っている。これは、上記の売り手、買い手などよりも一般的な名詞範疇であり、記述の画一化に有意義なものとみなす。そのため、名詞の項構造（および形式役割）では、「モノ名詞、コト名詞、ヒト名詞、トコロ名詞」というように表示する。また、モノ名詞なのかコト名詞なのかは本研究の課題であるが、以下、デキルの項構造を想定するに当たり、モノかコトは空白にしておく。

統辞上、外項（external argument）は他動詞句の主語に当たり、動詞との結びつきが弱い。一方、内項（internal argument）は他動詞句では目的語にあたるが、非対格自動詞句では主語であり、動詞との結びつきが強い。また、外項と内項は通常、X と Y で表示される。

さて、以上で項と名詞範疇について触れたが、次からデキルの項構造を規定したい。まず、デキルの項構造を次のように想定する。デキルの項構造は項連結により統辞構造に投射する。ニ格名詞句は場所項なので、トコロの名詞範疇を有する。また、ニ格名詞句を任意項とみなすため、括弧をつける。

（32）デキル$_{<生起>}$の項構造：

項構造：	＜（$Z_{トコロ}$）＜Y＞＞
	↓　　↓
統辞構造への投射：	（顔に）ニキビが

次に、完成の場合、2.2.2 節で既述したように、「作る」と意味的に対応するため、対を成す非対格自動詞と同様に外項がなく、内項のみ現れる。

（33）デキル$_{<完成>}$の項構造：

項構造：	＜Y＞
	↓
統辞構造への投射：	料理が

最後に、可能の場合は、ヒト（意味役割で言えば、経験者）という外項と内項がある。但し、外項は任意項とみなすため、括弧をつける。

（34）デキル$_{<可能>}$の項構造

項構造：	＜（$X_{ヒト}$）＜Y＞＞
	↓　　↓
統辞構造への投射：	私に車の運転が

以上で、デキルの項構造を想定した。ガ格名詞句の名詞範疇、即ちモノ名詞かコト名詞かは第 4 章で詳しく見ることにする。次節から本研究で取り込む事象のタイプを規定する。

2.3.2　事象のタイプ

前述したように、形式役割というのは分類である。動詞の場合、動詞の分類となる。したがって、事象のタイプというのは動詞の分類といってもよい。そのため、Pustejovsky（1995）では独立させて記述している事象構造は、影山（2005）が修正したクオリア構造では、形式役割で指定されているのである。

Pustejovsky（1995）が規定している事象のタイプは状態（state）、過程（process）と推移（transition）の 3 つである[30]。しかし、本研究では、記述の統一を求めるべく、Pustejovsky が規定した事象のタイプを採用せず、日本語学でよく使われている Vendler（1957）の動詞四分類に合わせた事象のタイプを提案したい。

以下、Vendler は動詞を次のように分類している。これらの動詞は完了性（telicity）で異なっている（影山 1996：42-43）。

（35）A. 活動動詞：run, walk, swim, push a cart, drive a car
B. 達成動詞：paint a picture, push a cart to the supermarket…
C. 到達動詞：recognize, spot, find, lose, reach, die…
D. 状態動詞：know, believe, have, desire, love...

まず、活動動詞は、開始時点を持つ行為を表す動詞のことであり、終了時点を持たない、即ち不完了（atelic）なので、ing と共起すれば動作の進行を表す。例えば、walking は「歩く」という動作の進行である。日本語の場合、テイルと共起すれば動作の進行を表す。

次に、達成動詞（厳密には「達成動詞句」）は、活動動詞が名詞句と結合して成り立つものであり、開始時点と終了時点という二つの成立点を持っている。上に挙げた例で言えば、“push a cart”は活動動詞句であるが、“to the market”と結合すれば、終了時点を持つようになり完了（telic）になる。“pushing a cart to the market”は、動作の進行も表せば、“to the market”という目的地に達していることも表せる。日本語も同様である。

また、到達動詞は、何かの状態に至るという行為の終了点を重点的に述べる動詞であるため、完了である。一方、時間の幅はないため、ing と共起すれば、その状態に近づくことを表す。具体例を挙げれば、dying は死に近づくことを表している。但し、日本語の場合、到達動詞がテイルと共起すると、その状態

[30] これらを Vendler（1957）の動詞四分類に当てはめていえば、状態は状態のままであるが、過程は活動（acitvities）、推移は到達（achivements）と達成（accomplishments）を一括している。

に近づくことではなく、結果の持続を表す。例えば、「死んでいる」は死んだ後の状態が持続することを表している。

最後に、状態動詞は、時間的な制限などに縛られない恒常的・均質的な状態であるため、開始時点と終了時点を持たないので、不完了である。その上、“I’m knowing“と言わないように ing と共起しえない。日本語の場合、「いる」などの状態動詞もテイルと共起しえない。なお、日本語では、「わかる」は状態動詞ではなく、到達動詞である。

以上のことは、完了性と動作の進行を表し得るか否かという二点で、次のようにまとめることができる。

（36）

	活動	達成	到達	状態
完了性	―	＋	＋	―
動作の進行	＋	＋	―	―

そして、Vendler の四分類を行為連鎖に当てはめれば、次のようになる。下記のように、活動動詞は行為を表し、状態動詞は結果状態を表している。到達動詞は＜変化+結果状態＞を表し、達成動詞は＜行為+変化+結果状態＞を表している。つまり、達成動詞が表す事象は活動と到達から組み合わせた複合事象ということである。

（37）行為連鎖に当てはまる動詞四分類

＜行為＞　→　＜変化＞　→　＜結果状態＞

活動　　状態

到達

達成　　（影山 2009：37）

したがって、本研究が取り入れる事象なタイプは、活動、状態、到達と達成の四つにする。ただし、「到達」という名前では具体的にどういう事象なのか漠然としている恐れがあるため、「状態変化」と呼ぶ。

（38）本研究で使う事象の 4 タイプ

① 活動、② 状態、③ 状態変化、④ 達成

このように、本研究におけるクオリア構造で取り入れる事象のタイプを＜活動＞、＜状態＞、＜状態変化＞、＜達成＞の四つに規定した。次節からはデキ

ルの語彙概念構造を規定していきたい。

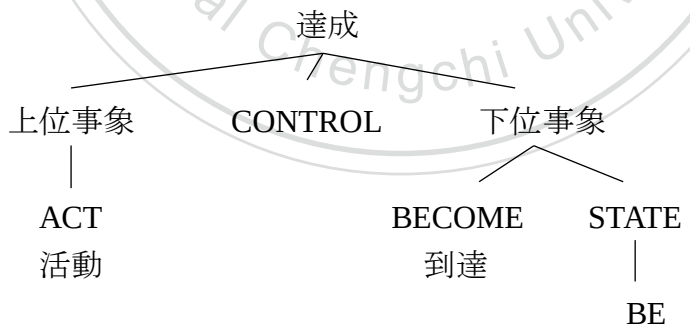
2.3.3　語彙概念構造

語彙概念構造は、述語分解（predicate decomposition）によって意味を分析する方法である（影山 1996）。本研究で導入する語彙概念構造は影山（1996）（1999）によるものである。影山（1996：84）（1999：90）によれば、語彙概念構造の基本形は次のようになる。2.2.1 節で見たように x, y, z は変項を表すが、通常、x は統辞上の外項、y は統辞上の内項である。z は状態であるが、静止位置も状態の一種と考えられる。但し、z の記述は状態と位置から一つのみ指定できる。つまり、状態と位置を両方記述することはできないのである。

（39）A. 状態・位置：[$_{\text{STATE}}$ y BE AT-z]
B. 状態変化・位置変化：[$_{\text{EVENT}}$ y BECOME [$_{\text{STATE}}$ y BE AT-z]]
C. 活動：[$_{\text{EVENT}}$ x ACT (ON-y)]
D. 使役：[$_{\text{EVENT}}$ x (ACT(ON-y))] CONTROL [$_{\text{EVENT}}$ BECOME [y BE AT-z]]

外項 x を C 持つ活動は「上位事象（super-event）」、内項 y しか持たない A 状態・位置と B 状態変化・位置変化は「下位事象（sub-event）」と呼ばれている。D 使役は上位事象と下位事象から合成した事象である。ここで、使役としているものは、文法項目の使役「（さ）せる」ではなく、「上位事象が下位事象の成立を直接的に左右する（影山 1996：86）」ことである。これら A～D はちょうど Vendler の動詞四分類に対応している。つまり、状態動詞は A、到達動詞は B、活動動詞は C、達成動詞は D の構造をしているということである。

（40）



（影山 1996：90）

デキルが Vendler の動詞四分類に当てはめてその LCS が想定できると考えられる。では、デキルは Vendler の動詞四分類のいずれに当てはまるのであろうか。生起と完成のデキルは、動作性を保ち、前者は無から有にナルという状態変化、後者は何らかの事象が終了時点に達するという状態変化であるため、いずれも到達動詞であると考えられる。また、可能を表すデキルは状態動詞であ

ると考えられる。

次に、デキルの LCS を想定しながら項構造への連結と統辞構造への投射で具体例により検証を行う。まず、生起を表すデキルは到達動詞の LCS を持つと考えられるが、無から有になるという状態変化であるため、次のように BECOME の前には変項がないことに注目したい。これは、本来ある物が状態変化する場合には、BECOME の前に y があるが、デキルを含めた出現・発生系の動詞の場合、y は本来ないものなので、BECOME の前に表示されないのが理にかなっている[31]。また、繰り返し述べるが、変項の z は状態と位置のいずれしか表さないので、次に示すように、ニ名詞句がある場合に項構造に $Z_{トコロ}$ という項があるが、それがなければ、LCS の z は WORLD となる。

（41）デキル$_{<生起>}$の意味構造

語彙概念構造：	[$_{EVENT}$ BECOME [$_{STATE}$ y BE AT-z]]
項構造：	＜（$Z_{トコロ}$）＜$Y_{モノ}$＞＞
統辞構造への投射：	顔にニキビが

また、完成を表すデキルは生起と同じように、到達動詞の LCS を持つということに問題はない。但し、完成ということの成立点と思われる z は、生起と異なり、次に示すように FINISHED と想定する。勿論、z がどのような状態なのかは共起する語によって異なるので、まとめでは z のままにしておく。

（42）デキル$_{<完成>}$の意味構造

LCS：	[$_{EVENT}$ y BECOME [$_{STATE}$ y BE AT-FINISHED]]
項構造：	＜Y＞＞
統辞構造への投射：	食事の支度が

最後に、可能を表すデキルの LCS について考察する。能力を表す動詞の LCS は管見の限り二通りある。一つは、y がニ格、z がガ格で表示される考え方である（影山 2009：61-62）。この考え方であれば、「彼に英会話ができる」という文では、「彼」が内項 y、「英会話」が z であり、「彼（y）は「英会話（z）ができる状態にある」という解釈となる。

（43）デキル$_{<可能>}$の意味構造

[31] 出現・発生系の動詞の LCS は影山（1996：109-110）で詳しく述べられている。

語彙概念構造：	[$_{STATE}$ y BE AT-z]
項構造：	＜Y $_{ヒト}$ ＜Z＞＞
統辞構造への投射：	彼に英会話が

しかし、本研究はこの考え方を採用しない。なぜなら、経験者主を表すニ格名詞句は場所格と関わっていると考えられる[32]からである。このことは既に 2.1 節で見た。また、2.2 節で多義性について分析した際、経験者主がランドマークに相当し、ニ格名詞句が z 項であることを見た。

また、岡（2002）では、次のような「テイルを付加した文において、存在物が現れてくる」という観点で、存在構文[33]に基づいた観点からデキル文を捉えようとしている。

（44）a. 頬にニキビができている（⊃頬にニキビがある[34]）
　　b. 論文ができている（＝論文が完成してそこにある）（ibid.：130）

そして、岡はデキル可能文に関しても、次の例を挙げ、「中国語を話すこと」がヒトに生起し、最終的に可能の意味になると考えている。

（45）鈴木さんは中国語を話すことができる。　（ibid.：131）

本研究は基本的に岡と同じ立場にあるが、デキル可能文については存在文に留まらず、能力の所有に発展したと考える。つまり、ニ格名詞句におけるヒトは能力の存在するトコロであり、能力を有する能力所有者でもあるということである。存在文と所有文はいずれも動詞「アル」が用いられる点で共通しているが、後者が「N を持つ」に言い換えられる点で異なっている。

（46）a. 田中さんには三人の子どもがある。
　　b. 田中さんは三人の子どもを持っている。　（金水 2003：38）

同様に、次に挙げる a のデキル可能文は、b と c の所有文に言い換えられる。但し、換言に当たり、「の能力」を補う必要がある。

---

[32] 三原（1994：132）でも、「直感的にこのニには場所を表すニとの親和性が感じられる」と述べている。また、影山（1999：70）でも「「できる」というのは「能力がある」という存在を表す」と指摘している。同じ立場として、熊代（2002）がある。
[33] 存在構文とは「場所ニ N ガアル・イル」のような構文のことである。
[34] ⊃は集合論の記号であるが、A⊃B は、「B が A の部分集合である」ことを示している。岡では明記していないが、おそらく含意という意味で使われていると考えられる。

（47）a. 鈴木さんに中国語ができる。
　　b. 鈴木さんに中国語の能力がある。
　　c. 鈴木さんは中国語の能力を持っている。

したがって、本研究では可能文が、能力を有するということで所有文の一種であるとみなす。その上で、次から所有文の概念構造を考える。影山（1996）では、“BE WITH”が所有“HAVE”の意味を表すとしている[35]。本論文では、その考えを踏襲し、可能を表すデキルの LCS を次のように想定する。つまり、次のように、z はニ格名詞句に対応し、ガ格名詞句は y に対応するものとする。

（48）デキル$_{<可能>}$の意味構造

語彙概念構造：	[$_{STATE}$ z BE WITH y]
項構造：	＜（Z $_{ヒト}$）＜Y $_{コト}$＞＞
統辞構造への投射：	（彼に）英会話が

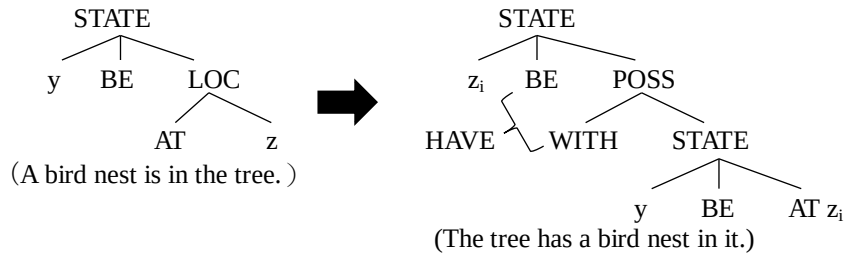
このように、生起、完成、可能の意味のいずれも y がガ格名詞句と対応するという画一的な規定ができる。以上のことをまとめると、デキルの LCS は次のようになる。

（49）デキルの LCS：
　　a. 生起：[$_{EVENT}$ BECOME [$_{STATE}$ y BE AT-z]]
　　b. 完成：x→∅ CONTROL [$_{EVENT}$ y BECOME [$_{STATE}$ y BE AT-z]]
　　c. 可能：[$_{STATE}$ z BE WITH y]

本節ではデキルの LCS を上記のように規定した。次節からは、デキルの意味構造について規定する。

[35] 影山（1996：55）では、所有文が存在文から派生したと考え、次のような意味構造を想定している。

a. 存在文　　b. 所有文



（A bird nest is in the tree.）
(The tree has a bird nest in it.)

2.3.4　デキルの意味構造

ここまで、クオリア構造、項構造、事象のタイプと語彙概念構造を見てきたが、次からは生起、完成、可能という順にデキルの意味構造を想定した上で、統一的な規定を試みる。まず、生起を表すデキルの意味構造を次のように想定する。

（50）デキル$_{<生起>}$の意味構造
項構造：＜Y＞
構成役割：[$_{EVENT}$ BECOME [$_{STATE}$ y BE AT-z]]
形式役割：event：状態変化
目的役割：－
主体役割：－

すでに見たように、構成役割はその動詞の LCS であり、生起の LCS は上記のように規定した。また、形式役割はその動詞の事象のタイプであり、生起のデキルが表すのは状態変化という事象であり、生起を表すデキルは、人の意志などが関わらない非対格動詞であるため、目的役割がないと考えられる。最後に、主体役割はその動詞が表す事象の前提または背景状況であるが、LCS の上位事象でもあるので、ここでは未指定にしておく。

次に、完成を表すデキルの意味構造は次のように規定する。完成のデキルは構成役割と形式役割では生起と全く同様であるが、主体役割は異なっている。完成の場合、主体役割に動作主（x）が何かを作る（または、する）という前提が記載されている。これが生起と完成の最も顕著な違いである。

（51）デキル$_{<完成>}$の意味構造
項構造：＜Y＞
構成役割：[$_{EVENT}$ y BECOME [$_{STATE}$ y BE AT-z]]
形式役割：event：状態変化
目的役割：　－
主体役割：[$_{EVENT}$ x ACT (ON-y)]

可能を表すデキルの意味構造を次のように規定する。まず、これまで見てきたように、可能の形式役割は生起や完成と異なり、状態である。次に、その目的役割は人（x）がその能力（y）で何等かのことをするというように考えられる。ここで注意したいのは、経験者主（z）と動作主（x）はそれぞれ異なる変項で表示しているが、実際は同一者、即ち「経験者主＝動作主」なのである。また、その主体役割は、生起と同様に、上位事象がないので、未指定にしておく。

國立政治大學 National Chengchi University

（52）デキル$_{<可能>}$の意味構造
項構造：＜Z $_{ヒト}$＜Y＞＞
構成役割：[$_{STATE}$ z BE WITH y]
形式役割：event：状態
目的役割：[$_{EVENT}$ x ACT WITH y]
主体役割：－

上記のように、デキルの諸意味に相応した意味構造をここまで見てきたが、まとめると次のようになる。

（53）デキルの意味構造

＜生起＞
A-S：＜（Z $_{トコロ}$）＜Y＞＞
CON：[$_{EVENT}$ BECOME [$_{STATE}$ y BE AT-z]]
FOR：event：状態変化
TEL：－
AGE：－

＜可能＞
A-S：＜（Z $_{ヒト}$）＜Y＞＞
CON：[$_{STATE}$ z BE WITH y]
FOR：event：状態
TEL：[$_{EVENT}$ x ACT WITH y]
AGE：－

N ガデキル

＜完成＞
A-S：＜Y＞
CON：[$_{EVENT}$ y BECOME [$_{STATE}$ y BE AT-z]]
FOR：event：状態変化
TEL：　－
AGE：[$_{EVENT}$ x ACT (ON-y)]

2.2 節でデキルの意味のネットワークを明らかにしたように、完成は主体役割に動作主が N を作るという前提が記載されている点で生起と異なっている。しかし、可能は主体役割を除き、すべての役割が生起と異なっているため、意味構造からは生起から派生したとは思われないかもしれない。故に、生起、完成、可能の意味構造は、上記のように、それぞれ独立した意味で N ガデキルという形式に存在すると示している。N ガデキルは生起、完成、可能の三つの意味を有するが、どの場合にどの意味を表すのかはガ格名詞句、即ち N が決めるのではないかと考えられる。詳しくは第 4 章で考察する。

2.4　まとめ

本章では、デキルの文法的振る舞い、多義性と意味構造について考察した。その結果、まずデキルは生起、完成、可能の意味を問わず、ガ格名詞句を有するが、N ガデキル全体の意味が異なれば、ニ格名詞句の名詞範疇と意味役割も異なることがわかった。そのことは次のようにまとめることができる。

（54）

	ニ格名詞句の名詞	ニ格名詞句の意味役割
生起	ヒト・トコロ	場所
完成	トコロ	場所
可能	ヒト	能力の所有者 (場所を表す場合、デ格名詞句)

次に、デキルの多義性について認知言語学の枠組みで考察した。その結果、生起の＜無から有になる＞という中心的スキーマから＜完成＞と＜可能＞の意味が派生したことが明らかになった。

最後に、デキルの項構造、事象のタイプと語彙概念構造などを想定した上で、その意味構造も規定した。名詞と共起する場合、この意味構造の内容はどのように働いてくるのかは第 4 章で詳しく論じる。

國立政治大學 National Chengchi University

第 3 章　モノ名詞とコト名詞

前章では N ガデキルの意味を指定するのは N なのではないかと推測した。具体的には、その N がモノ名詞かコト名詞かにより意味が変わってくると考えられるということを述べた。先行研究では、コト名詞のみが N ガデキルで可能を表すとされてきた。しかし、実際に、モノ名詞でも可能を表す場合もあるため、本研究では N ガデキルの N について改めて考察する。

但し、N ガデキル動詞句単位で考察する前に、本章では NINJAL-LWP for BCCWJ（以下、「NLB」）[36]というコーパスで、N ガデキルにおける名詞についてデータを集め、集めたデータをモノ名詞とコト名詞に分類する。

3.1　データ

筆者は NINJAL-LWP for BCCWJ というコーパスにおいて、「N ガデキル文」の N にどのような名詞が来るかについて調査を行う。「できる」を検索して見出し語に「できる」を選び、「名詞+ができる」という項目で「N ガデキル文」について 5000 以上のデータを集めた。あまりにも膨大な量であるため、本研究ではその 10 分の 1、すなわち（頻度の高い）500 語を考察対象とする。集めたデータは以下のような条件によって厳選する。

（55）考察対象にする条件

a. 実質的意味を持つこと。

b. 能力主体ではないこと。

c. 実例の中で「N が V できる」という動詞が介在する用例が混ざらず、必ず「N ができる」という形式で使われること。

まず、実質的意味を持つという観点において、指示代名詞、形式名詞「こと」「の」「ほう」などはその語自身に意味を持たず、先行詞を指すような語などはこの条件で除外する。また、言うまでもなく、本研究では「N ガデキル文」について、N がどのような語である場合に可能の対象を表し、文全体が可能文として読み取れるかを探ることを目的とするため、能力主体を表すものは考察対象外とする。最後に、NLB の最大な欠点として、集めた用例にはずれが見られ、「N ができる」という項目を選択した場合にも、「N が V できる」という動詞が介在するような用例が集まってしまうため、それらは手作業で取り除くしかない。以上の条件で取り除いたものは次のようになる。

（56）考察対象外

a. 形式名詞「こと」、「の」、「ほう」など

[36] http://nlb.ninjal.ac.jp/

b. 接辞「-者」「-たち」「-等」「-さん」「-ら」「-員」「-側」など。
c. 対象格ではなく能力主体を表す「私」「自分」「だれ」「あなた」「皆」「ユーザー」「本人」「人々」「全員」「我々」「僕」「皆さん」「きみ」「一人一人」「おれ」「社員」「君」「それぞれ」「国民」「個人」「市民」「住民」「親」「患者」など。
d. 指示代名詞「それ」「これ」「そのもの」「あれ」「そこ」「自身」「自体」など。
e. 非飽和名詞「部分」「点」「量」「以上」など。
f.【一般】【人名】【組織】【地域】【数字】など。
g. 数量詞「全て」「名」「ほとんど」など。
h. 実際の用例がすべて「N が V できる」のように、動詞が介入し「N ができる」ではないもの。「情報」「効果」「様子」「位置」「コスト」「安全」「モード」「機能」「現象」「伸び」「姿」「データ」。

接辞をすべて取り除くわけではないが、「-者」「-たち」「-さん」などは必ず能力主体を表すため、取り除いた。「-性」「-会」「-法」といった接辞は、その前の語全体で能力主体ではないモノ名詞かコト名詞を表すため、考察対象とする。また、NLB では集めたデータを共通の属性で括って【　】で表す機能があるが、【一般】というラベルの細目には共通の属性が見られない。確かに「鍵」、「明治維新」、「ガラポン」などの考察対象が含まれているが、いずれも用例数が一つしかなく、考察にあたり意味の判断に困難が伴われるため、本研究では用例数が多い語を優先に取り扱うことにする。同様に【人名】【組織】【地域】【数字】なども除外する。

また、扱うデータの中には、「〇〇力」や「〇〇づくり」といったものが入っている。これは接辞について考察するというわけではなく、「競争力」「経済力」「体づくり」などの名詞について考察するのである。つまり、この接辞を表すような表示はそういった語を体系的にまとめているのである。

3.2　先行研究

本節では、名詞に関する先行研究を概観し、そこから得た示唆から、モノ名詞とコト名詞を定義し、データの分類を行う。本節で取り上げる先行研究は寺村（1981）、池上（2000）、影山（2010）、上原（2010）である。

3.2.1　寺村（1981）

寺村（1981 : 751）は、「モノが、人間の五官で知覚できる（中略）「具体的」なものを―指すことができる」と述べている。ここで言うモノは本論文で言うモノ名詞に相当すると考えられる。つまり、モノ名詞は五感で捉えられる具体的な物である。

一方、コト名詞について寺村は、「コトの対象は、命題で表されるような内容や、動詞、形容詞で表される動作、作用、変化、状態、属性などを一般に概念として表したもの」と規定している。また、「コトは思考によって把握される対象、発話や知識の内容である」と指摘している。

モノかコトかの判断について、寺村は、先行、または後続する語句を指すかによって判断している。例えば、次の二文では、前者における「こと」は「(返すための）貯金」、後者における「もの」は「(今度の）旅」である。しかし、「旅」というのは、モノ名詞ではなくコト名詞であり、この判断法が必ずしも正しいというわけではないことがわかる。

（57）a. 意地と見えを張る商売だから、借金を返すための貯金などは出来たことではなかったのだ。

b. 今度の旅が、二人にとって最後のものだということは…。

（ibid.：750）

以上で寺村の主張や指摘を見た。モノ名詞は五感によって捉えられる具体的なモノであるとされているが、筆者は、必ずしもモノ名詞が五官すべてで知覚するという条件を満たすとは限らず、五感のうちの一つに知覚されれば、それがモノ名詞と見なされると考える。五感のうち、ことに視覚が基本である[37]。なぜなら、一つのモノがモノであると判断するには、舌で味わったり匂いを嗅いだりする前に、目にする瞬間、それがモノであるとわかるからである。また、人間などの有生物もモノ名詞として含まれる。視覚が基本であれば、手で触れない雲、影、隙間などもモノであると言える。見えないものでも、例えば、ガス、音、辛さなどは視覚以外の五感に知覚されるため、モノ名詞である。

3.2.2　池上（2000）

池上は、モノを空間的な存在、コトを時間的な存在であると特徴づけている。典型的なモノは、輪郭が定められる個体であり可算的である。一方、輪郭が定めらないモノは不可算的である。コトは時間的な存在であるので、コトの数は回数で表される。

3.2.3　上原（2010）

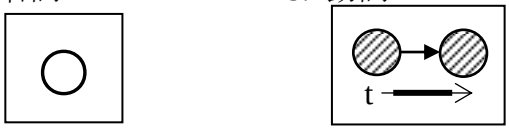
上原によれば、名詞と動詞は概念依存性と時間性の二点で異なっている。まず、動詞が概念的に他の概念に依存するという概念関係であるのに対し、名詞は概念的に自立している。言い換えれば、動詞は関係概念であり、典型的な動作・行為では、する側とされる側という二つの変項（variable）が必要である。一方、名詞はモノ概念であり、ラネカーの言葉を借りれば「それだけで独自に

[37] 視覚が他の感覚より優位であることは、田中（1996）、山梨（2000：130-2）をご参照のこと。

想起できる何らかのひとまとまり」である。

次に、時間性に関しては、動詞は時間性を有するのに対し、典型的な名詞には時間性がない、または低い。この二点を合わせて、両者は次のように図示できる。太線はプロファイルである。動詞の変項の間における矢印は関係を表す。t の太線の矢印は時間のプロファイルである。名詞はすぐに想起されるひとまとまりなので、白い○で表示される定項（constant）である。

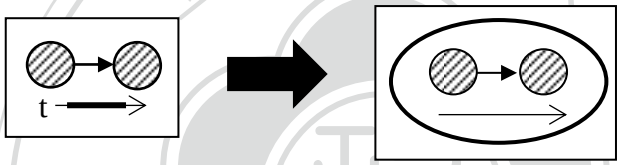
（58）a. 名詞　　b. 動詞[38]



（上原 2010）

そして、動詞の概念を名詞で捉える、即ち名詞化の場合、動詞の概念における変項、関係性と時間は背景化され、次のように表示できる[39]。

（59）動詞の名詞化



上原（2007：104）

このような動詞の名詞化は「捉え名詞化」（上原 2010）と呼ばれる。典型的な捉え名詞化は動名詞（verbal noun）である。動名詞を含めて、影山は名詞と動詞について説明している。

3.2.4　影山（2010）

影山によれば、Givón（1984）は動詞と名詞の違いを時間的安定性から捉えているという。時間的安定性とは、その品詞が表す意味が時間の流れとともに変化するか否かということである。

（60）名詞 ←――――――――――――――――――――→ 動詞
　　時間的に最も安定　　時間的に最も不安定

影山は、すべての名詞が時間的に安定しているというわけではなく、また、すべての動詞が時間的に不安定というわけではないと指摘している。つまり、名詞の中でも時間の概念を含んでいるものもあり、動詞の中でも時間の概念が

[38] 上原（2010）では動詞のイメージは縦だったが、紙幅の節約のため、筆者はそれを横にしたのである。
[39] 上原（2010）では、時間の矢印は太線の○の中に入っていないが、上原（2007）では入っている。本研究では、動詞の概念を名詞で捉える名詞には、時間を内蔵すると考えるので、上原（2007）の図を採用する。

低いものがあるということである。影山は Givón の図を修正したが、筆者は更に影山の図を加工して次にように提示する。

（61）

名詞	A		B		C	
なし	⟸		時間的展開		⟹	あり
	ウ		イ		ア	動詞

（61）において、時間的展開の軸の下にあるア、イ、ウはすべて動詞である。アは、時間的展開と最も関わる動詞であり、「何月何日に」や「一年間」といった時間副詞と共起し得る。イは過去形で「何月何日に」や「一年間」といった時間副詞と共起し得るが、主にテイルと共起しえない「いる、ある」のような状態動詞である。ウは「優れる、聳える」のような恒常的な属性を表す動詞で、「一年間」といったような時間副詞と共起しえない。本研究で取り扱うデキルは、次に挙げるように、ア、イ、ウの意味用法がある。

（62）ア：ニキビができた。
　　イ：彼は昔、英会話ができたが、今はもうできない。（作例）
　　ウ：あの奥さんは人間ができている。

一方、時間的展開の軸の上にある A、B と C は全て名詞である。A は「本、車、写真」といったように最も時間的に安定しているため、典型的な名詞であると考えられる。B は「（球技の）ゲーム、手術、戦争」といった出来事を表す名詞であるが、これらは「～ガアル」という存在文と共起する場合、場所格はデでマークされる。最後に C は「仕事、準備、確認」といった動作を表す動名詞（verbal noun）である。これらは「～中」と共起する場合、ヲ格名詞句が取れるという動詞に近い特性がある。

本論文では名詞をモノ名詞とコト名詞に二分するが、影山の分類でいえば、A はモノ名詞に当たり、B と C は一括してコト名詞とする。

3.2.5　先行研究からの示唆

以上で先行研究を見てきたが、先行研究からモノ名詞とコト名詞は次のように規定することができる。

（63）a. モノ名詞は以下の特性を備えた事物（entity）である。
　　（i）五感で捉えられるモノである。
　　（ii）すぐに想起されるひとまとまりである。
　　（iii）輪郭があり数えられる。
　　（iv）時間的に安定性が高いので、時間的修飾語と共起しにくい。

b. コト名詞は以下の特性を備えた事象（event）である。
（i）動作ないし出来事を表す。
（ii）「回数」として数えられる。
（iii）時間的展開があるため、時間的修飾語と共起しやすい。

以上の特性に当てはまる数が多ければ多いほど、それが典型的なモノ名詞・典型的なコト名詞である。次節から集めたデータをコト名詞とモノ名詞に分類する作業を行うが、典型的なモノ名詞は五感で知覚されるので、わかりやすいが、目に見えない抽象的なモノ名詞はコト名詞に似ているためわかりにくい。そこで、以上の特性に沿った統辞的テストが必要となる。意味より統辞的テストによる分類を選んだのは、抽象的な概念を表すモノ名詞をコト名詞に分類してしまうリスクを回避するためである。その統辞的テストに関して、次節で論じていく。

3.3　統辞的テスト

筆者は、先行研究を参考に、次に挙げるようにいくつかの統辞的テストを設ける。これらの統辞的テストは、すべてを満たした場合のみモノ名詞・コト名詞とみなすというわけではなく、一つだけ満たせばいいものである。以下、これらの統辞的テストの有効性を論じていく。

（64）

	モノ名詞	コト名詞
a.　五感で捉えられるか	＋	―
b.　数の数え方	個数	回数
c.　存在文 N ガアル	場所ニ	場所デ
d.　行う･行われるとの共起	―	＋
e.　～前との共起	―	＋
f.　～中との共起	―	＋
g.　～後との共起	―	＋
h.　～の際との共起	―	＋
i.　～の上（で）との共起	空間	時間

まず、五感で捉えられるか否かはすでに見たので、繰り返しは述べない。数え方に関しては池上が指摘した通り、モノ名詞は空間上の存在であるので、その数え方は「個数」で数える。一方、コト名詞は時間上の存在なので、回数で数えられる。但し、日本語には「～つ」という極めて汎用な語がある。この語においては、どのような抽象的な名詞でも数えることが可能になるため、ここでは「～つ」という数え方を除く。次に挙げる語は、「～個」「～人」などで数えられるのでモノ名詞である。一方、コト名詞の場合は「～回」で数えられる。

（65）a. 一個の｛ニキビ、細胞、吹き出物、おでき、種、実…｝
b. 一人の｛子供、友達、彼女、恋人、相手、女性、家族、選手…｝
c. 一軒の｛店、家、工場、病院、建物…｝
d. 一本の｛ゲーム、道、電話、帯、線、映画、ルート…｝
e. 一台の｛電話、車、パソコン、機械…｝
f. 一回の｛話、会話、食事、活動、演奏会、説明、取引、計算…｝

次に、存在文では場所格がニ格でマークされるものがモノ名詞である。それに対し、デ格の場合はコト名詞である。さらに、デ格でマークされるコト名詞は「行う・行われる」に言い換えられる。

（66）a. 体育館に卓球の設備がある。
b. 体育館で卓球の試合がある。
b'. 体育館で卓球の試合が行われる。　（益岡 2013:16-17）

「場所デ N ガアル」と言えるコト名詞の多くは「試合」といった出来事名詞であるが、「行う・行われる」と共起できるコト名詞は動作名詞を含んでいる。

（67）a. 橋本先生のご挨拶があり、各グループごとの自己紹介があった。
(大石政隆著 『人生ふさぎこんじゃおしまいよ』, 2004, 049)
a'. 社長室で塚田、久本、次郎、多井の挨拶が行われて四者会談に入った。　(太田利政著 『幕府の埋蔵金』, 2003, 210)
b. 手形について質問があります。　(Yahoo!知恵袋, 2005, 企業と経営)
b'. 現況の水辺のイメージについて次のような質問が行われた。
(松浦茂樹, 島谷幸宏共著 『水辺空間の魅力と創造』, 1987, 518)
c. 買い物があると言って車を駅ビルに着けさせた後、そのまま電車に飛び乗って都心方面に向かった。　(週刊文春, 2003, 一般)
c'. もう十数年間にわたってどんどんどんどん毎年毎年買っていく、八個群どころじゃない、そういう買い物が行われる。
(国会会議録, 1992, その他)

また、「～前」「～中」「～後」「～の際」などは、コト名詞と共起し得るが、モノ名詞と共起しえない。

（68）a. *企業前、*問題中、*意味後、*言葉の際…
b. ネームサーバー情報の変更前にホームページが正常に表示され

るか確認したい。　（http://support.fsv.jp/zenlogic/faqs/hp/）

c. 以前、ピアニストでショパンコンクール優勝歴のあるスタニスラフ・ブーニンさんが、演奏会前に緊張し過ぎて体調が悪くなり救急車で病院に運ばれたというのも聞いたことがあります。
（http://momoiroaiai.blog.fc2.com/blog-entry-175.html）

d. 血小板活性化中にりん酸化された分子量 47,000 の蛋白質のアクチン結合能　（http://jglobal.jst.go.jp/public/200902072889425469）

e. データ読み書き中は点滅します『豆電球 USB フラッシュメモリー』　（http://getnews.jp/archives/43496/gate）

f. Excel でデータ入力後にカーソルを右のセルへ移動させるには?
（https://support.microsoft.com/ja-jp/help/968151）

g. Google Keep を使っていて全部を選択後に Enter キーを押してしまい内容が消えてしまいました。　（https://goo.gl/9yjcDp）

h. イベント処理の際にフォーム関連 DOM 処理を行うとイベント処理終了時にまとめて DOM 処理が行われてしまうため、処理待機中にスピナーやプログレスバーの表示ができません。
（https://goo.gl/SSWuVC）

i. 人間は理解の際に、考えるべき対象が３つ以下であれば素早いスピードで正確な情報の処理が行えるという性質を持っているからです。（https://matome.naver.jp/odai/2142372510117670301/2142372810722233403）

最後に、「～の上（で）」は時間上の「何かをした後」という意味でコト名詞と共起する。一方、モノ名詞と共起する場合、空間上の「上」を表す。

（69）a. 会社の上、駅の上、本の上、溝の上…

b. コンディション説明をご確認の上、お買い求め下さい。

c. 「お前が言うな！」を覚悟のうえで、それでも僕が言いたいこと　（http://gendai.ismedia.jp/articles/-/51033）

これらの統辞的テストを用いて 3.1 節で集めたデータをモノ名詞とコト名詞に分類するが、仮にこれらの統辞的テストのいずれにも当てはまらない語があった場合、それは「N は～ことだ」というように意味で分類する。実際の分類作業は付録（pp. 94～108）をご参照のこと。

3.4　分類の結果

これは意味による分類ではなく、統辞的テストにより分類したものであるため、意味的にコト名詞であるものをモノ名詞に分類した場合と逆の場合もある。それでは、まずモノ名詞を見る。

3.4.1　モノ名詞

統辞的テストによりモノ名詞と判断したものは次のように挙げる。

（70）N $_{モノ}$（計 250 語）

仕事、（お）話、食事、息、返事、表現、〇〇会、料理、書き込み、ゲーム、研究、インターネット、計画、電話、契約、ネット、入金、組み合わせ、発音、協定、考え、貯金、プログラム、約束、コピー、コメント、（お）答え、記録、子（供）、もの・物、人、友達、時間、彼女、余裕、制度、〇〇方、（行）列、関係、〇〇性、彼（氏）、人間、隙間、〇〇語、〇〇法、法律、恋人、店、相手、意味、言葉、赤ちゃん、会社、〇〇力、形、問題、女性、にきび、内容、システム、体、目標、国、場所、気持ち、理由、駅、メール、傷、暇、男、ところ、〇〇所、溝、女、家、本、〇〇目、道路、体制、基礎、〇〇場、施設、〇〇書、染み、口内炎、あざ、輪、（お）金、ゆとり、道、ファイル、政府、法案、イメージ、人垣、友人、家族、山、影、政権、流れ、能力、瘤、組織、スペース、差、細胞、顔、学校、機関、水、資金、グループ、違い、団体、〇〇層、年金、抗体、町、結晶、船、〇〇部、つながり、仕組み、〇〇権、水たまり、線、車、しこり、できもの、地域、文字、構造、画像、皺、種、空間、かさぶた、作品、写真、吹き出物、存在、思い出、数、曲、湿疹、目的、チーム、免疫、塊、思い、成果、資格、距離、ルール、〇〇先、品、〇〇地、基盤、建物、水膨れ、男性、社会、腫瘍、膜、タコ、ブツ、ページ、世界、人だかり、〇〇円、商品、心構え、〇〇感、条件、生物、穴、血栓、事実、実、工場、市場、潰瘍、種類、街、〇〇費、選手、部屋、ソフト、仲間、内閣、〇〇制、原因、〇〇型、基準、孫、感情、案、業者、段差、環境、癌、自信、速度、隈、雲、おでき、ネットワーク、ポリープ、基本、帯、技術、〇〇日、映画、植物、〇〇機、海、物質、薬、表、パソコン、パターン、メリット、リズム、ルート、下水道、像、収入、壁、女の子、〇〇室、〇〇屋、感覚、数字、数学、空き、模様、機械、水疱、病院、縁、脳、裂け目、資料、カード、コンピューター、ダム、ほくろ、ホテル

これらの語の中には、和語動詞の連用形が名詞化したものが入っている。動詞の名詞化について、影山（2011 : 52）は、名詞化は「動詞が持つ意味構造（行為連鎖）の全体あるいは一部分を切り取って、デキゴトまたはモノという名詞の概念に変えること」である、と述べている。

つまり、動作主が道具により対象物に働きかけて結果状態が生じるという一

連の流れが玉突きのように続いていく場合、一連の行為連鎖における＜動作主＞＜道具＞＜対象物＞＜結果状態＞のいずれに動詞が名詞化するということである。このことは次のように表示できる。このうち、道具の有無はあってもなくても良いため、括弧を付ける。これは語彙概念構造に相当すると考えられる。つまり、語彙概念構造においても、上位事象（x ACT (ON y)）が発生し、下位事象（BECOME [y BE AT-z]）を起こすということである。

（71）行為連鎖と語彙概念構造との対応：

動作主 (→ 道具) → 対象物 → 結果状態　（影山 1996 : 46）
x ACT (WITH w) y BECOME y BE AT-z

そのため、日本語の名詞化は基本的にコト名詞である（影山 1999 : 109）が、次のように、動作主名詞、道具名詞、結果名詞、場所名詞などのモノ名詞になる。なお、これらはすべて動詞の連用形から名詞化したものである。

（72）A. 動作主名詞 : すり、見張り、見習い、付き添い（影山 2011 : 56）
B. 道具名詞 : はかり、はたき、ふるい、鋤（すき）　（ibid. : 56）
C. 結果名詞 : 汚れ、集まり、固まり、焦げ、くぼみ　（ibid. : 55）
D. 場所名詞 : 住まい、通り、（台所の）流し　（影山 1999 : 109）
E. 思考／伝達の結果 : 考え、思い、答え、話し（影山 2011 : 55）

モノ名詞とした語の中で動詞から名詞化したと考えられる語を次に挙げる。

（73）動詞が名詞化したと考えられるモノ名詞
（お）話、食事、意味、返事、料理、気持ち、染み、計画、流れ、違い、繋がり、仕組み、水たまり、しこり、入金、存在、思い出、塊、思い、組み合わせ、水膨れ、人だかり、協定、考え、貯金、（お）答え、コピー、おでき、空き、記録

まず、思考／伝達の対象は「（お）話、意味、返事、気持ち、計画、思い出、思い、協定、考え、（お）答え、記録」である。次に、変化を被る対象は「食事、入金、貯金」、行為の産物は「料理、染み、仕組み、水溜まり、組み合わせ、水膨れ、コピー、塊、人だかり、空き、しこり」である。

これらはクオリア構造でも説明ができると考えられる。以下で、クオリア構造による分析を試みるため、名詞に対するクオリア構造の説明は次に挙げる。

（74）構成役割（CONS(TIVE)）: ある物とその構成素との関係。
形式役割（FORM(AL)）: より大きなドメインにおける物を区別す

る属性。

目的役割（TELIC）：物の目的と機能。

主体役割（AGEN(TIVE)）：物の産出に関わる要因。（影山 2005：83-84）

まず、思考／伝達の対象の「話」を例として挙げよう。名詞の「話」を見る前に、「話す」という動詞のクオリア構造を次のように想定する。

（75）「話す」のクオリア構造

項構造：＜$X_{ヒト}$＜$Z_{ヒト}$＜$Y_{コト}$＞＞＞

CONS＝[$_{EVENT}$ x ACT WITH WORDS] CONTROL [$_{EVENT}$ z BECOME [$_{STATE}$ z BE WITH y]

FORM＝event：達成

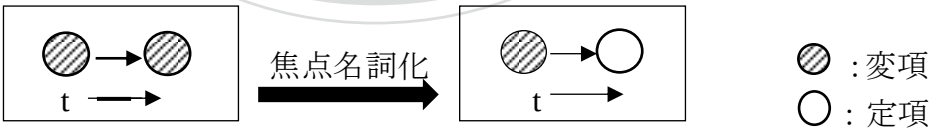
TELIC＝[$_{EVENT}$ z BECOME [$_{STATE}$ z BE WITH y]

AGEN＝[$_{EVENT}$ x ACT WITH WORDS]

（75）の構成役割、即ち LCS について説明する。まず、上位事象（＝CONTROL の左側）では、“WITH WORDS” で ACT の様態を表している。厳密には、話すことは音声の連なりによる事象であるが、ここでは WORDS にしておく。次に、下位事象（＝CONTROL の右側）は[z BECOME [z BE WITH y]]であるが、これは 2.3.3 で論じたように、変項 z が y ということを知識として所有（HAVE=BE WITH）することを表している。

このクオリア構造の内項 $Y_{コト}$が焦点化する場合、「話」が「話す内容」というモノ名詞になる。このことは「焦点名詞化（上原 2010：30-31）」と呼ばれ、次のように図示できる。変項の間の矢印は変項の関係を表す。左の図は、「話す」ことを表している。変項が焦点名詞化すれば、存在物という定項になり、時間の流れも背景化される。

（76）



但し、話す内容 Y は本来コトという名詞範疇は、それが焦点名詞化したらコト名詞ではなく、モノ名詞となるという点には注意したい。動詞がコト名詞になる場合は「捉え名詞化」と呼ばれている。

焦点名詞化のプロセスを経てモノ名詞となった「話」のクオリア構造を次のように想定する。

（77）「話」のクオリア構造

CONS＝WORDS
FORM＝モノ（y）
TELIC＝[$_{EVENT}$ z BECOME [$_{STATE}$ z BE WITH y]
AGEN＝[$_{EVENT}$ x ACT WITH WORDS]

上記のように、「話」は「言葉（WORDS）」により構成され、この WORDS というのは、音声の連なりでもあり、文字でもある。形式役割はモノ名詞である。最後に、目的役割と主体役割はコト名詞の「話（をする）」から受け継いでいる。目的役割の場合、z は聞くなり読むなり、最終的に y を知ることになる。主体役割の場合、x も話すなり書くなり、話というモノを作ることができる。この目的役割と主体役割が合成したものが「話す」の LCS である。

次に、変化を被る対象に関して、「食事する」のクオリア構造は次のように想定できる。上付き文字の D でデフォルト項を表示する。「食事する」は対象項のヲ格名詞句を有しないが、意味的には食べるモノ＜Y $_{モノ}$＞というデフォルト項（言語形式化しないが、意味的に存在する項のこと）がある。食事することは最終的に食べるもの (y) が食べる人 (x) のお腹に入ることであるため、z を x にした。

（78）「食事する」のクオリア構造
統辞への投射：私が食事する。
項構造：＜X $_{ヒト}$＜Y^{D} $_{モノ}$＞＞
CONS＝[$_{EVENT}$ x ACT ON y] CONTROL [$_{EVENT}$ y BECOME[$_{STATE}$ y BE IN x]]
FORM＝event：達成
TELIC＝[$_{EVENT}$ y BECOME [$_{STATE}$ y BE IN x]]
AGEN＝[$_{EVENT}$ x ACT ON y]

これを踏まえると、このデフォルト項の Y $_{モノ}$が焦点名詞化しモノ名詞の「食事」となる。そのクオリア構造は次のようになる。目的役割に注目したい。目的役割には「食事する」の LCS が取り込まれている。

（79）「食事」のクオリア構造
CONS＝ 構成役割：食材、調味料…
FORM＝モノ（y）
TELIC＝[$_{EVENT}$ x ACT ON y] CONTROL [$_{EVENT}$ y BECOME[$_{STATE}$ y BE IN x]]
AGEN＝コックが食べ物（y）を作る。

最後に、行為の産物に関して「コピーする」という語を例に挙げると、次の

ようなクオリア構造を持つと想定される。「コピーする」というのは、人（x）がコピーするもの（y）をコピーした結果、y と同じもの（y’）が産出されることである。

（80）「コピーする」のクオリア構造

CONS＝[$_{EVENT}$ x ACT ON y] CONTROL [$_{EVENT}$ BECOME [$_{STATE}$ y’ BE AT-WORLD]]

FORM＝event：達成

TELIC＝[$_{EVENT}$ BECOME [$_{STATE}$ y’ BE AT-WORLD]]

AGEN＝[$_{EVENT}$ x ACT ON y]

そして、焦点名詞化したモノ名詞の「コピー」のクオリア構造は次のようになる。主体役割は「コピーする」の主体役割である。

（81）「コピー」のクオリア構造

CONS＝紙、墨

FORM＝モノ（y’）

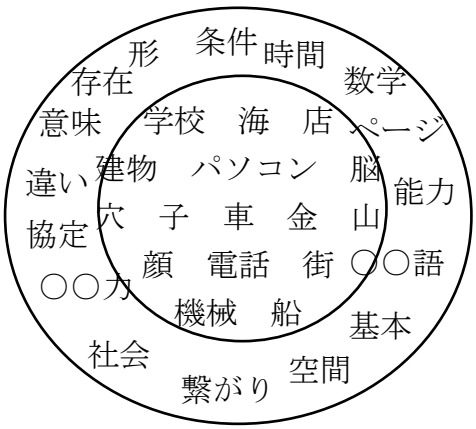
TELIC＝人（x）が書類（y）と同一内容の物（y’）を配る／誰かに見せる…

AGEN＝[$_{EVENT}$ x ACT ON y]

以上より、動詞由来の名詞は目的役割か主体役割において、動詞の主体役割、即ち LCS の一部から切り取った部分が記載されることがわかった。

また、モノ名詞には典型的と非典型的なものがある。前者は目に見えて具体的なものであり、後者は目に見えず抽象的なものである。その仮定の下では、以上のモノ名詞のカテゴリーは放射状の連続像を成すと考えられる。次に示すように、中心部に近いほど具体的である一方、中心部から離れているほど抽象的である。

（82）



3.4.2　コト名詞

3.3 節の統辞的テストにより、コト名詞であると判断したものを以下に挙げる。このうち、「長生き」、「気配り」、「用」はいずれの統辞的テストに当てはまらいので、意味の判断でコト名詞に分類した。

（83）$N_{コト}$（計 278 語）

仕事、（お）話、食事、息、返事、表現、〇〇会、料理、書き込み、ゲーム、研究、インターネット、計画、電話、契約、ネット、入金、組み合わせ、発音、協定、考え、貯金、プログラム、約束、コピー、コメント、（お）答え、記録、生活、準備、確認、判断、対応、勉強、活動、会話、用意、操作、作業、設定、我慢、行動、取り引き、説明、請求、管理、計算、体験、交換、調整、利用、理解、運動、処理、選択、呼吸、入力、読み書き、〇〇化、変更、買い物、質問、挨拶、サービス、練習、運転、予約、コントロール、プレー、動き、合意、撮影、指導、評価、〇〇づくり、支払い、遊び、手続き、状況、したく、治療、覚悟、付き合い、暮らし、更新、登録、区別、相談、経験、投票、検索、教育、旅、調節、コミュニケーション、身動き、通信、交流、運営、切り替え、回答、編集、表示、子育て、手術、申し立て、申し込み、移動、調査、急用、整理、決定、解決、方法、用事、商売、真似、解釈、貢献、やり取り、処置、印刷、投資、議論、家事、旅行、状態、意志疎通、閲覧、保存、再生、動作、実験、恋、改善、検査、演奏、経営、行為、解除、証明、試合、話し合い、返済、通話、アドバイス、働き、対策、工夫、接続、改革、攻撃、申請、発見、販売、運用、ビジネス、介護、報告、授業、決断、走り、開発、〇〇アップ、使用、参加、恋愛、指定、活躍、用、事業、保育、修理、変化、手当て、掃除、援助、放送、習慣、購入、(お)手伝い、セックス、トレーニング、出入り、回収、提供、活用、納得、供給、分析、執行、学習、展開、想像、提案、比較、気配り、測定、確保、行政、診断、調達、録画、スイング、スポーツ、世話、事態、修正、削除、就職、〇〇座り、生産、登記、行使、釣り、ケア、充電、削減、加工、対話、把握、期待、業務、転換、連絡、野球、パフォーマンス、仕付け・躾、作成、使い分け、入札、判定、成長、散歩、書き換え、発展、結婚、訓練、識別、主張、予想、予測、借り入れ、収集、取材、対処、戦争、手出し、振り込み、措置、整備、特定、申告、発行、納付、維持、観察、走行、はいはい、アクセス、オンオフ、分割、取り付け、向上、喧嘩、引き落とし、形成、戦い、戦、競馬、補給、設置、試験、農業、送受信、長生き、離婚、チェック

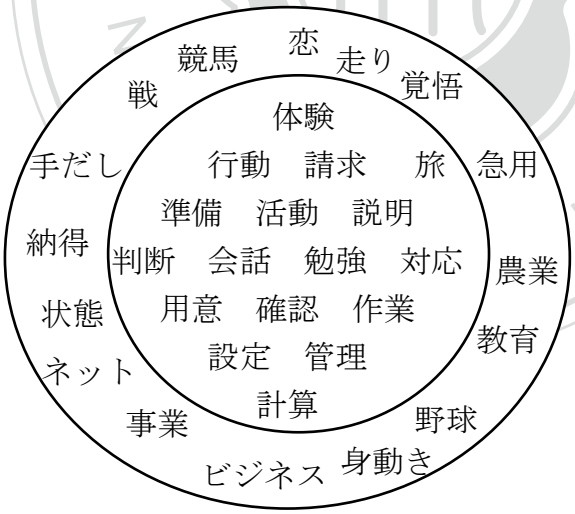
杉岡・影山（2011）は、コト名詞の動詞に近いもの（典型的には動名詞）を複雑デキゴト名詞と呼び、モノ名詞に近いもの（典型的には、「場所デ N ガアル」における名詞）を単純デキゴト名詞と呼んでいる。動詞に近いか、モノ名詞に近いかは項構造を持つか否かで区別されている。用語を統一すべく、以下では、それぞれを「単純コト名詞」と「複雑コト名詞」と呼ぶ。これら名詞が時間的な展開における位置づけを次のようにまとめている。下の図について、杉岡・影山（2011：216）では、左の極が（時間的な展開）大であり、右の極が小であるとされているが、筆者は数学的に考えるため、左右を逆にした。

（84）小 ⟸ 時間的な展開 ⟹ 大

モノ名詞　単純コト名詞　複雑コト名詞　動詞　（ibid.:216）

最も時間的な展開が激しいのは動詞であり、次いで複雑コト名詞である。単純コト名詞は時間的な展開が小さく、モノ名詞に近い性質がある。このことを踏まえて、3.3 節で提示した統辞的テストを用いてコト名詞の連続像を明らかにしたい。本研究では 3.3 節の統辞的テストに適した項目の数で、コト性の度合いを決めるが、2 つ以下はコト性が低いと見なす。その結果、次のように、コト性の最も高い語は中心部にあり、周辺にあるのはコト性が低い語である。

（85）



3.4.3　モノゴト名詞

（70）と（83）を対照してわかるように、名詞によってモノ名詞とコト名詞としての意味を併せ持つという多義性を備えているものもある（影山 2011：39）。本研究では、モノ名詞とコト名詞の両義性を持つような名詞のことを「モノゴト名詞」と呼んでおく。

前述したように、日本語における動詞の名詞化は基本的にコト名詞であるが、

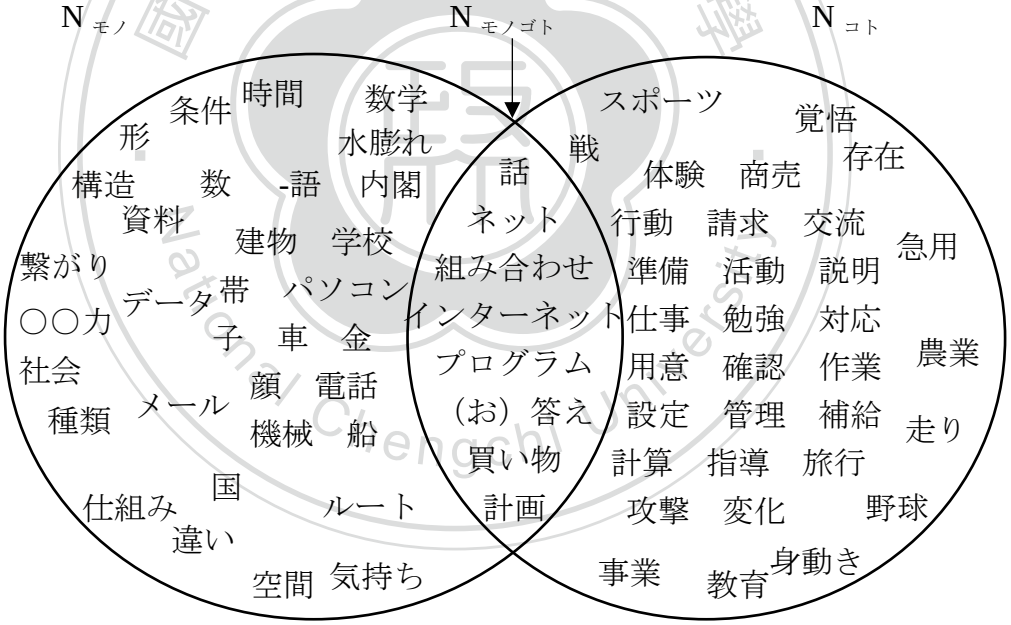
モノ名詞になる場合もある。このような名詞が、コト名詞とモノ名詞の両方の意味を持つのである。以下、（70）と（83）の両方に載った名詞を挙げる。

（86）$N_{モノゴト}$（計 28 語）
仕事、（お）話、食事、息、返事、表現、〇〇会、料理、書き込み、ゲーム、研究、インターネット、計画、電話、契約、ネット、入金、組み合わせ、発音、協定、考え、貯金、プログラム、約束、コピー、コメント、（お）答え、記録

3.5　まとめ

本章では、NLB を用いて N ガデキルの N についてデータを集め、選定基準により計 500 語に絞り、モノ名詞とコト名詞について定義した上で統辞的テストによりデータの分類を試みた。その結果、モノ名詞とコト名詞の間にモノゴト名詞を介して、次のように連続像が見られると考えられる。

（87）モノ名詞とコト名詞の連続像



第 4 章　N ガデキル動詞句

本章では、前章で分類した名詞を N ガデキル動詞句に当てはめ、どの場合にどのような意味を表すかを考察する。まず、生成語彙論の共合成という意味生成デバイスについて述べる。次に、N $_{コト}$ガデキル、N $_{モノ}$ガデキルと N $_{モノゴト}$ガデキルという順序で見ていく。

4.1　共合成とタイプ強制

本節では、「共合成」（cocomposition）とタイプ強制（type coercion）という意味生成のプロセスについて先行研究を用いて説明する。但し、本研究で取り込むクオリア構造と共合成は、小野（2005）と非常に異なっているため、記述に出入りがあるということに注意されたい。

4.1.1　先行研究：小野（2005）

共合成とは、「動詞の不完全指定された意味表示を補語名詞の語彙情報によって補完する意味生成のプロセス」（小野 2005 : 49）である。以下、小野（2005 : 48-50）が挙げた“begin the book”という例を見よう。まず、小野は動詞の“begin”のクオリア構造は次のように想定している。

（88）“begin”のクオリア構造

ARGSTR＝ARG1＝x：human
　　＝ARG2＝y：event
QUALIA＝FORM＝P（x）[40]
　　＝AGEN＝begin_act（x, y）[41]

注目したいのは、形式役割に無指定（P（x））になっているという点である。形式役割における無指定は、補語名詞の語彙情報によって補完されるのである。次に、“book”のクオリア構造は次のように想定されている。（筆者が Pustejovsky（1995：101）を参照に一部修正）

（89）“book”のクオリア構造

[40] Pustejovsky（1995）と小野（2005）では、事象も項として扱われている。

[41] 本来、小野（2005）では、begin の形式役割と主体役割は次のようになっている。

FORM＝P（e_2, x）

AGEN＝begin_act (e_1, x, y)

e_1 と e_2 はそれぞれ process と state であるが、これらが入っている形式役割と主体役割は、「x が何かをするという状態事象」と「人間（x）が事象（y）を始める process 事象」という意味で解釈される。つまり、“e_1”ないし“e_2”の存在は、項としてではなく、その役割が事象であることを示しているだけである。紛らわしいため、本研究ではその記述方法を採用しないので、注意していただきたい。

ARGSTR＝ARG1＝x：物理的な物
　　＝ARG2＝y：情報
　　＝ARG3＝z：書き手
　　＝ARG4＝w：読み手
CONS＝bound_pages (x)
FORM＝print_matter (x)
TELIC＝read (w, y)
AGEN＝write (z, y)

動詞“begin”と名詞“book”は共合成するが、begin は第 2 項として事象を指定している。しかし、book は事象ではなくモノであるため、「動詞の選択制限と名詞の属性とのミスマッチ」（小野 2005：50）が生じる。名詞 book が持つ語彙情報のほかの側面を参照するため、目的役割と主体役割が重要となる。そこで、タイプ強制（type coercion）というプロセスにより、モノ名詞がコト名詞に転換され、最終的に“begin the book”という動詞句の意味が生成されるのである。

（90）“begin the book”のクオリア構造
EVENTSTR＝E1＝e_1：活動
　　＝E2＝e_2：状態
ARGSTR＝ARG1＝x：human
　　＝ARG2＝y：event
QUALIA＝FORM＝read (x, y)
　　＝AGEN＝begin_act（x, y）

このように、“begin the book”という動詞句の意味は動詞“begin”と名詞“book”から共合成により生成される。これは本研究の N ガデキル動詞句で応用できるプロセスとみなす。

しかし、この共合成のプロセスには修正すべき問題点がある。それについて次節で論じたい。

4.1.2　問題点と仮定

前節で共合成のプロセスを見たが、どの場合にどの役割を不完成指定にするのかということが疑問としてあげられる。このことについて Pustejovsky（1995）も小野（2005）も明記していない。そこで、本研究で取り込む共合成のプロセスは「動詞の不完全指定された意味表示を補語名詞の語彙情報によって補完するプロセス」だけではなく、動詞と名詞における語彙的情報の断片が共合成した動詞句に取り入れられるプロセスでもあると再定義する。

前節で見たように、本研究の中心問題－どの場合に N ガデキル動詞句が生起、完成、可能のいずれを表すか―もタイプ強制により解決できるように思われる。そこで、筆者は次のように仮定を立てる。

（91）デキル$_{<生起>}$はモノ名詞を指定する。デキル$_{<完成>}$とデキル$_{<可能>}$はコト名詞を指定する。そうでない場合、タイプ強制が適用する。。

ここで実際に、「ニキビができる」という例で共合成してみよう。まず、ニキビのクオリア構造を次に想定する。

（92）ニキビのクオリア構造
CONS＝皮膚に包まれる白い吹き出物
FORM＝モノ（y）
TELIC＝　－
AGEN＝　－

また、デキル$_{<生起>}$の意味構造を以下に再掲する。デキル$_{<生起>}$はモノ名詞を指定すると仮定したため、項構造の Y に下付き文字でモノをつけておく。

（93）項構造：＜Y$_{モノ}$＞
CONS＝ [$_{EVENT}$ BECOME [$_{STATE}$ y BE AT-z]]
FORM＝event：状態変化
TELIC＝　－
AGEN＝　－

上記の例では、ニキビとデキルが共合成し、次のようなクオリア構造になると考えられる。次のように、ニキビが定項として構成役割に埋め込まれている。

（94）ニキビができる
CONS＝[$_{EVENT}$ BECOME [$_{STATE}$ ニキビ BE AT-皮膚]]
FORM＝event：状態変化
TELIC＝　－
AGEN＝　－

このように、N ガデキル動詞句の意味は名詞とデキルが共合成することで生成される。ところが、最も疑問に思うのは、タイプ強制が適用される条件である。これが明らかになれば、以上の仮定は成立しない。例えば、「急用ができる」というようなコトの生起は、タイプ強制が適用されて生起の意味が生成さ

國立政治大學 National Chengchi University

れたと考えられるが、「車の運転」もコト名詞であるが、「車の運転ができる」は可能の意味を生成する。また、以上の仮定では、完成と可能は一致しているため、名詞が完成と可能の意味を指定する条件は何なのかも問題である。したがって、タイプ強制の条件を含め、次節から N $_{コト}$ガできルから考察したい。

なお、これまでクオリア構造に規定において、LCS 的に書いてきたが、便宜上、これ以降は影山（2011）の書き方を取り入れる場合もある。

4.2　N $_{コト}$ガデキル

まず、N $_{コト}$ガデキルにおける N $_{コト}$は可能の意味を表すか、生起ないし完成の意味を表すか、それとも両方の意味を表すかについて考察する。論文の先取になるが、N $_{コト}$の場合、ほぼすべて可能の意味を表すが、数例のみは可能の意味を表さない。また、N $_{コト}$ガデキルは可能と完成の両方を表すこともある。4.2.1 節から、可能を表す N $_{コト}$ガデキルから見よう。

4.2.1　可能を表す N $_{コト}$ガデキル

ほぼ全てのコト名詞は、N ガデキル動詞句において可能を表し得る。以下、動詞由来のコト名詞、非動詞由来のコト名詞と最もコト性が低いこと名詞という順で見ていく。

4.2.1.1　動詞由来のコト名詞

まず、最もコト性の高い漢語動名詞と和語連用形の用例を次のように挙げる。

（95）a. 勉強をする上で、「わかる」とはどういうことなんでしょうね？自分の言葉で説明ができる。ある程度の知識のある人に理解してもらえる。 (Yahoo!知恵袋, 2005, 数学、サイエンス)

b. 叱り方にもよりますが、そういうお金の面では息子さんはまだ小学２年生で自分でお金の管理ができるというわけでもないでしょう。 (Yahoo!知恵袋, 2005, 小・中学校、高校)

c. おいらは計算ができません。いくらになるか、お客さんが計算してください。 (池田みち子著 『池田みち子の東海道中膝栗毛』, 1996, 913)

d. 区民文化センターなどで活動する団体と、いろいろな体験ができます。 (ひろしま市民と市政, 2008, 広島県)

e. 質問の意味がわかっても，返事ができない場合がある。 (亀井エリザベス著 『なっとくする基礎科学英語』, 1999, 407)

f. これで対等に話ができる。 (Yahoo!ブログ, 2008, スポーツ)

g. 指のように微妙な動きができる部分は他にない。 (坂口力著 『タケノコ大臣奮戦記』, 2004, 289)

h. 家でも意識して体力づくりができる。 (広報あつぎ, 2008, 神奈川県)

i. 郵便局で支払いができる窓口は何時までですか？

(Yahoo!知恵袋, 2005, Yahoo!サービス)

j. うちの子は一人遊びができるので。

(Yahoo!知恵袋, 2005, 恋愛相談、人間関係の悩み)

まず、a～e の漢語動名詞は、「説明する」、「理解する」、「運動する」といった動詞が名詞化したと考えられる。動詞を名詞によって捉えるプロセスは、「焦点名詞化」と「捉え名詞化（上原 2010）」がある。動名詞の場合は後者が多く、動名詞以外に、和語動詞の連用形が名詞化した名詞も捉え名詞化を経てコト名詞になる場合がある。但し、f～j における語の中で、次に挙げるように、連用形単独では使われにくく、常に修飾語を前接する、または複合語の形で使われる語が見られる。

（96）a. ?話をする、*動きをする、*作りをする、?遊びをする、*暮らしをする

b. 結婚の話をする、素早い動きをする、体作りをする、一人遊びをする、贅沢な暮らしをする。

この現象について、影山（1993）は語彙の阻止に原因があると指摘している。つまり、「本来述語であったものをいったん名詞化し、更にそれを述語に戻すのは言語の機能からすると不経済である（ibid. : 182-193）」ということである。

次に、これらの語は動詞由来の語であるため、動詞のクオリア構造を持つと想定できる。以下、「話」、「動き」と「〇〇作り」だけを見ていくが、これらは「～をする」と共起し得る点で動名詞に似ている。まず、「話（をする）」のクオリア構造を見るが、これは動詞の「話す」のクオリア構造と一致している。つまり、捉え名詞化によりコト名詞になったのである。

（97）「話（をする）」のクオリア構造（＝75 再掲）

CONS＝[$_{EVENT}$ x ACT WITH WORDS] CONTROL [$_{EVENT}$ z BECOME [$_{STATE}$ z BE WITH y]

FORM＝event：達成

TELIC＝[$_{EVENT}$ z BECOME [$_{STATE}$ z BE WITH y]

AGEN＝[$_{EVENT}$ x ACT WITH WORDS]

さらに、前章で記述したように、動詞「話す」において内項 Y が焦点名詞化し、モノ名詞「話」となる。つまり、「話」はコト名詞とモノ名詞の両義を備えるモノゴト名詞である。 以下、モノ名詞の「話」のクオリア構造を再掲する。

（98）「話」のクオリア構造（＝77 再掲）

CONS＝WORDS

FORM＝モノ（y）

TELIC＝[$_{EVENT}$ z BECOME [$_{STATE}$ z BE WITH y]

AGEN＝[$_{EVENT}$ x ACT WITH WORDS]

次いで、「動き」のクオリア構造は「動く」と同じと考え、次のように想定する。目的役割は、動きにより異なるので、未指定にしておく。これも捉え名詞化である。

（99）「動き」のクオリア構造

CONS＝[$_{EVENT}$ x ACT]

FORM＝event：活動

TELIC＝　―

AGEN＝[$_{EVENT}$ x ACT]

最後に、「○○作り」は「○○+作る」から形成される語と考えられるので、「作る」のクオリア構造を持つと想定する。

（100）「○○作り」のクオリア構造

CONS＝[$_{EVENT}$ x ACT] CONTROL [$_{EVENT}$ BECOME [$_{STATE}$ y BE AT-WORLD]]

FORM＝event：達成

TELIC＝[$_{EVENT}$ BECOME [$_{STATE}$ y BE AT-WORLD]]

AGEN＝[$_{EVENT}$ x ACT]

「作る」は作る対象 y と結合し、名詞化すると「○○作り」となる。これは達成事象全体が名詞化してできたコト名詞である。これは「動き」と同じように、捉え名詞化によりコト名詞になったものである。以上、動詞が捉え名詞化したコト名詞の場合を見た。

4.2.1.2　非動詞由来コト名詞

これまで動詞由来のコト名詞を見てきたが、以下では、動詞由来の名詞でないコト名詞の場合を見る。用例は次に挙げた通りである。

（101）a. 友人と<u>演奏会ができる</u>ホールを―

(縄文人文;菱刈俊作絵 『いえづくりをしながら考えたこと。』, 2002, 527)

國立政治大學 National Chengchi University

b. これからほぼ毎月が飽きずにゲームができるのでうれしいことです。 (Yahoo!ブログ, 2008, Yahoo!ブログ)

c. 今度はいつ旅ができるだろうか。 (Yahoo!ブログ, 2008, 文学)

d. 政府は財源不足でやりたい事業ができない。
(堺屋太一著 『千日の変革』, 1987, 304)

e. 俺には、このメンバーで外国馬が上位に来るイメージが出来ません・・・ (Yahoo!ブログ, 2008, ギャンブル)

f. 電話ができるようになったら連絡する。
(アン・マリー・ウィンストン作;松村和紀子訳 『禁断のときめき』, 2005, 933)

g. そのうちに素敵な恋ができますよ。
(Yahoo!知恵袋, 2005, 恋愛相談、人間関係の悩み)

h. 農業用品という商品の性格上、通年でコンスタントにビジネスができる訳ではない。(杉原正規著『営業チーム勝利の視点』, 2003, 673)

i. 誰でも無料で無線ＬＡＮでネットができる。
(Yahoo!知恵袋, 2005, パソコン、周辺機器)

j. これで気にせずスポーツが出来ます。
(Yahoo!知恵袋, 2005, ファッション)

この中で、「〇〇会」、「ゲーム」、「旅」といった出来事を表すコト名詞が多くある。まずこの 3 語を中心にそのクオリア構造を見る。「〇〇会」は以下の二つの意味を有する。

（102）「〇〇会」の意味

a. 一定の目的をもって人々が集まること。
例：演奏会、運動会、読書会、説明会、同窓会、飲み会…

b. 目的や趣味・学問などを同じくする人々が組織する団体・組織。
例：同好会、新人会、委員会…

前者は「～が行われる」「～前／～中／～後」と「～の際」と共起し得るコト名詞である。一方、後者の場合、それらと共起しにくい。

（103）a. *同好会中に、*新人会の際

b. 第 1 回読書会が行われました！ （https://goo.gl/6Reu95）

c. 皆さんは演奏会前に緊張する派ですか？しない派ですか？
（http://hogakumurablog.net/column/isso-kintyou-maximam/3095/）

d. 運動会中に感じた、娘のまだまだ甘えん坊な一面
（https://conobie.jp/article/3312）

e. 説明会後のお礼のメールや手紙の書き方と詳しい例文

（https://careerpark.jp/7695）

f. 同窓会の際にアドレスとパスワードを配布いたしました。

（https://www.facebook.com/minami.midorigaoka.tokyo/photos/pcb.882531918484644/882529545151548/?type=3）

この二義性を踏まえて、「〇〇会」のクオリア構造を次のように想定する。まず、「〇〇会」は少なくとも二人以上の人から構成される。次に、形式役割は、コト名詞の場合、「コト」、モノ名詞の場合は「組織」である。最後に、目的役割と主体役割では、人々が何らかの目的のために集まれば会となるということを表している。

（104）「〇〇会」のクオリア構造

CONS＝二人以上の人

FORM＝モノゴト（y）

TELIC＝〇〇のために

AGEN＝人々が集まる

例えば、「運動会」の場合、人々は運動のために集まり、「演奏会」の場合、演奏者は演奏するために集まり、観客はその演奏を聴くために集まる。また、「新人会」は集まる人の共通点が新人であることで集まり、「同好会」の場合、集まる人の趣味が同じであることにより集まるのである。

「〇〇会」は人々が〇〇のために集まるイベントか組織なので、N ガデキル動詞句でも、次のように、二義性を持つ。a は可能の意味、b は完成の意味を表している。

（105）a. 友人と演奏会ができるホールを―

b. 次に中小企業対策特別委員会が出来た。

(古関忠男著 『言いたい事は山ほどある』, 2003, 368)

次に、「ゲーム」という語もモノゴト名詞である。以下のように、コト名詞としての「ゲーム」はスポーツの試合ないし「カードゲーム」といった遊びを指し、モノ名詞としての「ゲーム」は「ゲームソフト」のことである。

（106）a. ７月１９日（土）晴れ　来週から９月までは夏休みの為グラウンドが使用できないため、最後のグラウンドゴルフをしてきた。今日は安岡寺小学校グランドで１８名の参加者が５チームに分かれて４ゲームを行いました。(Yahoo!ブログ, 2008, Yahoo!ブログ)

b. 日曜日、夫は翔也を連れてゲームを買いに出かけて行った。

(日本推理作家協会編 『殺人買います』, 2002, 913)

しかし、いずれのゲームでも N ガデキル動詞句で可能の意味を表す。

（107）a. 空き缶かペットボトルさえ持っていけば、ただでゲームができ、おまけに景品まで当たるとあって、子供たちや学生の人気は高い。 (古庄弘枝著 『就職できない時代の仕事の作り方』, 2001, 366)

b. これからほぼ毎月が飽きずにゲームができるのでうれしいことです。 最後に「バイオハザード５」の発売日も３月５日に決定し、ＰＳ３ソフトはますます充実していきますね。

このことを踏まえた上で、「ゲーム」のクオリア構造は次のように想定する。

（108）「ゲーム」のクオリア構造

CONS＝最低一人の人間、ゲームの道具…

FORM＝モノゴト（y）

TELIC＝勝負をつける／楽しむ…

AGEN＝最低一人の人間（x）が（ゲームの道具により）何らかの遊びをする。

OR　ゲーム会社の社員（x）がゲームソフトを作る。

まず、コト名詞としてのゲームは、一人ゲームなどがあるように、最低一人の人間が必要となる。ゲームによっては道具も必要である。例えば、球技のゲームなどではボールが必要である。一方、モノ名詞のゲームも最低一人の人間が必要とし、ゲーム機が道具として要される。そして、コト名詞かモノ名詞かを問わず、その目的は勝負をつけるか楽しむことかなどである。

また、コト名詞としてのゲームは最低一人の人間が何らかの遊びをすることを主体役割としている。つまり、最低一人の人が何らかの遊びをし始めた時点から、ゲームが成立するということである。この主体役割があるため、次のような用例もある。

（109）a. 広島のかたきを討つつもりだった。最高のゲームができた。韓国戦は相手の出方がわからなかったから敗れたが、これからは全部、見てわかっているので、相手に応じたメンバーで戦っていけるはずだ。 (大住良之著 『アジア最終予選』, 2005, 783)

b. そんなわけで、体調万全じゃなかったのが残念でしたが、取り合えず一部ではあったけれど、良いゲームが出来たよねってことで、、 (Yahoo!ブログ, 2008, スポーツ)

これらの用例は、ゲームが終わった後で、そのゲームの結果の良し悪しについての評価である。このような用例に対する解釈は二通り考えられる。一つは、「最高のゲームができる」「いいゲームができる」という潜在可能が実世界で実現したという実現可能[42]として捉える解釈である。従来、実現可能に関する先行研究（奥田 1986、渋谷 1993、林 2009 など）でもこのような文は実現可能文として取り扱われている。本研究ではもう一つの考え方を提案したい。これは次節で論じる＜完成＞の解釈である。つまり、（コト名詞としての）ゲームというのは、最低一人の人間（x）が（ゲームの道具（w）により）何らかの遊びをすることで成立すると述べたが、実際、ゲームは終了時点までして初めてひとまとまりのゲームとして成り立つのである。同様に、「試合」や「旅」などの語もそうである。

（110）a. 今日は攻撃的な試合ができた。　(ＦＲＩＤＡＹ, 2002, 一般)
b. 思い返すに、韓国ではいろいろな人のおかげで本当に安全で楽しい旅ができた。　(鈴木成明著『大アジア周遊記』, 2005, 292)

本論文で言う完成と実現可能を同一視できるかという問題については、本論文では立ち入らないが、実現可能を可能の一種とみなす。

最後に、「旅」という語の用例を見よう。いずれも可能の意味が捉えられる。

（111）a. 時空を超えて旅ができるとしたらどこへ行ってみたいですか？
(Yahoo!知恵袋, 2005, メンタルヘルス)
b. これでは旅ができない。(童門冬二著『夜明け前の女たち』, 1997, 913)
c. どうか、この「しずく」といい旅ができますように。
(Yahoo!ブログ, 2008, 趣味)

c の用例は、前述した＜完成＞の読みもとれると考えられる。つまり、発話時において、未来の「旅」が「いい旅」というひとまとまりになるということを願うということである。これについて、「旅」のクオリア構造を見てみよう。

（112）「旅」のクオリア構造
CONS＝最低一人の人間、交通機関、よその土地…
FORM＝コト（y）

[42] 渋谷（1993）によれば、可能は潜在可能と実現可能に分けられ、前者は動作が実際に実現するか否かを問わず、潜在的にその動作が実現する可能性だけを表すのに対し、後者は動作が実際に実現したことに言及する。具体例で言えば、「あの子は泳げない」という文は潜在可能であり、実際に練習を重ねて泳げるようになった瞬間を見て、「泳げているじゃないか」という発言は実現可能である。なお、この具体例は寺村（1982：276）を参照にしたものである。

TELIC＝よその土地に出かけるため…
AGEN＝最低一人の人間が（交通機関により）よその土地へ出かける

「ゲーム」と同様に、「旅」は最低一人の人間がよその土地へ出かければ旅が始まるが、旅の終了時点に達してから初めて完結したひとまとまりの「旅」となる。そのため、（109a）、（109b）、（110a）、（110b）と（111c）は＜完成＞の意味が捉えられる。但し（111c）は、ル形なので、可能の意味が混同している。この点で、可能と完成は一線を画さない連続像をなすと考えられる。

4.2.1.3　最もコト性の低いコト名詞

以上で漢語動名詞、和語動詞連用形のコト名詞と非動詞由来のコト名詞を見たが、それらはコト性が高い、即ちコトらしいコト名詞なので、N $_{コト}$がデキル構文では可能を表すのだと考えられる。次に、コト性の最も低いコト名詞の場合を見る。以下のコト名詞はいずれも 3.3 節の統辞的テストで共起した言語形式数がゼロ（a、b）または一つのみ（c~h）で、コト性が最も低いと見なす。

（113）a. 健康で長生きができる。 (田口俊樹著 『ミステリ翻訳入門』, 2002, 837)
b. 記念日を大切にしてくれる男性は気配りができる」
(安奈泉著 『1 ヵ月以内に「いいこと」がたくさん降ってくる法則』, 2005, 159)
c. そしたら、あなた一緒に野球ができるでしょ？
(シドニィ・シェルダン作;天馬竜行英意和訳;紀泰隆日本語文章 『私は別人』, 1993)
d. 「きれいな水で安心して農業ができる」(市報かみのやま, 2008, 山形県)
e. ＰＳＰでインターネットができるみたいですが、本当にできるんですか？ (Yahoo!知恵袋, 2005, ゲーム)
f. 光る手ブレ補正ボタンで、容易かつ確実にＯＮ・ＯＦＦができる。 (アサヒカメラ, 2003, レジャー／趣味)
g. そのうちに素敵な恋ができますよ。
(Yahoo!知恵袋, 2005, 恋愛相談、人間関係の悩み)
h. 講武所の中に、刀を抜いて死の覚悟ができる者が果たして何人いるかだ。 (峰隆一郎著 『剣鬼・佐々木只三郎』, 2001, 913)

このように、コト性の非常に低いコト名詞でも N がデキル構文で可能を表すことができる。つまり、コト名詞であれば N ガデキル動詞句で可能を表しうると考えられる。しかし、次節に挙げるコト名詞は、これらの語と同様にコト性の極めて低い語であるが、N ガデキル動詞句で可能の意味を表すことがなく、生起の意味しか表すことができない。このことは次節で論じたい。

4.2.2　生起を表す N $_{コト}$ガデキル

コト名詞はほぼ全て可能として読み取ることができる一方、以下に挙げるわずか 6 語のみ可能を表す用例が見当たらず、いずれも生起を表す。

（114）A. 状況

a. 私たちの立場が主流を占めてもおかしくない状況ができていると思います。 (浅井基文著『平和大国か軍事大国か』, 1997, 319)

b. ただいまも申し上げましたように、所管は通産省でございますし、この許認可権を持って調整も行うということになっておりますけれども、実質的に進出を可能にする建物ができてしまえば、その方に有利な状況ができてくることは当然ではないかと思うわけでございます。 (国会会議録, 1980, 常任委員会)

B. 急用

a. 「まる一年というもの、ずっと用がなくても、きみと別れたすぐあとに、急用ができるかもしれない」

(カフカ著;池内紀訳 『城』, 2001, 943)

b. ちょっと急用ができたので外出します。

(森村誠一著 『悪魔の圏内』, 1992, 913)

C. 状態

a. まず第一に、公的年金制度の一元化とは一体何を意味するのかという問題でございます。すなわち、どのような状態ができたときに完成した、こう言われるのか。

(国会会議録, 1985, 常任委員会)

b. その状態が出来ていることにより実施しているトレーニングも効果が出てくるわけです。(Yahoo!ブログ, 2008, Yahoo!ブログ)

D. 事態

恐らく年末までは部落の共同作業のために収入がないというような事態ができてくる。 (国会会議録, 1976, 特別委員会)

E. 用

a. 今から、ちょっと町に出かける用ができました。

(連城三紀彦著 『牡牛の柔らかな肉』, 1996, 913)

b. 「ときどき用ができるはずだから」

(ノーラ・ロバーツ著;竹生淑子訳 『恋人たちの航路』, 2004, 933)

F. 習慣

a. でも会社は男だけなので、逆に上げる習慣が出来ました。

(Yahoo!知恵袋, 2005, マナー)

b. 老眼になると，目を細めることによって視力低下が改善されるため，近くをみるときには，無意識に目を細めてみる習

慣ができる。(日本美容皮膚科学会監修;宮地良樹，松永佳世子，古川福実，宇津木龍一編 『美容皮膚科学』, 2005)

なぜこれらの 6 語は N ガデキル動詞句では可能を表さないのであろうか。まず、これらの語は「用」以外すべて「～（を）する」というような動詞的な用法がない点で、単純コト名詞であると考えられる。更に、これらの語は、コト名詞の統辞的テストではコト性の低い語ではあるが、「農業」や「野球」などよりもややコト性が高い場合もある[43]。

では、なぜ上記の 6 語は N ガデキル動詞句で可能を表すことがないのであろうか。上記の 6 語は「用」以外は「～（を）する」ないし「～をやる」と共起しえない。一方、コト性が最も低い（113）のコト名詞は「～（を）する」ないし「～をやる」と共起し得る。これはクオリア構造を見ればはっきりわかる。以下、「農業」と「野球」を中心に、（114）の 6 語と比較したい。「農業」と「野球」のクオリア構造を次のように想定する。

（115）a. 「農業」のクオリア構造
CONS＝最低一人の人、農作物、水、肥料…
FORM＝コト（y）
TELIC＝農作物を収穫するため…
AGEN＝最低一人の人が農作物に水や肥料をやる。
b. 「野球」のクオリア構造
CONS＝最低 9 人の選手からなる二つのチーム、裁判…
FORM＝コト（y）
TELIC＝勝負するため、楽しむため…
AGEN＝二つのチーム（x）が野球試合をする。

上記のように、「農業」と「野球」のクオリア構造の目的役割あるいは主体役割では、動作主が何かをすることが記載されている。他方、「状況」「急用」「状態」「事態」「用」と「習慣」のクオリア構造は次のように想定する。

（116）「状況」「急用」「状態」「事態」「用」「習慣」のクオリア構造

	状況	状態	事態	急用	用	習慣
CONS	何らかの事柄					
FORM	コト（y）					
TELIC	—					—
AGEN	—					人がある行為を繰り返す。

[43] 筆者の調査結果にると、これらが統辞的テストに当てはまる項目数は、「急用」、「状態」と「状況」の 3 語は 2 項目、「事態」と「習慣」は 1 項目、「用」は 0 である。

上記のように、「状況」「急用」「状態」「事態」「用」は何らかの事柄から構成されるコト名詞であるが、それらは自然に生じるコトであり、目的役割と主体役割がない。「習慣」の場合、習慣が成り立つ前提として人がある行為を繰り返す。しかし、主体役割が指定する意味は可能よりも完成である。主体役割と完成の関りは 4.3.1 節で論じる。したがって、目的役割に動作主の存在がないことがタイプ強制の適用条件なのだと考えられる。

このように、これらの 6 語は確かにコト性が低い点で「農業」や「野球」と同じであるが、その目的役割に動作主の存在がないという点で「農業」や「野球」と大きく異なっている。それが（114）の 6 語が N ガデキル動詞句で可能を表しえない原因、またはタイプ強制が適用される条件だと考えられる。

このように、ほぼすべてのコト名詞が N ガデキル動詞句で可能を表すが、コト性の極めて低い「状況」「急用」「状態」「事態」「用」「習慣」の 6 語は目的役割に動作主の記載がないため、可能の意味を表さず、生起の意味を指定する、ということが結論付けられる。

4.2.3　完成を表す N$_{コト}$ガデキル

前節では、N $_{コト}$がデキル構文は基本的に可能を表すことを見た。しかし、それらの語の中で、＜完成＞を表すこともある。本節では、N $_{コト}$ガデキル構文で＜完成＞を表す用例を取り上げ、用例に出ているコト名詞について分析したい。

まず、用例は次のように挙げる。これらが＜完成＞を表すという証拠に、「終わる」と言い換えられることが挙げられる。

（117）a. 準備ができるまで、ちょっと休みたい。

(小松左京著　『首都消失』, 1985, 913)

a’. 準備が終わるまで、ちょっと休みたい。

b. 用意ができると、差し向かいで飲んだ。

(竹花咲太郎著　『首刈り朝右衛門』, 2004, 913)

b’. 用意が終わると、差し向かいで飲んだ。

c. 支度ができたのは三十分後。

(リンダ・ハワード著;小林町子訳　『美しい悲劇』, 2005, 933)

c’. 支度が終わったのは三十分後。

なぜこれらの語が N ガデキル動詞句では＜完成＞も表すのであろうか。「準備（する）」も「用意（する）」も「支度（する）」も時間幅のある事象である。これらは類義語であるため、以下「準備（する）」を中心に見ていく。「準備（する）」のクオリア構造を次のように想定する。

（118）「準備（する）」のクオリア構造

CONS＝[$_{EVENT}$ x ACT ON-y] CONTROL [$_{EVENT}$ y BECOME [$_{STATE}$ y BE AT-READY]]

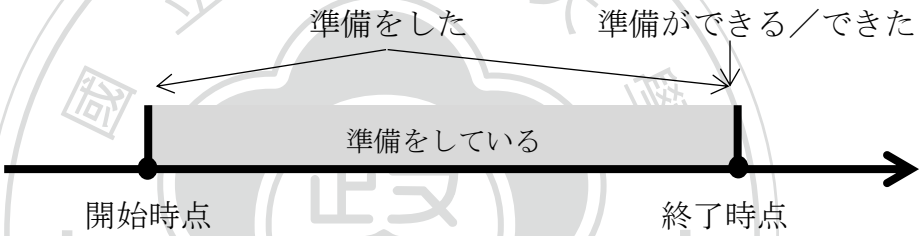
FORM＝event：達成

TELIC＝[$_{EVENT}$ y BECOME [$_{STATE}$ y BE AT-READY]]

AGEN＝[$_{EVENT}$ x ACT ON-y]

上記のように、「準備（する）」は、開始時点と終了時点を持つ達成動（名）詞である。そのため、「準備した」といえば、開始時点を指すこともあれば、終了時点を指すこともある。このような動名詞は N ガデキル動詞句では終了時点を指す＜完成＞の意味が捉えられる。

（119）「準備ができる」と「準備した」が表す事象



それでは、なぜこのような動名詞が N ガデキル動詞句で＜完成＞の意味を表すのであろうか。これについては以下の影山（1993）の指摘で説明がつく。これを仮に「影山の一般化」と呼ぶ。

（120）影山（1993）の一般化

動名詞句（VNP）が外部から格を受けるときには、その内部でガ・ヲの格表示は行われず、逆に、VNP が外部から格を受けない時は、その内部でガ・ヲが可能になる。

つまり、動名詞における動作主は N ガデキル動詞句ではゼロになり、文全体は変化の結果を注目することになる。このことはクオリア構造の共合成というプロセスでも説明できる。デキル$_{＜完成＞}$のクオリア構造を再掲する。＜完成＞のデキルは内項にコト名詞を指定すると仮定しているため、Y にコトの意味範疇を下付き文字で表示する。

（121）デキル$_{＜完成＞}$の意味構造

項構造：＜Y $_{コト}$＞

CONS＝[$_{EVENT}$ y BECOME [$_{STATE}$ y BE AT-z]]

FORM＝event：状態変化
TELIC＝　－
AGEN＝[$_{EVENT}$ x ACT (ON-y)]

「準備」と「デキル$_{<完成>}$」が共合成したクオリア構造は次のようになる。

（122）「準備ができる」のクオリア構造
CONS＝[$_{EVENT}$ y BECOME [$_{STATE}$ y BE AT- READY]]
FORM＝event：状態変化
TELIC＝[$_{EVENT}$ y BECOME [$_{STATE}$ y BE AT-READY]]
AGEN＝[$_{EVENT}$ x ACT ON-y]

まず、構成役割は「準備」とデキル$_{<完成>}$が合成したものであり、「準備」の上位事象が主体役割に移り、構成役割ではゼロになる。次に、＜完成＞を表す「準備ができる」という事象は全体的に状態変化という事象である。最後に、目的役割は「準備」の下位事象である。但しここで注意したいのは、本来達成動（名）詞である「準備（する）」はデキルと共合成すると、「準備ができる」全体が状態変化の事象となる点である。つまり、N ガデキル完成文は下位事象に注目するということである。

このように、達成動詞は N ガデキル動詞句で完成を表すことができると結論付けられる。そのため、（91）の仮定は修正を加える必要がある。

（123）デキル$_{<完成>}$は達成動名詞のコト名詞を指定する。モノ名詞の場合、タイプ強制が適用される。

（91）の仮定では完成と可能の区別がつかなかったが上記に修正すれば、その違いがはっきりなってくる。N$_{モノ}$ガデキル完成文については 4.3.1 節で詳しく考察する。

4.2.4　まとめ

以上で、N$_{コト}$がデキル構文について、＜生起＞、＜完成＞、＜可能＞を表す用例を挙げ、クオリア構造により分析を試みた。想定通りに N$_{コト}$がデキル動詞句は基本的に＜可能＞を表す。但し、「状況」、「急用」、「状態」、「事態」「用」「習慣」の 6 語は N ガデキル動詞句で全く可能の意味が読み取れず、＜生起＞を表している。これらの語の目的役割では動作主の存在がないため、タイプ強制が適用され、デキル$_{<生起>}$と共合成し＜生起＞の意味を表すのである。また、N$_{コト}$がデキル動詞句が完成を表す場合、N は達成動名詞でなければならないということがわかった。

4.3　$N_{モノ}$ガデキル

前節では、$N_{コト}$ガデキル動詞句を見たが、本節では$N_{モノ}$ガデキル動詞句を見る。論文の先取りになるが、ほぼすべてのモノ名詞が N ガデキル動詞句において可能の意味を表すことはない。ただ、そのうち、可能を表し得るモノ名詞もある。本節でもまず可能を表さない$N_{モノ}$ガデキルから見ていく。

4.3.1　生起と完成を表す$N_{モノ}$ガデキル

可能を表さない$N_{モノ}$ガデキル動詞句は動作主の有無という前提により、生起と完成の二つに分けられる。＜生起＞と＜完成＞の違いは改めて行為連鎖により次のように示す。a は動作主なしに、モノ y が自然に生じるという生起を表す。b は、動作主 x が y を作るという前提でモノ y が完成するという完成である。そのため、完成を表す$N_{モノ}$ガデキル動詞句の$N_{モノ}$は作り物である。

（124）a.　＜行為＞　→　＜変化＞　+　＜結果＞
　　y ができる。
　　b.　＜行為＞　→　＜変化＞　+　＜結果＞
　　x が y を作る　　y ができる。

そして、「何かを作る」こと自体が達成動詞句であるため、これがモノ名詞にタイプ強制が適用される条件であると考えられる。つまり、デキル$_{＜完成＞}$は達成動詞のコト名詞を指定するので、モノ名詞の場合、動作主がそれを作る前提があればタイプ強制が適用されると考えられる。それについては後ほど詳しく考察する。

まず、自然に生じると考えられるモノの場合、以下のように挙げる。

（125）a. でも、別れた奥さんに子供が出来ていました。
(Yahoo!知恵袋, 2005, 恋愛相談、人間関係の悩み)
b. 健太だって、保育園にいい友達が何人もできている。
(能島龍三著 『風の地平』, 2003, 913)
c. 背中ににきびができています。 (Yahoo!知恵袋, 2005, Yahoo!知恵袋)
d. そして何としてもそれを組合員に知らせたいという気持ちができて、共済学習にいっそうはずみをつけていきました。
(高橋晴雄編著 『発想の転換』, 2001, 365)

確かに、これらの語は作り物ではなく自然に生じるモノであると考えられる。しかし、これらの語は「作る」と共起することもある。

（126）a. 子供をたくさんつくりましょう。
(シドニィ・シェルダン著;天馬竜行，紀泰隆訳 『時間の砂』, 1990, 933)
b. 講座・講習に参加して友だちをつくる。
(久田邦明編著 『子どもと若者の居場所』, 2000, 379)
c. ニキビを作らないためにできることは何があるのか、チェックしていきたいと思います。
（http://xn--n8jyd3d9a0j9g5bz120bic1b93o.com/dekirukoto.html）
d. 「やりたい」という気持ちを作ることがまず基本である。
（河村要和(著)『"どの子も自転車に乗れるようになる"新ドリル』，2003）

このように、ほぼすべてのモノが「作る」と共起し得る。しかし、これらは「ピアノを作ろうとしてピアノができた」の「作る」とは次元が異なるものだと考えられる。ここで、「子供」と「ピアノ」についてそのクオリア構造を見る。

（127）a. 「子供」のクオリア構造
CONS＝命、血、DNA、受精卵…
FORM＝ヒト（y）
TELIC＝　―
AGEN＝二人の異性の人間（x）が性行為をする…
b. 「ピアノ」のクオリア構造
CONS＝キーボード、弦、木材…
FORM＝モノ（y）
TELIC＝人（x）がピアノ（y）を弾く
AGEN＝人（x）がピアノ（y）を作る

上記のように、子供が生まれてくる前提として、二人の異性の人間、即ち親が性行為すること[44]が前提になっている。一方、ピアノの成り立ちには人がそれを作るということが前提である。そして、ピアノを作るにつれて、ピアノが徐々に形になってくるが、子供は産む親が性行為するにつれても形にならない。

この、作る行為が進むにつれて、形になるものは「漸増的変化対象（incremental theme）[45]」とみなす。「N を作る」のヲ格名詞句は作るという行為に伴い、徐々に形になり、それが完成する時点で「N を作る」ということも終了するので、「N を作る」全体が達成の事象となる。すると、（123）の仮定に当てはまることになるため、これをタイプ強制が適用される条件とみなす。

[44] 科学技術が進んでいる今日では、性行為をせずに精子をもらって子どもを作ることもあるが、ここでは普通の場合を扱っている。
[45] 上野・影山（2001：57）によれば、「漸増的変化対象」は、「行為の進行に伴って徐々に変化あるいは増加ないし減少していく事物」のことである。

つまり、主体役割に動作主がそれを作ろうとすることが記載されていれば、タイプ強制が適用されるということである。したがって、(123) に修正した仮定をまた次のように修正する。

(128) デキル$_{<完成>}$は達成動名詞のコト名詞を指定する。モノ名詞の場合、主体役割に動作主がそれを作ろうとするという前提がある場合にかつその場合にのみ、タイプ強制が適用される。

以上で、＜生起＞と＜完成＞を表す N$_{モノ}$ガデキル構文を見てきたが、＜生起＞を表すか、＜完成＞を表すかはクオリア構造の主体役割に動作主が意図的に N$_{モノ}$を作ろうとするか否かで決めることが明らかになったのである。

4.3.2　可能を表す N$_{モノ}$ガデキル

筆者の仮定では、デキル$_{<可能>}$はコト名詞を指定するが、モノ名詞の場合、タイプ強制が適用されデキル＜可能＞と共合成するのだという想定である。そこで、本節では、タイプ強制が適用される条件を探る。まず、次の用例の中で、「息ができる」のみ、可能の意味を表す用例以外見当たらない。

(129) a. 息ができず、声も出せない。 (逢坂剛著『熱き血の誇り』, 2002, 913)
b. 大和一隻で、十分に相手ができる。
(竹内誠著 『太平洋最終決戦・不沈空母「硫黄島」』, 2002, 913)
c. いまだにメールができません。 (Yahoo!知恵袋, 2005, 携帯電話、モバイル)
d. いつもなら日曜日はゲームなんですが今日は親が家にいるんでゲームが出来ません。 (Yahoo!ブログ, 2008, レジャー)
e. 英語ができる女性はたしかに知的に見えます。
(緒方明著 『ミキハウス症候群』, 1993, 367)
f. もちろん言葉ができるのにこしたことはない。
(九里徳泰著 『冒険王への 100 の戦術』, 2000, 786)
g. 何でこんな簡単な問題ができないの！ (Yahoo!ブログ, 2008, 教育)
h. 今まで演奏しきれなかった曲が出来るようになる。
(文芸ポスト, 2005, 文学／芸術)
i. 事務のパートを募集していて休日など勤務時間も子供がいる私には条件が良いなと思ったのですがやはり今の時代、パソコンが出来る事が条件ですよね？ (Yahoo!知恵袋, 2005, 資格、習い事)
j. いつまでたっても，数学ができるようにはなりません。
(新井紀子著 『ハッピーになれる算数』, 2005, 411)

なぜ「息」は可能の意味しか捉えられないのであろうか。以下、そのクオリ

ア構造を見る。四つの役割をまとめて言えば、「息」は生命体が生きるために気を吸ったり吐いたりする生理現象である。すでに、4.2.1 節で生起と完成を表す N モノガデキル構文を見たが、クオリア構造の主体役割に動作主の存在があれば、完成の意味を表しうることが明らかになった。しかし、「息」はその反例である。

（130）「息」のクオリア構造
CONS＝気（y）
FORM＝モノゴト（y）
TELIC＝生命体（x）が生きるために息をする。
AGEN＝生命体（x）が気（y）を吸ったり吐いたりする。

なぜ「息」は可能の意味しか表さないのであろうか。これは動機づけがないことが原因として考えられる。つまり、「息」というものは、積極的に作るものではなく、生きていく限り必ず作られるものであるため、生起か完成の意味を表す動機づけがないのである。

次に、「相手」のクオリア構造を次のように想定する。

（131）「相手」のクオリア構造
CONS＝最低一人の人間（x）
FORM＝ヒト（x）
TELIC＝最低一人の人間（x）が誰かと対抗する…
AGEN＝最低一人の人間（x）が誰かの相手になる。

「相手」は人間であるが、この人間は誰かと対抗するために、その誰かの相手になる。つまり、「相手ができる」は「対抗ができる」という意味がある。（129b）の用例で説明すれば、「大和一隻で、十分に対抗できる」と言い換えられる。

また、「メール」のクオリア構造を次のように想定する。これは、メールというものは文字から構成され、人が情報を伝達するためにメールを作成する、ということを表している。

（132）「メール」のクオリア構造
CONS＝文字（y）
FOMR＝モノ（y）
TELIC＝人（x）がメール（y）により情報を伝達するため
AGEN＝人（x）がメール（y）を作成する。

以上の三つの例を見れば、タイプ強制が適用される条件は、目的役割にある

のではないかと思えてくる。これを検証すべく、もう少し例を見てみる。すでに見たように、「ゲーム」という語はモノゴト名詞であるが、モノ名詞の場合、ゲームソフトを指す。以下、「ゲーム」のクオリア構造を再掲するが、モノ名詞の意味を中心に見るため、形式役割には「モノ」と書き換える。下記のように、「ゲーム」の目的役割にも、人がゲームにより何等かのことをする、ということが記載されている。

（133）「ゲーム」のクオリア構造（＝108 部分修正して再掲）
CONS＝最低一人の人間（x）、ゲームの道具…
FORM＝モノ（y）
TELIC＝人がゲーム（y）で楽しむ／勝負をする…
AGEN＝ゲーム会社の社員（x）がゲームソフト（y）を作る。

また、主体役割に作り手が意図的にゲームを作ることが記載されているので、「ゲームができる・できた」は＜完成＞の意味も表す。

（134）ミクシィが新しいコミュニケーションを考えたら、ゲームができた。
（http://news.mynavi.jp/series/workreport03/001/）

次に、「○○語」と「言葉」のクオリア構造は次のように想定できる。「○○語」と「言葉」は歴史の成り行きで出来たものであるが、人はこれによりコミュニケーションを取ることが「○○語」ないし「言葉」の目的・機能である。

（135）「○○語」と「言葉」のクオリア構造
CONS＝音声、文字、文法規則、意味…
FORM＝モノ（y）
TELIC＝人が○○語（y）か言葉（y）によりコミュニケーションを取る。
AGEN＝歴史の成り行き

また、「問題」はモノ名詞ではあるが、次にあげるように、PROBLEM としての問題と、QUESTION としての問題、即ち試験問題という二義性がある。

（136）a. ＡＶＩ形式の動画をＴＭＰＧＥｎｃ　Ｐｌｕｓ　２．５を使いｍｐｇに変換したいんですが・・・少し問題が出来ました。。。
(Yahoo!知恵袋, 2005, パソコン、周辺機器)
b. 何でこんな簡単な問題ができないの！

前者の「問題ができる」は生起の意味を、後者は可能の意味を表している。以下、それぞれのクオリア構造を次のように想定する。

（137）「問題」のクオリア構造

	PROBLEM	QUESTION
CONS＝	何らかの事柄	文字、記号…
FORM＝	モノ（y）	モノ（y）
TELIC＝	―	学生（s）が問題（y）を解く
AGEN＝	―	教員（x）が問題（y）を作成する

まず、PROBLEM としての問題は何らかの事柄から構成され、自然に生じるものである。自然に生じるので目的役割がない。一方、QUESTION としての問題は教員が学生に解いてもらうように作成するものである。つまり、目的役割がタイプ強制の条件にあてはまる。そこで、（91）の仮定を以下のように修正する。

（138）デキル$_{<可能>}$もコト名詞を指定する。モノ名詞の場合、目的役割に人がそのモノにより何等かのことをする場合かつその場合にのみ、タイプ強制が適用される。

最後に、検証としてパソコンという語のクオリア構造を見る。目的役割に人がパソコンにより何等かのことをすることが記載されている。

（139）「パソコン」のクオリア構造

CONS＝スクリーン、キーボード、マウス、ディスク…
FORM＝モノ（y）
TELIC＝人（x）がパソコン（y）によりゲームをしたり文書を作成したりする
AGEN＝人（x）がパソコン（y）を作る

実際に、「パソコン」とデキル$_{<可能>}$と共合成すれば、次のようになる。

（140）「パソコンができる」のクオリア構造

CONS＝[$_{STATE}$ z BE WITH y]
FORM＝event：状態
TELIC＝[$_{EVENT}$ x ACT WITH y]
AGEN＝[$_{EVENT}$ x MAKE y]

上記のように、目的役割には動作主が y によって何らかのことをするということが記されている。これで、(138) に修正した仮定が立証できたわけである。これも 4.2.2 節で観察したように目的役割は可能の意味を指定するということと一致している。

4.4　N $_{モノゴト}$ガデキル

本節では、N $_{モノゴト}$ガデキルが生起、完成、可能の全ての意味を表すか否かについて考察する。N $_{モノゴト}$ガデキルが生起と可能を次に用例を挙げる。

（141）a. 警務課は、会社でいう総務みたいな部署だ。 その夜、僕にさっそく仕事が出来た。例の、大凪町のマンションでの殺人事件に捜査本部が置かれることになり、僕は、捜査資料のコピーを捜査員たちに配ることになったのだ。

(君塚良一脚本;丹後達臣ノベライズ 『踊る大捜査線スペシャル』, 1998,)

b. いずれまた一緒に仕事ができますよ。

(渡辺房男著 『インサイダー』, 2004, 913)

筆者の管見の限り、「仕事」という 1 語のみ N $_{モノゴト}$ガデキル動詞句で生起と可能の両義を表し、それ以外は完成と可能の両義を持つ。では、「仕事」のクオリア構造を次に想定する。

（142）「仕事」のクオリア構造

CONS＝[$_{EVENT}$ x ACT (ON-y)]
FORM＝モノゴト（y）
TELIC＝　―
AGEN＝　―

上記のように、「仕事」は目的役割と主体役割に動作主の記載がないが、生起しか表さない（116）の 6 語と異なり、構成役割には「何等かの事柄」という漠然とした記述ではなく「動作主が仕事をする」ということが記されている。つまり、「仕事」は、コト名詞として具体的な意味概念を有するということである。また、4.2.2 節で述べたように、目的役割に何の記載もないため、タイプ強制が適用され、N $_{モノゴト}$ガデキル動詞句で生起を表し得るのである。

（143）a. しらばくして、こんな料理が出来ました。

(Yahoo!ブログ, 2008, グルメ、ドリンク)

b. 料理ができないというのは、食に関心がないということ。

(熱海勝著 『子どもの「好き嫌い」がなくなるお母さんの魔法のレシピ』, 2003, 498)

c. 食事ができるまで、ワインでも飲んでらして。
(北沢拓也著 『愛宴の人妻』, 2002, 913)

d. ここなら日陰で食事ができる。
(カレン・ローズ・スミス作;仁嶋いずる訳 『シンデレラになる資格』, 2002, 933)

e. 計画ができたら先生に報告し，点検を受ける。
(高等学校　物理Ⅱ, 2006, 高)

f. 一億以上の人口を抱えた大国でそういった計画ができるかという問題があります。 (福田和也著 『「日本」を超えろ』, 1999, 304)

g. こんな話ができました。 (Yahoo!ブログ, 2008, Yahoo!ブログ)

h. 誰にも聞かれずに話ができる。
(アガサ・クリスティー著;中村妙子訳 『アクナーテン』, 2004, 932)

i. 次に中小企業対策特別委員会が出来た。
(古関忠男著 『言いたい事は山ほどある』, 2003, 368)

j. 友人と演奏会ができるホールを―

上記のように、これらの語は N ガデキル動詞句で完成と可能の両方の意味を表している。一方、次のような語は可能を表す用例しか見当たらない。

(144) a. ルータに、モデムとＰＳとＰＣをつなぐと、２台同時にインターネットができます。 (Yahoo!知恵袋, 2005, インターネット)

b. ｍｓｎメッセンジャーなどを使うとヴォイスチャットや電話ができますよ。 (Yahoo!知恵袋, 2005, パソコン、周辺機器)

c. 読み取り専用になっているためなのか、内容を変更して保存したり、コピーが出来ないのですが、解決できますか？
(Yahoo!知恵袋, 2005, パソコン、周辺機器)

d. 日本人がｒとｌの発音が出来ない人が多いように、日本語の発音で、外国の方が出来ない発音ってあるのでしょうか？
(Yahoo!知恵袋, 2005, 言葉、語学)

e. マイクロドライブ対応で、静止画５，４００枚、動画５０分の記録ができる。
(ＤＩＧＩＴＡＬ　ＣＡＭＥＲＡ　ＭＡＧＡＺＩＮＥ, 2001, 電気機／電子)

これらはモノゴト名詞であるため、可能と完成を表すはずであるが、実際には可能の意味を表す用例しか見られない。このことの原因は二つ考えられる。まず、考えられる可能性は偶然用例が集まらなかったこということである。もう一つ別の可能性は、完成を表す動機づけがないからということである。例えば、インターネットは確かに誰かによって作られたものであるが、日常生活の中で、一般の人はインターネットによってあれこれをするだけであり、可能の

意味の N $_{モノゴト}$ガデキルを発話する「電話ができる」の場合もそうだと考えられる。勿論、「誰かが電話機を作ろうとして電話ができた」場合は発話できる。

以上で N $_{モノゴト}$ガデキルの場合も考察したが、モノとコトの両義性を持つモノゴト名詞の場合、「仕事」のみ生起と可能の両義を表し、それ以外は可能と完成の両義を表すということがわかった。

4.5　まとめ

ここまで、N $_{コト}$ガデキル、N $_{モノ}$ガデキル、N $_{モノゴト}$ガデキルを見てきたが、まとめれば、次のように言える。

コトの名詞は N ガデキル動詞句では、基本的に可能を表し、さらに達成動名詞の場合は完成を表す。「状況」「急用」「状態」「事態」「用」「習慣」の 6 語はクオリア構造に動作主の存在がないので、可能を表すことができず、タイプ強制が適用され、生起を表すことになる。

一方、モノ名詞は N ガデキル動詞句では、基本的に生起を表すが、動作主が意図的に作る前提がある場合、完成も表す。そして、可能を表すのは、目的役割に人がそのモノにより何等かのことをすることの記載がタイプ強制の適用する条件である。

以上のことは次のように簡潔にまとめることができる。

（145）モノ名詞とコト名詞とデキルとの関わり合い

	モノ名詞	コト名詞
生起	デフォルト	「状況」「状態」「急用」「事態」「用」「習慣」の 6 語のように、目的役割に動作主の記載がない場合にかつその場合にのみ、タイプ強制が適用される。
完成	主体役割に動作主が意図的にそれを作ろうとする場合、かつその場合にのみタイプ強制が適用される。	達成名詞の場合のみ
可能	目的役割に人がそのモノにより何等かのことをすることが記載れる場合かつその場合にのみタイプ強制が適用される。	デフォルト

また、両義性を持つモノゴト名詞は N ガデキル動詞句では、可能しか表さない場合もあれば、生起と可能または可能と完成の両義性を持つ場合もあるのである。

第 5 章　N ガデキル構文の意味用法

前章で考察した結果、「N ガデキル」という句レベルで＜生起＞、＜完成＞、＜可能＞のいずれの意味が指定されるが、N ガデキルで少なくとも両義性を有する場合もあるということがわかった。例えば、「ピアノができる」は完成を表す場合もあれば、可能を表す場合もある。このような N ガデキルという動詞句単位で完成と可能の意味を表すものが最も多いので、本章では、主に完成と可能の両義性について考察する。

具体的には、まず完成と可能の両義性を持つ N ガデキルを提示し、それらを付加部（adjunct）の有無、否定のナイ及びテンス・アスペクトなどの観点から考察を試みたい。この三つの観点から考察するのは、日本語における文は次の要素から構成されるからである。

（146）　家で　勉強が　でき　てい　なかっ　た。

付加部　補部　主要部　アスペクト　否定　テンス

これまでは、N ガデキルという「補部+主要部」を中心に考察してきたが、本章では、考察の範囲を広めるのである。更に、生起、完成、可能を表す N ガデキルが後接する形式についても論じたい。

5.1　完成と可能の両義性を持つ N ガデキル

第 4 章で、完成と可能の両義性を持つ N ガデキルは二通りある。まず、次に挙げるように N が達成動名詞の場合である。

（147）準備ができる、確認ができる、用意ができる、設定ができる、計算ができる、支度ができる、整理ができる、計画ができる、修理ができる、充電ができる…

次に、N が「ピアノ」、「パソコン」、「電話」、「料理」といったモノ（ゴト）名詞の場合である。「ピアノ」や「パソコン」といったのモノ名詞の共通点は、人工物であるので、主体役割で動作主がそれを作ろうとする意図性が指定されたり、目的役割でそのものにより何らかのことをするということが指定されたりする点である。「電話」や「料理」のようなモノゴト名詞の場合、コトとしての意味が指定されれば、N ガデキルで可能を表すが、モノとしての意味が指定されれば、完成の意味となる。

それでは、完成と可能の両義性を有する N ガデキルはどの場合に完成と可能を表すのであろうか。以下、まず付加部の有無という観点から考察していく。

5.2　付加部の有無

1.1.3 節でデキルと緊密性が最も強いのはガ格名詞句であり、ニ格名詞句はあってもなくてもよいという点で付加部であると述べた。つまり、付加部（adj(unct)）とはあってもなくてもよいという任意な要素なのである。そして、2.1.2 節で筆者は N ガデキルの段階で意味が指定されると想定し、ニ格名詞句について前触れした。しかし、第 4 章の結果から見れば、N ガデキルの段階では意味が指定される場合もあれば、指定されていない場合もある。そこで、本節では、ガ格名詞句に次いでデキルと緊密性が強いニ格名詞句を射程に入れ、N ニ N ガデキルというまとまりで意味が指定されるのだと想定する。

5.2.1　N ニ N ガデキル

2.1.2 節で既述したように完成と可能はニ格において大いに異なっている。次のように、前者がニ格名詞句にトコロを指定するのに対し、後者はヒトを指定する。なお、可能の場合、ニ格名詞句が非情物だと非文となる[46]。

（148）a. 食卓の上に料理ができている。　　＜完成＞
　　b. 主人に料理ができるのか。　　＜可能＞
　　c. *この機械に計算ができる。

上記の a のほかに、ニ格名詞句が伴われる完成の N ガデキルの用例を次に挙げる。

（149）a. 団地のそばに、新しい店ができたからだ。
(広越たかし作;高橋透絵　『初恋はレモンの味？』, 1988)
　　b. また、川越市や行田市にも「いもっこ」「ひまわり」、上尾市に「エンジェル」とつぎつぎに会ができていきました。
(「しなやかに生きて」編集会議編　『しなやかに生きて』, 2002, 369)
　　c. 明治四年（一八七一）、深川万年橋に利根川丸会社ができて、川蒸気飛脚便利根川丸が就航した。
(鈴木和明著　『行徳歴史街道』, 2004)
　　d. 一つの流域に複数の国ができたら川は治められない。
(中井久夫著　『時のしずく』, 2005, 049)
　　e. 高度経済成長期には，三島市に新幹線の駅ができました。
(新しい社会　歴史, 2005, 中)

[46] 但し、「ロボットに何ができる」という例では、ニ格名詞句に非情物の「ロボット」が来ても適格文である。

しかし、これらはいずれもガ格名詞句がモノ名詞である。ガ格名詞句がコト名詞、即ち達成動名詞の場合、次のように、完成を表す N ガデキルでも、ニ格名詞句が伴われない。

（150）a. *パソコンに確認ができている。
b.*テーブルの上に準備ができている。
c. *スマホに充電ができている。

それでは、達成動名詞ガデキルはどの場合に完成と可能のいずれの意味を表すのであろうか。それについては次節で考察することにする。

5.1.2　ADJ +達成動名詞ガデキル

まず、完成を表す達成動名詞ガデキルの用例を次のように挙げる。前述したように、場所を表すニ格名詞句の存在が見当たらない。

（151）a. 準備ができたらスタート～。　(Yahoo!ブログ, 2008, Yahoo!ブログ)
b. 実は確認ができておりません。　(国会会議録, 1976, 特別委員会)
c. 用意が出来たらすぐ出かけよう」
(高陽著;鈴木隆康，永沢道雄訳 『西太后』, 1995, 923)
d. 設定ができたら、その部分を再生して確認します。
(大野恵太著;SCC ライブラリーズ編 『Premiere LE でビデオ編集』, 2002,)
e. その計算ができたところで私は口を開いた。
(田中芳樹著 『戦場の夜想曲』, 1987, 913)
f. 仕度ができたら呼びにきます。　(藤堂志津子著『淋しがり』, 1999,)
g. 今日のは、まだ整理が出来てませんので、後ほど載せます。
(Yahoo!ブログ, 2008, 日本)
h. 計画ができたら先生に報告し，点検を受ける。
(高等学校　物理Ⅱ, 2006, 高)
i. その情報とは、唐が高句麗の攻略を終了して、軍船の修理が出来次第、大軍を新羅と倭国に向けるというものであった。
(黒須紀一郎著 『役小角』, 2002, 913)
j. 図面を描く為に、現場に見に行こうとしたら、デジカメのバッテリーがない（からっぽ）。しょうがないから、社長はバッテリーの充電ができるまで楽しそうに外で車の整理。パンパンパンと音がするから、どこかの主婦が、布団をたたいてるのかと思ったら、社長が、きったない自分の車のシートのほこりをたたき出していました。　(Yahoo!ブログ, 2008, 病気、症状)

それでは、逆に、ニ格名詞句が伴われた上にそれがヒトの場合、文全体が可能の意味を表すと言えるのであろうか。現に、下記のように、可能の場合もニ格が伴われないことが多い。

（152）a. これで仕事などと両立しながら準備ができる。
(Yahoo!知恵袋, 2005, 海外)
b. 防災無線の確認が電話でできます。　(広報わじま, 2008, 石川県)
c. どうしよう、これではお昼の用意ができない。
(乙一著 『夏と花火と私の死体』, 2000, 913)
d. これで設定ができます。　(Yahoo!知恵袋, 2005, パソコン、周辺機器)
e. パソコンのプログラムで、この計算が簡単にできるものもあります。　(久保知行著 『わかりやすい企業年金』, 2004, 366)
f. いざという時、食事のしたくができますか？
(広報わじま, 2008, 石川県)
g. 貼ったりはがしたりが自在にできるので、保存と整理が簡単にできます。　(ＭＩＮＥ, 2001, 一般)
h. 一億以上の人口を抱えた大国でそういった計画ができるかという問題があります。　(福田和也著『「日本」を超えろ』, 1999, 304)
i. それ以前に修理ができるのかもわからないのですが。
(Yahoo!知恵袋, 2005, 家事、住宅)
j. 完全に空っぽになってから、充電が出来るのです。
(Yahoo!知恵袋, 2005, 一般教養)

上記の例は、「これで（は）」、「電話で」、「プログラムで」、「いざという時」などの副詞句がついている。これらの副詞句もあってもなくてもよいという点で付加部とみなす。そして、これらの付加部は動作の実現が可能か否かを左右する状況・条件であるので、このような可能文は＜状況可能＞と呼ばれている（日本語記述文法研究会 2009）。逆に、完成には状況可能のような条件節を前接することが少なく、むしろ完成を表す N ガデキル動詞句が条件節に位置する場合が多い。

また、能力の所有者が現れる形式は必ずしもニ格名詞句ではなく、ハでマークされる場合もある。

（153）a. おいらは計算ができません。
(池田みち子著 『池田みち子の東海道中膝栗毛』, 1996, 913)
b. ドイツの子供は 3 歳から整理ができる。
（http://www.setuyaku-life.net/?p=3341）
c. でも、汽車がくるまで、とうさんは修理ができない。

(ローラ・インガルス・ワイルダー作;谷口由美子訳 『長い冬』, 2000)

d. また、キャパシターは、従来のバッテリーに比べて寿命が半永久的で、短時間で充電ができ、メンテナンスがいらない、という利点から、自動車やパソコンや携帯電話から、ソーラー発電や風力発電などの「自然エネルギー」用の蓄電池としての需要も高い。 (エムシーエー総研編著 『人脈資本革命』, 2002, 335)

また、2.1.2 節で述べたように、可能のニ格名詞句には必ず有情物でなければならない。しかし、上記の d の場合、ハでマークされている名詞が有情物ではない。ハにはニ格のような制限がないようである。

以上で、達成動名詞ガデキルを中心に、完成と可能の違いについて付加部の有無という観点から考察した。その結果は次のように言える。まず、ニ格名詞句が伴われている場合、ニ格名詞句がトコロかヒトかによって完成か可能かが決まる。ニ格名詞句が伴われていない場合、ハでマークされる能力の所有者の存在を確認する。能力の所有者がある場合、文全体が可能を表すが、それがない場合、完成を表すことになる。また、時間や手段といった条件を表す副詞句が伴われている場合、状況可能の意味を表す。

5.1.3　ADJ+N モノガデキル

それでは、完成と可能の両義を持つ N モノガデキルを用いて以上のことを検証する。ニ格名詞句が伴われる場合は既に見たので、ここでは提示しない。以下、ニ格名詞句以外の付加部が伴われる用例を挙げる。

（154）a. しかし、一主婦の思いだけで会ができるはずはない。

(加納実紀代著 『女たちの<銃後>』, 1987, 367)

b. 同じ食品でも，調理のしかたを変えると，味や見た感じのちがったいろいろな料理ができます。 (新編　新しい家庭, 2006, 小)

c. もう居場所から居場所に連続していくことだけで家ができているような、そういうのを見るにつけ、もちろんつくり方とかは現在とまったく違ってくるけれども、そこには共通するものがあるのかなと思って、非常に不思議な、新鮮な印象を受けました。 (『フランク・ロイド・ライトのルーツ』, 2005)

上記の例から見れば、条件節があっても完成か可能か少し判断しにくいということがわかる。a は「一主婦の思い」という手段で、「会が完成される」か「会が完成されることができる」という二通りの解釈ができる。b も「調理の仕方を変える」という条件があるが、その条件で「料理が完成される」または「料理することができる」という二通りの解釈ができる。最後に、c に関して

は「もう居場所から居場所に連続していくことだけで」という条件で、「家ができる」ことであるが、これは完成である。このように見れば、完成と可能の両義を有する N モノガデキルは、付加部がついて、完成か可能か判断がつかない場合もあれば、判断がつく場合もある。

さらに、ハでマークされる名詞句について、次の例がある。但し、a は完成でも可能でもなく、生起を表している。b は完成、c は可能を表している。

（155）a. 私は子息に子供ができた。　　（＝9①b 例文）
b. 先輩は二年で論文ができた。（作例）
c. 私は男なのですが、料理が出来なくて困っています。
(Yahoo!知恵袋, 2005, 料理、グルメ、レシピ)

このように、ハでマークされる名詞句があっても、それが必ずしも能力の所有者ではなく、文全体が可能になるとは限らない。

5.1.4　まとめ

以上のことをまとめれば、達成動名詞句ガデキルは次のように簡潔に結論付けることができる。

（156）達成動名詞句ガデキル構文の意味

	完成	可能
a.　ニ格あり	場所	能力の所有者
b.　ハでマークされる能力の所有者	なし	あり
c.　条件を表す副詞句	なし	あり

一方、モノ名詞の場合、上記の a は同じであるが、b の場合、ハでマークされる名詞句が付く前に意味が N ガデキルの段階で決まっていることが観察できた。最後に、c の条件を表す副詞句がついても完成と可能の区別しがたい場合もあれば、N ガデキルという段階で意味が指定される場合もある。

このように、本節では付加部の有無という観点から完成と可能の違いについて考察を試みた。次からは否定接辞のナイが付く場合から考察したい。

5.2　否定接辞のナイ

生起と完成を表す N ガデキル文に否定接辞のナイが付く場合、N ガデキナイとなり＜不可能＞を表すことになる。その用例は次のようになる。これらはモノ名詞の下位分類であるヒト名詞である。

（157）a. 子供ができない人もいる。　　(Yahoo!知恵袋, 2005, 子育て、出産)

b. 正直言ってなぜ友達ができないのかわかりません。

(Yahoo!知恵袋, 2005, 恋愛相談、人間関係の悩み)

c. 彼女ができないんで、ぬいぐるみと寝ています。

(Yahoo!知恵袋, 2005, Yahoo!知恵袋)

d. 同性にばかり好かれてしまい、彼氏が出来ません。

(Yahoo!知恵袋, 2005, 恋愛相談、人間関係の悩み)

e. おえんとの間に、子が出来ないことへの冷やかしである。

(大栗丹後著 『裏隠密繋ぐ』, 2000, 913)

f. でも、いつも自分のまったくタイプではない女性にばかり告白されるので、なかなか恋人ができません。

(週刊プレイボーイ, 2004, 娯楽／芸能)

g. 結婚したとき、医者にこう言われた。「この先５年間は赤ちゃんができません。母体の保証がありませんから。

(長門裕之著 『洋子へ』, 1985, 778)

h. 恋愛をしたくても好きな人ができない人向けの記事で、まず、好きな人ができない原因とシチュエーションを紹介しています。

（https://www.pairs.lv/3353）

これらの用例が不可能の意味を表している証拠として、「作れない」と言い換えられる点が挙げられる。

（157’）a. 子供が作れない人もいる。

b. 正直言ってなぜ友達が作れないのかわかりません。

c. 彼女が作れないんで、ぬいぐるみと寝ています。

d. 同性にばかり好かれてしまい、彼氏が作れません。

e. おえんとの間に、子が作れないことへの冷やかしである。

f. でも、いつも自分のまったくタイプではない女性にばかり告白されるので、なかなか恋人が作れません。

g. 結婚したとき、医者にこう言われた。「この先５年間は赤ちゃんが作れません。母体の保証がありませんから。

h. 恋愛をしたくても好きな人が作れない人向けの記事で、まず、好きな人ができない原因とシチュエーションを紹介しています。

以上はヒト名詞の場合であるが、他のモノ名詞の場合はどうであろうか。以下の例も「作れない」と換言できる点で、＜不可能＞の意味が読み取れる。

（158）a. 支店長によっては「囲む会」が赴任の先々でできる。一方、会

が全くできない支店長もいる。

(金平敬之助著 『それでいいんだよ』, 1996, 159)

a'. 支店長によっては「囲む会」が赴任の先々でできる。一方、会が全く作れない支店長もいる。

b. このことで、総合的な競争力ができないでしょうか。

(末松安晴編 『知と美のハーモニー』, 2003, 041)

b'. このことで、総合的な競争力が作れないでしょうか。

c. 昆布はそのままでは盃の形ができません。

(平井工著 『一人でできる特許の取り方・活かし方』, 2003, 507)

c'. 昆布はそのままでは盃の形が作れません。

更に、完成を表す達成動名詞ガデキルに否定接辞のナイが付くと、次のように、不可能の意味が捉えられる。

（159）a. 1 人で出かける準備ができない…

（https://oshiete.goo.ne.jp/qa/8565224.html）

b. 金曜日に入金の連絡がありましたが確認ができません。

(Yahoo!知恵袋, 2005, Yahoo!オークション)

c. 必要なものの用意ができない、感覚が鈍い（時間，方向，感情など）というのは僕は発達障害者です.

（https://oshiete.goo.ne.jp/qa/8565224.html）

d. メールの設定ができません。 (Yahoo!知恵袋, 2005, 政治、社会問題)

e. 正確な計算ができない。 (国会会議録, 1977, その他)

f. 1 人できちんとしてほしい、どうしてこれだけの支度ができないのか、という気持ちは良く分かりますが、親の諦めも必要なんじゃないかな...。 (Yahoo!知恵袋, 2005, 子育て、出産)

g. 変にごまかされたら彼女だって気持ちの整理が出来ないし、告白する前に諦めさせる、なんて今までの彼女の想いが可愛そう。

(Yahoo!知恵袋, 2005, 恋愛相談、人間関係の悩み)

h. 「計画重視」といえども、完璧な計画ができないと実行に入らないということでは、段取りの展開スピードが遅くなります。

(吉原靖彦著 『仕事がどんどんうまくいく「段取り」の教科書』, 2005, 336)

i. もう、修理ができない程度の故障な気もするんだけどね。

(Yahoo!ブログ, 2008, 音楽)

j. 充電が出来ない以上、持っていても仕方ないので買い換えを考えています。 (Yahoo!知恵袋, 2005, 家電、AV 機器)

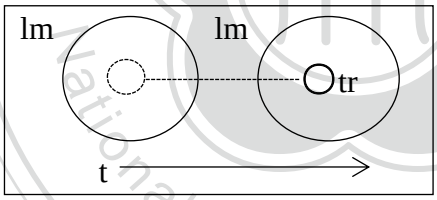
このことはすでに寺村（1982)、ヤコブセン（1989）と蘇（1990）などで述

べられている。寺村によれば、「自発と思われる表現でも、否定になったときは、可能と区別しがたいことがよくある」。さらに、肯定よりも否定のほうが可能の意味が濃厚の場合もある（蘇 1990）。その原因について、ヤコブセン（1989）は、次のように説明している。下線は筆者による。

> 「自発と可能の意味が何よりも大きく区別されているのは時間的性質、つまりアスペクトにおいてである。自発の場合、対象物が一つの状態から別の状態へ変わるという、現実の時間における一回きりの変化が意味の中心をなしているのに対して、可能の場合には、変化の変わりに、一定の不変化状態が続くという意味を帯びてくる。こうした意味転換が、否定の意味を介して生じることは意味深いことである。なぜなら、変化を表す述語が否定されると、当然不変化の事態、つまり恒常の状態が意味されるようになるからである。言ってみれば、否定の意味そのものに状態性が潜在しているのである。」（ibid.：241-242）

要するに、否定というのも一種の状態なのであると考えられる。したがって、デキナイは、2.2 節で提示したデキルのイメージ・スキーマで説明がつく。以下、再掲する。

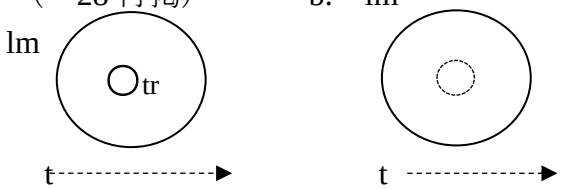
（160）デキル$_{<生起>}$のイメージ・スキーマ　（＝23 再掲）



既述したように、出来事の時間的展開を取り除けば状態になるので、このイメージ・スキーマから生起した状態を切り取れば＜可能＞となり、生起する前の状態を切り取れば＜不可能＞となる。これがデキナイのイメージ・スキーマとみなす。これらはそれぞれ次のように図示できる。

（161）デキル$_{<可能>}$とデキナイイメージ・スキーマ

a.（＝28 再掲）　　b. lm



但し、デキナイになれば必ず＜不可能＞を表すというわけでもないようであ

る。以下、＜不可能＞ではない N ガデキナイ文の用例を挙げる。これらの例は「作れない」と言い換えると、意味的に座りが悪くなる。

（162）a. 渋滞がないだけでムダな時間ができないだけでうれしい。
(Yahoo!ブログ, 2008, Yahoo!ブログ)
a'. ?渋滞がないだけでムダな時間が作れないだけでうれしい。
b. とにかくシミができないし、濃くもならない、最強の美容液。
(ｗｉｔｈ, 2004, 一般)
b'. ?とにかくシミが作れないし、濃くもならない、最強の美容液。
c. 病院の手術室にある無影灯は影が出来ないようになっていますが、どうして影が出来ないのですか。
(Yahoo!知恵袋, 2005, 健康、病気、ダイエット)
c'. ?病院の手術室にある無影灯は影が作れないようになっていますが、どうして影が作れないのですか。

これは渋谷（1993）で指摘した可能文の成立要因の一つとなる「望ましさ」に原因がある。つまり、以上の用例では、話者か動作主にとって望ましくないことなので、可能の意味が阻止されると考えられる。

以上で、生起と完成を表す N ガデキルに否定接辞のナイが付き、不可能を表す場合について考察した。それらが不可能を表すのは否定も一種の状態だからである。また、ナイがついても不可能にならない用例があるが、それは可能文が成立するためには事象自体が望ましいか否かという条件があり、それがそ望ましくない事態であれば、「作れない」と言い換えられず不可能を表さないのである。次節からはテンス・アスペクトの観点から考察する。

5.3　テンス・アスペクト

本節では、生起、完成、可能の N ガデキル構文についてテンスとアスペクトの観点から考察する。

5.3.1　ル・タ・テイル

真野・影山（2009）では、出来事と状態は次のような違いがあるとしている。

（163）

	時間軸の有無[47]	時間による展開	現在時制で現在の事実を表す
出来事	○	○	×
状態	○	×	○

[47] 真野・影山（2009：48）の表では、「時間軸（時間幅）の認識」と書いたが、実際は時間軸の有無を指す。

既述したように、本論文で言う生起と完成は時間の流れにおける出来事であり、可能は状態である。但し、ここで注意されたいのは、状態であれば必ずル形で現在を表すというわけではなく、ル形で現在を表し得るということである。つまり、ル形は未来のことを指せば、現在の事実を指すこともあるということである。

それでは、以下、ル形、タ形、テイル形という順序で考察を試みる。ル形の用例を次のように挙げる。a と b は生起を、c と d は完成を、e と f は可能を表している。

（164）a. 「まる一年というもの、ずっと用がなくても、きみと別れたすぐあとに、急用ができるかもしれない」

(カフカ著;池内紀訳 『城』, 2001, 943)

b. 雨の日はかげろうのように水溜まりが出来る。

(稀土祥子著 『駅の住人』, 2003, 913)

c. 準備ができるまで、ちょっと休みたい。

(小松左京著 『首都消失』, 1985, 913)

d. 店が出来ると、こんどは仲間がそこに集まる。

(堀野収著 『ウィーン素描』, 1997, 293)

e. これだけでも、楽に生活ができるのだ。

(R.A.サルバトーレ著;風見潤訳 『アイスウィンド・サーガ』, 2004, 933)

f. これからたくさん勉強ができる（笑 (Yahoo!ブログ, 2008)

生起の用例では、a がル形で現在よりも未来のことを指すのに対し、b は特に現在でも未来でもなく、「雨の日」という特定の時間を指している。c と d の完成の用例は、いずれも「まで」と「と」を後接しているので、ル形であるが、実際に、完成を表す N ガデキルが何も後接しない用例が比較的に少ない。それは、ル形で何も後接しない場合、可能の意味になるからだと考えられる。つまり、可能の意味が優先されるということである。このことについては 5.4 節で詳しく考察したい。また、e と f の可能の用例は、現在を指す場合もあれば未来を指す場合もある。これは真野・影山（2009）の指摘と一致していると見る。

次に、タ形の用例を以下に挙げる。同様に、a と b は過去の生起、e と f は過去の可能の用例であるが、c と d はそれぞれ完成と可能を表している。

（165）a. ちょっと急用ができたので外出します。

(森村誠一著 『悪魔の圏内』, 1992, 913)

b. おかげでチェイスには考える時間ができた。

(ディーン・クーンツ著;白石朗ほか訳 『嵐の夜』, 2001, 933)

c. やがて料理が出来た。　(海音寺潮五郎著 『二本の銀杏』, 1998, 913)

d. また、彼女の戸籍は、それに先立つ一ヶ月ほど前、棄児発見調書に基づいて、倉敷市長名義で新たに設けられており、注記に記載されていた。それは、もう一枚の書類―倉敷市役所の除籍簿の複写でも確認ができた。
「宜子さんは、養女にもらわれる前は、筆頭世帯主だったわけだ」

(二階堂黎人著 『宇宙神の不思議』, 2002, 913)

e. 食事は一年目はバイヨンヌのクラブハウスで食べました。契約がそうなっていたので、無料で食事ができました。

(岩波書店編集部編 『世界がステージ！』, 2002)

f. 気のいいアンチャンという風貌の人物だった。日本に４年暮らしていたということで、日本語で十分に会話ができた。日本語を学んだ外国人に特徴的な「〇〇デス」「××マス」という丁寧な口調だった。

(望月健，ジン・ネット取材班著 『蛇頭「密航者飼育」アジト』, 2000)

c と d は N ガデキルでは完成と可能の両義性を持つ達成動名詞ガデキルであるが、上記のように、c は「終わった」と言い換えられることから、完成の意味を表しているとみなす。一方、d は「終わった」と言い換えられないことから、確認というコトが完成したよりも実現したという意味が捉えられる。これは従来＜実現可能＞と呼ばれる意味用法である。渋谷（1993）によれば可能は潜在可能と実現可能という二系列があるので、本研究では実現可能も可能の一種として取り扱う。そうすると、d は可能の意味となる。

また、テイル形の用例は次のようになる。同様に、a と b は生起、c と d は完成、e と f は可能の用例である。生起と完成は動作性を保つデキルなので、テイルと共起することに問題はないが、テイル形のデキル可能文は実現可能である。

（166）a. 背中ににきびができています。　(Yahoo!知恵袋, 2005, Yahoo!知恵袋)

b. 小さな隙間ができている。　(鈴木光司著 『リング』, 1993, 913)

c. 「そろそろ食事ができてるでしょう」

(津原やすみ著 『ようこそ雪の館へ』, 1995, 913)

d. それから居間に戻ると、もう夜の用意が出来ている。

(有吉佐和子著 『和宮様御留』, 1978, 913)

e. 考えたら今週も結構ビッチリ仕事してたが、全くストレスゼロ！！！ ずっと笑って仕事が出来てるからね♪

(Yahoo!ブログ, 2008, Yahoo!ブログ)

f. なまじっか英語ができていたら、正確に訳しすぎて想像力を働かすことができなかったような気がする。

(高田渡著 『バーボン・ストリート・ブルース』, 2001, 767)

5.1.1 節で本研究で言う完成と実現可能は動作性を保つ点で似通っていると述べたが、e と f の「仕事ができてる」と「英語ができていたら」は「終わる」と言い換えられない点で、完成を表していないことは確かである。しかし、いわゆる可能は状態の一種であり、動作性がなくテイルと共起しえないはずである。テイルと共起する場合は実現可能と呼ばれ、可能の周辺にある用法に位置付けられる。本研究では実現可能について深入りする余裕がないので、ここに留まることにする。

以上で、ル形・タ形・テイル形から N ガデキル文について考察した。その結果、生起の場合、意味はすでに N ガデキルの段階で指定されており、ル形・タ形・テイル形を後続することで変わることがないということがわかった。次に、完成と可能の両義を有する N ガデキルについて、ル形の場合は可能の意味が優先されることが見受けられている。また、タ形の場合も完成よりも＜実現可能＞を表す場合もある。可能に関しては、タ形とテイル形の場合、＜実現可能＞という用法が現れてくるが、それについて深く追及する余裕がなかった。

次節からは、「準備ができる」や「用意ができる」といったような完成を表す達成動名詞ガデキル文と達成動名詞スル文を中心に、両形式が表す事象の違いについて考察したい。

5.3.2　N $_{コト}$ガデキルと V スルが表す事象

N $_{コト}$ガデキル完成文が達成動名詞句の終了時点を指すということを第 4 章で見たが、これらの完成を表す N $_{コト}$ガデキル文は、ル形とタ形以外に、よくテイル形で使われている。

（167）a. 人びとは結婚の準備ができている。

(洪蘭淑著;林四郎訳 『わが父文鮮明の正体』, 1998, 169)

b. 「積みこみの米と蠟燭は用意ができております」

(南原幹雄著 『銭五の海』, 1998, 913)

c. 朝食の仕度が出来ている。 (広山義慶著 『夜の総務探偵』, 2001, 913)

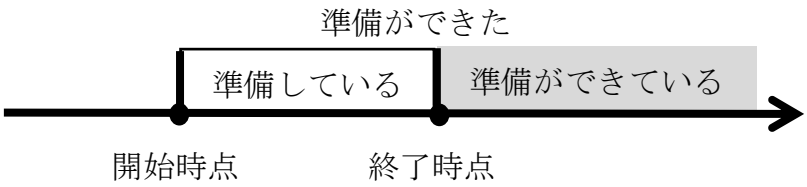
d. 一生付きあう覚悟ができているかどうかだよ！

(Yahoo!ブログ, 2008, Yahoo!ブログ)

e. また、何の目的でもってこうした混信のもとになる電波が発射されているのか、発信源はどのようなところという推定ないしは調査ができているのか。 (国会会議録, 1985, 常任委員会)

これは、デキル$_{<完成>}$の事象タイプが状態変化、即ち到達動詞の文法的振る舞いをするため、以上の動名詞における終了時点がデキル$_{<完成>}$の成立点となる。そうすれば、終了時点以降の時点は「N $_{コト}$ガデキテイル」と言える。一方、V テイルの場合は開始時点以降、終了時点までの状態である。図示すれば、以下のようになる。

（168）



同様に、＜完成＞を表す N $_{コト}$ガデキル動詞句では、否定の場合、デキナイではなくデキテイナイの形が使われる。それは既述したように、デキナイと言えば不可能の意味になるからである。

（169）a. 心の準備が出来てないって–汗　(Yahoo!ブログ, 2008, Yahoo!ブログ)

b. まだおれを始末する用意ができていないだけだ。
(サラ・ウルフ著;高橋豊訳　『死の長い鎖』, 1989, 933)

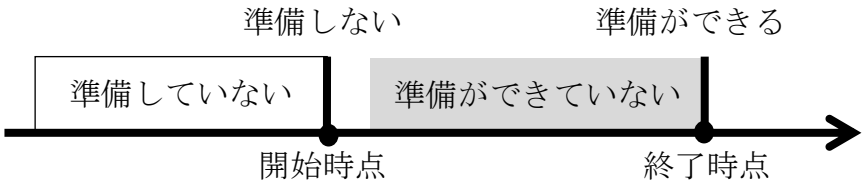
c. プリンターの設定が出来ていない事を課長に話しました。
(Yahoo!ブログ, 2008, 祝日、記念日、年中行事)

d. ただ医師として、エイズの蔓延を防止するためにはサーベイランスが必要である、その実情を知って初めて有効な対策がとれるのではないかということでお話をしておりますけれども、サーベイランスに対しての国民的な合意がまだ十分にできていない、その素地がないということは指摘しなければならないと思います。　(国会会議録, 1988, 常任委員会)

e. 「でもね、まだ支度ができてないのよ」
(シドニィ・シェルダン著;木下望訳　『遺産』, 1995, 933)

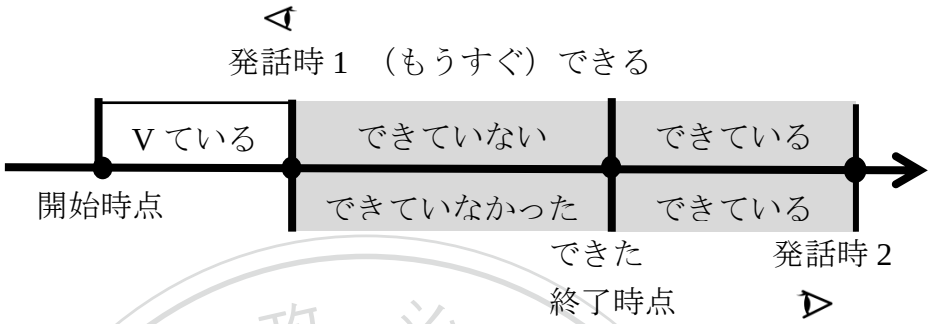
N $_{コト}$ガデキテイナイというのは、終了時点の前の任意の時点における状態であると考えられる。一方、V テイナイの場合、開始時点以前の状態を指すことになる。なお、V ナイは事象の成立を否定することになる。これらをまとめて図示すれば、次のようになる。

（170）



また、N $_{コト}$ガデキテイナイはさらに先の時点から振り返ってみれば、N $_{コト}$ガデキテイナカッタとなる。そうすれば、二つの発話時の想定が必要である。以下、発話時 1 と発話時 2 をつけ加えて、＜完成＞を表す N $_{コト}$ガデキル動詞句は次のように図示することができる。

（171）



時間軸の上は発話時 1 の言語表現であり、下は発話時 2 の言語表現である。発話時 1 は終了時点を目がけて、「（もうすぐ）N $_{コト}$ができる」か「（まだ）N $_{コト}$ができていない」と発話する。一方、発話時から終了時点を目がけて振り返って見れば、「できていなかった」、「できた」、「できている」といった発話をする。

このように、本節では、V スル文と N $_{コト}$ガデキル文が表す事象の違いをめぐって考察を試みた。その結果、N $_{コト}$ガデキル文は事象の終了時点を目がけて、その時点を含め、その前後の時点を描写する機能があるということが明らかになった。

5.4　N ガデキルを後接する形式

5.3.1 節で完成と可能の両義を有する N ガデキルはル形では可能の意味が優先されると述べた。それでは、完成を表す N ガデキルはどのような形式で使われているのであろうか。以下、用例を再掲する。

（172）a. 準備ができたらスタート～。
b. 用意が出来たらすぐ出かけよう。
c. 設定ができたら、その部分を再生して確認します。
d. 仕度ができたら呼びにきます。
e. 計画ができたら先生に報告し，点検を受ける。
f. その情報とは、唐が高句麗の攻略を終了して、軍船の修理が出来次第、大軍を新羅と倭国に向けるというものであった。

國立政治大學 National Chengchi University

g. 図面を描く為に、現場に見に行こうとしたら、デジカメのバッテリーがない（からっぽ）。しょうがないから、社長はバッテリーの充電ができるまで楽しそうに外で車の整理。

（＝151 部分再掲）

これらはいずれも完成を表しており、「たら」、「次第」と「まで」を後接している。次からはこの三つの形式に分けて、完成と可能の違いについて論じる。

5.4.1　N ガデキタラ

庵・高梨・中西・山田（2001）によれば、「～たら」には次のような意味用法がある。

（173）a. 仮定条件
b. 反事実的条件
c. 確定条件
d. 事実的条件

まず、仮定条件は、「明日もし天気が良かったら出掛けます」というように前件の真偽が未定である場合で使われる。

次に、反事実的条件は、「私が男だったら、キミに惚れていた」というように、実際には起こらなかったことについて、もしそのことが起こっていた場合はどうだったのかということを述べる場合で使われる意味用法である。

また、確定条件は、「用意が出来たらすぐ出かけよう」というように、条件の中には前件が間違いなく起こる場合で使われる用法である。

最後に、事実的条件は、「教室に行ったら、先生が来ていた」というように、条件の中には後件が実現した場合で使われる用法である。

さて、完成を表す N ガデキルが後接するのは、確定条件である。これは、この用法における前件と後件は時間的に前後の関係にあるためである。

他方、可能を表す N ガデキルでも「～たら」を後接することがある、その意味用法は確定条件ではなく、仮定条件である。その証拠として、下記のように、完成を表す N ガデキタラは「もし」と共起することができないが、可能の場合は共起できる。

（172’）a. ?もし準備ができたらスタート～。
b. ?もし用意が出来たらすぐ出かけよう。
c. ?もし設定ができたら、その部分を再生して確認します。
（174）a. もし英語ができたら、したいことはありますか？

（http://www.harukawa-web.com/blog/post-157/）

b. もし料理もできたらまさにハイスペック男子ですね。
（https://twitter.com/blau678/status/819570654567546880）

c. もし勉強ができたら暇つぶしになるし、自信にもつながると思います。（YAHOO!JAPAN, 知恵袋）

可能の場合、確定条件ではなく、仮定条件なのでは、可能は時間の展開がない状態であるためだと考えられる。

なお、本章では完成と可能を中心に考察しているので、触れなかったが、生起の場合、確定条件と仮定条件の両方の用例がある。

（175）a. （?もし）子供が出来たら変わる 10 のこと　＜確定条件＞
（https://mamasup.me/articles/32407）

b. もしも時間が出来たらメール下さい。　＜仮定条件＞
（YAHOO! JAPAN, 知恵袋）

以上で、N ガデキタラについて見たが、完成の場合は確定条件、可能の場合は仮定条件というように使われることが分かった。

5.4.2　N ガデキ次第

NLB で調べたところ、「デキ次第」の用例は全 17 件あり、いずれも完成の意味を表している。その用例を以下に挙げる。

（176）a. 入金確認が出来次第着払いで発送します。
(Yahoo!知恵袋, 2005, Yahoo!オークション)

b. リストができ次第、承認をいただきに参ります」
(シドニィ・シェルダン著;天馬竜行訳 『星の輝き』, 1995, 933)

c. 病室の手配ができ次第早急に入院しましょう。
(木藤亜也著 『1 リットルの涙』, 2005, 916)

d. 「用意でき次第、発射」ぼくは振り返って彼を見た。
(トニー・パーソンズ著;小田島恒志, 小田島則子訳 『ビューティフル・ボーイ』, 2001)

e. 準備が出来次第、直接、自分が指揮すると通信を終え、オービタルリング上の建造物を見るグッドマン。
(Yahoo!ブログ, 2008, 趣味)

このことから N ガデキ次第はもっぱら完成が後接する言語形式であると言える。言うまでもなく、N ガデキ次第が可能を表すことはない。それは、繰り返し述べたように、可能は状態だからである。また、N ガデキ次第が生起を表さないのは、「～次第」には、～に来るのが意志的な動作に限られているとい

う特徴がある（庵・高梨・中西・山田 2001）からである。

（177）*ニキビができ次第、薬を塗ってください。

本節では、N ガデキ次第について、それが完成しか表さないことを述べてきた。次からは、N ガデキルが「～まで」を後接する場合について見ていく。

5.4.3　N ガデキルマデ（ニ）[48]

「～まで（に）」には様々な意味用法があるが、N ガデキルと共起するのは、次のように、特定の時点を限界に期間を表す「まで（に）」である。

（178）a. 平安時代、かな文字ができるまで、日本に文字はなかったのですか？　（YAHOO! JAPAN, 知恵袋）
b. 自動車１台ができるまでには、大きく分けるとプレス、ようせつ、とそう、組み立て、検査の工程をとおりますが、約１７～１８時間かかります。　（http://www.toyota.co.jp/jp/kids/faq/b/01/06/）

上記の例 a は生起、b は完成であるが、いずれも生起した時点と完成した特定の時点を限界にそれ以前の期間を表している。

他方、可能の場合は、N ガデキルマデではなく、N ガデキルヨウニナルマデという形式を用いられる。これは、状態動詞である可能には成立点を内在しないため、開始時点か終了時点という成立点を内在する活動動詞（185a）、到達動詞（185b）と達成動詞（186c）と共起する「～まで（に）」とは、状態動詞（185d）は共起しないのである。そのため、能力獲得を表す「～ようになる」と共起が必要となる。なお、ブラケットの前に?がつくのは、ブラケットがつく方が当該の意味を表さないということを示す。

（179）a. 遺言を書くまでに乗り越える３つの壁　（https://goo.gl/NcYs6A）
b. 君の家に着くまでずっと走ってゆく。
（http://www.kasi-time.com/item-3285.html）

---

[48] 「～まで」に「ニ」が付くか否かは、次のように、主節における動詞に終了時点を内在するか否かで決まる。下の例は、a は成立点を一つも持たない状態動詞、b は開始時点を持つ活動動詞、c は終了時点を有する瞬間動詞、d は開始時点と終了時点の二つとも持つ達成動詞句（論文を書く）である。
a. 今年の一月まで東京にいました。
b. 毎日、午後 5 時まで勉強している。
c. 論文は 8 月 31 日までに提出してください。
d. 来月までに論文一本書いてください。
ここでは、「～まで」に「ニ」がつくか否かは問題とせず、「～まで」が前接する動詞を中心に考察するため、以降「～まで（に）」と書く。

c. 翌朝会社に行く支度するまで、なーんも着ない。
（http://blog.livedoor.jp/ikuzi2p/archives/8850343.html）

d. 英語が出来る?（ようになる）まで、どれくらいの時間がかかる？　（http://eigoranking.com/column/1286.html）

以上で、N ガデキルマデ（ニ）について、生起と完成を表すことができ、可能を表さないことを述べてきた。可能の場合、「～ようになる」と共起すれば、「～まで（に）」を後接することができるのである。

5.4.4　結び

これまで、「～たら」、「～次第」と「～まで」といった三つの言語形式が N ガデキルとの関わりについて見てきた。その結果、要するに、完成と可能が時間的展開を有するか否かで決まるということである。具体的に言えば、完成の場合は時間の展開における出来事であるので、以上の三つの言語形式を後接することが多くある。更に、N ガデキ次第は完成の意味しか表さない。

一方、可能は時間の展開を有しない状態なので、「～たら」を後接しても時間の前後関係を表す確定条件の用法ではなく、仮定条件の意味用法となる。また、状態なので、「～次第」と「～まで」を後接することがなく、「～まで」と共起するには「ようになる」を後接することが条件である。

更にもう一点言えば、完成を表す N ガデキルが複文の従属節に位置することが多く、逆に、可能を表す N ガデキルが複文の主節に位置することが多いという現象は見受けられている。それについては考察する余裕がないので、ここで一言言及するまでにしておく。

5.5　まとめ

本章では、完成と可能の両義性を有する N ガデキルを中心に構文レベルで、付加部の有無、否定接辞のナイ、テンス・アスペクトの観点から考察を試みた。

まず、次のように、達成動名詞ガデキルの場合付加部の有無で意味が変わることが明らかになった。一方、N モノガデキルの場合は必ずしもこの表に当てはまらず、N ガデキル段階で意味が決まっている場合が観察された。

（180）（＝156 再掲）

	完成	可能
d.　ニ格あり	場所	能力の所有者
e.　ハでマークされる能力の所有者	なし	あり
f.　条件を表す副詞句	なし	あり

次に、生起と完成を表す N ガデキルに否定接辞ナイがつくと、不可能を表すのは、否定自体が一種の状態であり、生起・完成する以前の状態を表すからである。

最後に、テンス・アスペクトの観点から考察した結果、次のようになる。これは完成と可能の意味とル形・タ形とテイル形との相互関係を示している。

（181）完成と可能のテンス・アスペクト

	完成	可能
ル形	「～まで」と「～と」を後接する	優先
タ形	○	過去に可能であった OR 過去に実現した
テイル形	完成の結果状態が続く	実現可能

上の表から見れば、N ガデキルという段階で意味が指定され、ル形・タ形・テイル形でも、大きな意味の変化が見られなかった。

また、達成動名詞ガデキルと達成動名詞スルという二つの文が表す事象の違いについて考察した結果、次のようにまとめることができる。

（182）達成動名詞ガデキルと達成動名詞スルが表す事象の違い

	N コトガデキル	V スル
ル形	終了時点	開始時点と終了時点
テイル形	結果状態	動作の進行
テイナイ形	事象がまだ終わっていない	事象がまだ始まっていない
ナイ形	不可能	事象成立の否定

以上のことに加え、完成を表す N ガデキルを中心に、可能と対照に、それが後接する形式について考察した。その結果、完成が「～たら」、「～次第」と「～まで」と共起するのは、時間の展開を有する出来事だからである。この時間の展開の有無で、完成と可能が異なっているという結論に至った。

國立政治大學 National Chengchi University

第 6 章　終わりに

6.1　結論

本論文では N ガデキル構文がどの場合に生起、完成、可能のいずれを表すかという問題を提起し、N ガデキルを名詞とデキルの二つの構成素に分けて考察し、クオリア構造を用いて意味分析を行い、構文レベルで文全体の意味を左右する要素を探った。

第 2 章ではデキルの多義性について認知言語学のアプローチにより考察し、完成と可能の意味は生起から派生したということを明らかにした。更に、デキルの意味構造を、項構造、LCS とクオリア構造について検討した上で規定した。デキルは生起、完成、可能の多義性を持つが、どの意味を表すのかは名詞が指定すると仮定した。

第 3 章では、N ガデキル動詞句のデータをを集め、モノ名詞とコト名詞に分類する作業を行った。モノ名詞とコト名詞の間に一線を画すことが難しく、モノゴト名詞を介し連続像を成すということが明らかになった。

第 4 章では、生起を表すデキルはモノ名詞を要求すると考えられ、コト名詞の場合はタイプ強制が適用されると仮定した。同様に、可能と完成を表すデキルはコト名詞を要求すると想定し、モノ名詞の場合はタイプ強制が適用され、デキルと共合成して可能と完成の意味が生成されると仮定した。この仮定の下で、タイプ強制の適用条件を探った。その結果、次のようになった。

（183）（＝145 再掲）

	モノ名詞	コト名詞
生起	デフォルト	「状況」「状態」「急用」「事態」「用」「習慣」の 6 語のように、目的役割に動作主の記載がない場合にかつその場合にのみ、タイプ強制が適用される。
完成	主体役割に動作主が意図的にそれを作ろうとする場合、かつその場合にのみタイプ強制が適用される。	達成名詞の場合のみ
可能	目的役割に人がそのモノにより何等かのことをすることが記載れる場合かつその場合にのみタイプ強制が適用される。	デフォルト

第 5 章では、完成と可能の両義性を持つ N ガデキルを中心に、構文レベルで付加部の有無、否定接辞のナイとテンス・アスペクトの観点から考察した。更に、完成を表す N ガデキルが後接する言語形式について、可能と対照に考察を試みた。その結果、完成と可能は時間的展開の有無で大きく異なっているという結論にたどり着いた。

6.2　今後の課題

本研究では、N ガデキル構文について、語レベル、句レベルと文レベルに分けて考察したが、いくつか問題点が残っている。

まず、意味が N ガデキル動詞句の段階で決まると主張してきたが、ガ格名詞句が欠けている場合では、意味はどのように指定されるのかが問題である。

次に、第 3 章では行ったモノ名詞とコト名詞に分類する作業が大きな問題である。筆者は先行研究に基づき、モノ名詞とコト名詞について定義し、その定義に沿った統辞的テストで分類の作業を行った。しかし、分類の際、相当迷いがあったので、より良い分類法について引き続き、研究したい。

また、デキルには生起、完成、可能の三つの意味のみならず、小泉ら（1989）でまとめたように、「人柄が円満である」という四つ目の意味用法がある。この意味用法は、必ずしも N ガデキルという形式ではないため、本研究の考察対象から除外した。今後では、N ガデキル問う形式に拘らずにデキルを主要部とするデキル文全般を射程に入れたい。

最後に、最も大きな問題点は実現可能である。コト名詞かモノ名詞を問わず、N ガデキル動詞句で、次のように、名詞が修飾語句を受ける例がある。

（184）a. 広島のかたきを討つつもりだった。<u>最高のゲームができた</u>。韓国戦は相手の出方がわからなかったから敗れたが、これからは全部、見てわかっているので、相手に応じたメンバーで戦っていけるはずだ。

b. そんなわけで、体調万全じゃなかったのが残念でしたが、取り合えず一部ではあったけれど、<u>良いゲームが出来た</u>よねってことで、、　（＝109 掲）

これは従来、実現可能として取り扱われた言語表現であるが、本研究では完成であるという考え方を提案した。つまり、ゲームというのは、終了時点まで行って初めてひとまとまりとして成り立つという考えである。その考え方においては実現可能か完成なのか、言い切れないかもしれない。また、本論文で言う完成は実現可能と似通っているところがあるが、その異同について立ち入る余裕がなかったため、「ADJ+N ガデキル動詞句」については今後の課題とする。

参考文献

庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』白川博之（監修）スリーエーネットワーク

井島正博（1991）「可能文の多層的分析」仁田義雄（編）『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版 .

井上和子（1976）『変形文法と日本語』大修館書店

池上嘉彦（2000）『「日本語論」への招待』講談社

上野誠司・影山太郎（2001）「移動と経路の表現」影山太郎（編）『動詞の意味と構文』大修館書店

上原　聡（2007）「認知語形成論」上原聡・熊代文子（著）『音韻・形態のメカニズム』研究社

上原　聡（2010）「名詞化と名詞性―その意味と形―」『日本語学』Vol. 29-11

岡　智之（2002）「存在構文に基づく日本語諸構文のネットワーク―日本語文法論への存在論的アプローチ―」山梨正明ほか（編）『認知言語学論考 N0.2』ひつじ書房

奥田靖雄（1986）「現実・可能・必然（上）」言語学研究会（編）『ことばの科学 1』むぎ書房

小野尚之（2005）『生成語彙意味論』くろしお出版

影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房

影山太郎（1996）『動詞意味論―言語と認知の接点―』くろしお出版

影山太郎（1999）『形態論と意味』くろしお出版

影山太郎（編）（2001）『動詞の意味と構文』大修館書店

影山太郎（2005）「辞書的知識と語用論的知識―語彙概念構造とクオリア構造の融合にむけて―」影山太郎（編）『レキシコンフォーラム No. 1』ひつじ書房

影山太郎（2010）「動詞の文法から名詞の文法へ」『日本語学』Vol. 29-11

影山太郎（2011）「モノ名詞とデキゴト名詞」影山太郎（編）『名詞の意味と構文』大修館書店

河上誓作（1996）『認知言語学の基礎』研究社

金水　敏（2003）「所有表現の歴史的変化」『月刊言語』Vol. 32-11.大修館書店

熊代敏行（2002）「日本語の「に - が」構文と分裂主語性」西村義樹（編）『認知言語学 I：事象構造』東京大学出版会

小泉保・船城道雄・本田晶治・仁田義雄・塚本秀樹（編）（1989）『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店

定延利之（2012）「「体験」型デキゴトをめぐる研究の経緯と新展開」影山太郎・沈力（編）『日中理論言語学の新展望 2 意味と構文』くろしお出版

渋谷勝己（1993）「日本語可能表現の諸相と発展」『大阪大学文学部紀要』33
杉岡洋子・影山太郎（2011）「名詞化と項の受け継ぎ」影山太郎（編）『名詞の意味と構文』大修館書店
杉本孝司（1998）『意味論 1―形式意味論―』くろしお出版
蘇　文郎（1990）『各種表現の日中語対照研究－格表現、存在表現、可能表現を中心に－』大新書局
田中聡子（1996）「動詞「みる」の多義構造」『言語研究』110
寺村秀夫（1981）「「モノ」と「コト」」『馬淵和夫博士退官記念国語学論集』大修館書店
寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
富田隆行（1991）『これだけは知っておきたい日本語教育のための―基礎表現 50 とその教え方』凡人社
仁田義雄（1997）『日本語文法研究序説―日本語の記述文法を目指して―』くろしお出版
仁田義雄（2010）『語彙的統語論の概念から』ひつじ書店
日本語記述文法研究会（編）（2009）『現代日本語文法 2―第 3 部格と構文、第 4 部ヴォイス』くろしお出版
前田富祺（1983）「できる」佐藤喜代治（編）『講座日本語の語彙 11』明治書院
益岡隆志（1987）『命題の文法―日本語文法序説』くろしお出版
益岡隆志（2000）『日本語文法の諸相』くろしお出版
益岡隆志（2013）『日本語構文意味論』くろしお出版
益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語部文法―改訂版―』くろしお出版
眞野美穂・影山太郎（2009）「状態と属性―形容詞類の働き」影山太郎（編）『形容詞・副詞の意味と構文』大修館書店
三原健一（1994）『日本語の統語構造―生成文法理論とその応用』松柏社
森山卓郎（1988）『日本語動詞述語文の研究』明治書院
ヤコブセン・ウェスリー・M（1989）「他動性とプロトタイプ論」久野暲・柴谷方良（編）『日本語学の新展開』くろしお出版
山梨正明（2000）『認知言語学原理』くろしお出版
山梨正明（2009）『認知構文論―文法のゲシュタルト性』大修館書店
吉村公宏（2003）「認知語彙論」吉村公宏（編）『認知音韻・形態論』大修館
吉村公宏（2004）『はじめての認知言語学』研究社
林　青樺（2009）『現代日本語におけるヴォイスの諸相―事象のあり方との関わりから―』くろしお出版
Givón, Thomas (1984) *Syntax*, Vol. 1. John Benjamins
Pustejovsky, James (1995) *The Generative Lexicon*. MIT Press, Cambridge, MA.
Vendler, Zeno (1957) “Verbs and Time.” *The Philosophical Review*, 66(2): 143-160.

付録

記号に対する説明：

[1] 指示対象：指示対象に△と〇があれば、モノ名詞とみなす。
〇：図示しやすい（具体的な）モノ
△：図示しにくい（抽象的な）モノ
×：図示不可

[2] 数え方：
個数と回数以外に、「人、件、本」などの助数詞を書く。念のため、判断基準として扱わない「つ」も書いておく。

[3] 場所格：
ニ：主にモノ名詞と共起するが、コト名詞の場合もある。
デ：コト名詞のみ共起する。
―：場所格がある用例が見当たらない。

[4] 行う／前／中／後／の際：〇は共起可能；×は共起不可

[5] の上：
空間：モノ名詞の場合、空間における「上」を表す。
時間：コト名詞の場合、時間軸における前後関係を示す。
△：以上の意味でない意味を表す場合。
―：共起する用例が見当たらない。

[6] 結果：モノ、コト、モノゴトの三パターンがある。

表 A.　モノ名詞とコト名詞の分類

番号	名詞	指示対象	数え方	場所格	行う	前	中	後	の際	の上	結果
1	仕事	△	件, 回数	ニ	〇	〇	〇	〇	〇	△	モノゴト
2	子（供）	〇	人	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
3	もの・物	〇	個数	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
4	人	〇	人	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
5	（お）話	△	話・つ	ニ	〇	×	〇	〇	〇	△	モノゴト
6	生活	×	―	デ	〇	×	〇	〇	〇	△	コト
7	準備	×	回数	―	〇	〇	〇	〇	〇	△	コト
8	確認	×	回数	―	〇	〇	〇	〇	〇	時間	コト
9	友達	〇	人	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
10	判断	×	回数	―	〇	〇	〇	〇	〇	時間	コト
11	時間	△	―	ニ	×	×	×	×	×	―	モノ
12	対応	×	回数	―	〇	〇	〇	〇	〇	―	コト
13	食事	〇	回数	ニ	〇	〇	〇	〇	〇	空間	モノゴト
14	勉強	×	回数	デ	〇	〇	〇	〇	〇	△	コト
15	活動	×	回数	デ	〇	〇	〇	〇	〇	―	コト

國立政治大學 National Chengchi University

番号	名詞	指示対象	数え方	場所格	行う	前	中	後	の際	の上	結果
16	会話	×	回数	デ	○	○	○	○	○	—	コト
17	用意	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
18	彼女	○	人	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
19	余裕	△	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
20	制度	△	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
21	○○方	×	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
22	（行）列	○	列、本	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
23	操作	×	回数	—	○	○	○	○	○	△	コト
24	関係	△	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
25	○○性	△	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
26	作業	×	回数	デ	○	○	○	○	○	—	コト
27	設定	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
28	息	△	回数	ニ	×	×	×	×	×	—	モノゴト
29	我慢	×	回数	—	○	○	○	○	○	△	コト
30	彼（氏）	○	人	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
31	行動	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
32	人間	○	人	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
33	取り引き	×	回数	—	○	○	○	○	○	△	コト
34	隙間	○	箇所	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
35	○○語	○	国語	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
36	説明	×	回数	ニ	○	○	○	○	○	時間	コト
37	請求	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
38	管理	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
39	計算	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
40	○○法	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
41	法律	△	件	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
42	体験	×	回数	—	○	○	○	○	○	△	コト
43	恋人	○	人	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
44	返事	○	件、通	ニ	○	○	○	○	○	—	モノゴト
45	交換	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
46	調整	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
47	利用	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
48	店	○	軒	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
49	理解	×	回数	—	○	×	×	○	○	時間	コト
50	運動	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
51	処理	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト

國立政治大學 National Chengchi University

番号	名詞	指示対象	数え方	場所格	行う	前	中	後	の際	の上	結果
52	選択	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
53	相手	○	人	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
54	表現	△	つ	ニ	○	—	—	—	○	—	モノゴト
55	呼吸	×	回数	—	○	—	○	○	○	—	コト
56	意味	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
57	入力	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
58	言葉	○	つ、語	ニ	×	×	×	×	×	△	モノ
59	読み書き	×	回数	—	○	×	○	×	○	—	コト
60	○○会	△	回数、つ	ニ、デ	○	○	○	○	○	—	モノゴト
61	○○化	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
62	変更	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
63	買い物	×	回数	—	○	×	○	○	○	—	コト
64	質問	×	つ、回数	—	○	×	○	○	○	—	コト
65	挨拶	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
66	料理	○	品	ニ	×	○	○	○	○	空間	モノゴト
67	赤ちゃん	○	人	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
68	サービス	×	回数	デ	○	×	○	×	○	—	コト
69	練習	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
70	会社	○	社	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
71	○○力	○	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
72	形	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	△	モノ
73	問題	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	△	モノ
74	女性	○	人	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
75	にきび	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
76	運転	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
77	予約	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
78	内容	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
79	コントロール	×	回数	—	○	×	○	×	○	—	コト
80	システム	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
81	プレー	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
82	動き	×	回数	—	○	×	×	×	×	—	コト
83	合意	×	—	ニ	○	○	×	○	○	時間	コト
84	撮影	×	回数	—	○	×	×	×	×	—	コト
85	体	○	—	—	×	×	×	×	×	空間	モノ
86	指導	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
87	評価	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト

國立政治大學 National Chengchi University

番号	名詞	指示対象	数え方	場所格	行う	前	中	後	の際	の上	結果
88	○○づくり	×	回数	—	○	×	○	○	○	—	コト
89	支払い	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
90	目標	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
91	遊び	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
92	国	○	国	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
93	場所	○	箇所	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
94	手続き	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
95	書き込み	○	件	ニ	○	○	○	○	○	—	モノゴト
96	状況	×	つ	ニ	○	×	×	×	○	—	コト
97	したく	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
98	気持ち	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
99	理由	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
100	駅	○	駅	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
101	メール	○	通、件	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
102	治療	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
103	覚悟	×	つ	—	×	×	×	×	×	時間	コト
104	傷	○	つ	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
105	暇	△	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
106	男	○	人	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
107	付き合い	×	回数	—	○	×	○	×	×	—	コト
108	暮らし	×	回数	デ	○	×	○	×	×	—	コト
109	更新	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
110	登録	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
111	ところ	○	箇所	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
112	ゲーム	○	本、回数	ニ、デ	○	×	○	○	○	—	モノゴト
113	区別	×	回数	—	○	×	×	×	×	—	コト
114	○○所	○	箇所	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
115	溝	○	本	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
116	相談	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
117	研究	○	本、件	—	○	×	○	○	○	△	モノゴト
118	経験	×	回数	—	×	×	○	○	×	—	コト
119	女	○	人	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
120	家	○	軒	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
121	投票	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
122	本	○	冊	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
123	検索	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト

國立政治大學 National Chengchi University

番号	名詞	指示対象	数え方	場所格	行う	前	中	後	の際	の上	結果
124	○○目	△	個数	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
125	道路	○	本	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
126	体制	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
127	基礎	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
128	○○場	○	箇所	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
129	教育	×	回数	—	○	×	○	○	×	—	コト
130	施設	○	つ	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
131	旅	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
132	調節	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
133	コミュニケーション	×	回数	—	○	×	○	×	○	—	コト
134	○○書	○	通、枚	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
135	染み	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
136	口内炎	△	個数	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
137	身動き	×	つ	—	×	×	×	×	×	—	コト
138	通信	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
139	あざ	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
140	交流	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
141	輪	○	本、輪	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
142	運営	×	回数	—	○	○	○	○	○	△	コト
143	（お）金	○	円	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
144	ゆとり	△	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
145	インターネット	○	—	—	×	×	○	×	×	—	モノゴト
146	切り替え	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
147	回答	×	回数	—	○	×	×	○	○	時間	コト
148	編集	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
149	表示	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
150	道	○	本	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
151	ファイル	○	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
152	子育て	×	回数	—	×	○	○	○	×	—	コト
153	手術	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
154	政府	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
155	法案	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
156	申し立て	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
157	申し込み	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
158	移動	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
159	調査	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト

國立政治大學 National Chengchi University

番号	名詞	指示対象	数え方	場所格	行う	前	中	後	の際	の上	結果
160	イメージ	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
161	急用	×	つ	ニ	○	×	×	×	○	—	コト
162	整理	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
163	決定	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
164	解決	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
165	計画	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノゴト
166	人垣	○	—	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
167	友人	○	人	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
168	家族	○	人	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
169	山	○	座、峰	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
170	影	○	つ	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
171	政権	△	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
172	方法	×	つ	—	○	×	×	×	×	—	コト
173	流れ	△	本、筋	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
174	用事	×	つ	ニ	×	×	○	○	○	—	コト
175	能力	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
176	商売	×	回数	—	○	×	○	×	×	—	コト
177	瘤	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
178	真似	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
179	組織	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
180	解釈	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
181	貢献	×	回数	—	○	×	○	×	×	—	コト
182	やり取り	×	回数	—	○	×	○	×	○	—	コト
183	スペース	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
184	処置	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
185	印刷	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
186	差	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
187	投資	×	回数	—	○	○	○	○	○	△	コト
188	細胞	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
189	議論	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
190	顔	○	—	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
191	学校	○	校	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
192	家事	×	—	—	○	×	○	×	○	—	コト
193	旅行	×	—	—	○	○	○	○	○	—	コト
194	機関	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
195	水	○	杯	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ

國立政治大學 National Chengchi University

付録

番号	名詞	指示対象	数え方	場所格	行う	前	中	後	の際	の上	結果
196	状態	×	—	ニ	×	×	○	○	×	—	コト
197	意志疎通	×	—	—	○	×	×	○	○	—	コト
198	資金	○	ロ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
199	閲覧	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
200	電話	○	本	ニ	×	×	○	○	○	—	モノゴト
201	グループ	○	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
202	保存	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
203	再生	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
204	動作	×	回数	—	○	×	○	○	×	—	コト
205	実験	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
206	恋	×	回数	—	×	×	×	×	×	—	コト
207	改善	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
208	検査	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
209	演奏	×	回数	—	○	○	○	○	○	△	コト
210	経営	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
211	行為	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
212	解除	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
213	証明	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
214	試合	×	回数	デ	○	○	○	○	○	—	コト
215	話し合い	×	回数	—	○	×	○	×	○	—	コト
216	返済	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
217	通話	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
218	違い	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
219	アドバイス	×	つ	—	○	○	×	○	○	—	コト
220	働き	×	回数	ニ	○	×	×	×	×	—	コト
221	団体	△	つ、団	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
222	対策	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
223	○○層	△	層	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
224	工夫	×	回数	—	○	×	×	×	×	—	コト
225	年金	△	円、つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
226	抗体	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
227	接続	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
228	改革	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
229	攻撃	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
230	申請	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
231	町	○	町	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ

國立政治大學 National Chengchi University

番号	名詞	指示対象	数え方	場所格	行う	前	中	後	の際	の上	結果
232	発見	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
233	結晶	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
234	船	○	隻	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
235	販売	×	回数	—	○	○	○	○	○	△	コト
236	運用	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
237	○○部	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
238	つながり	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
239	ビジネス	×	つ	—	○	×	×	×	○	—	コト
240	介護	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
241	仕組み	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
242	報告	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
243	契約	△	件	ニ	○	○	○	○	○	空間	モノゴト
244	授業	×	つ	デ	○	○	○	○	○	—	コト
245	○○権	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
246	水たまり	○	面	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
247	決断	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
248	線	○	本	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
249	走り	×	回数	—	×	×	○	×	×	—	コト
250	車	○	台	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
251	開発	×	回数	—	○	○	○	○	○	△	コト
252	しこり	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
253	できもの	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
254	○○アップ	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
255	使用	×	回数	—	○	○	○	○	○	△	コト
256	参加	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
257	地域	△	つ、郭	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
258	恋愛	×	回数	—	×	○	○	○	○	—	コト
259	指定	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
260	文字	○	字	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
261	構造	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
262	活躍	×	回数	—	○	○	○	○	○	△	コト
263	用	×	つ	—	×	×	×	×	×	—	コト
264	画像	△	枚	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
265	皺	○	筋、本	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
266	種	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
267	空間	△	次元	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ

國立政治大學 National Chengchi University

付録

番号	名詞	指示対象	数え方	場所格	行う	前	中	後	の際	の上	結果
268	かさぶた	○	個数 枚	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
269	ネット	△	—	—	×	×	○	×	×	△	モノゴト
270	事業	×	つ	ニ	○	×	×	○	×	—	コト
271	作品	△	点	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
272	保育	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
273	修理	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
274	入金	△	回数 円	ニ	○	○	○	○	○	—	モノゴト
275	写真	○	枚	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
276	吹き出物	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
277	変化	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
278	存在	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
279	思い出	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
280	手当て	×	回数	—	○	×	×	×	×	—	コト
281	掃除	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
282	援助	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
283	放送	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
284	数	△	—	—	×	×	×	×	×	—	モノ
285	曲	○	曲	—	×	×	×	×	×	—	モノ
286	湿疹	△	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
287	目的	×	つ	—	×	×	×	×	×	—	モノ
288	習慣	×	つ	ニ	○	×	×	×	×	—	コト
289	チーム	△	チーム	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
290	購入	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
291	(お)手伝い	×	回数	—	○	○	○	×	○	—	コト
292	セックス	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
293	トレーニング	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
294	免疫	△	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
295	出入り	×	回数	—	○	×	×	○	○	—	コト
296	回収	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
297	塊	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
298	思い	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
299	成果	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
300	提供	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
301	活用	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
302	納得	×	—	—	×	×	×	×	×	時間	コト
303	組み合わせ	△	通り	—	○	×	×	×	×	—	モノゴト

國立政治大學 National Chengchi University

番号	名詞	指示対象	数え方	場所格	行う	前	中	後	の際	の上	結果
304	資格	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
305	距離	△	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
306	ルール	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
307	供給	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
308	○○先	○	箇所	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
309	分析	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
310	品	○	品、点	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
311	○○地	○	箇所	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
312	執行	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
313	基盤	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
314	学習	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
315	展開	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
316	建物	○	棟、軒	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
317	想像	×	—	—	○	×	×	×	×	△	コト
318	提案	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
319	比較	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
320	気配り	×	—	—	×	×	×	×	×	—	コト
321	水膨れ	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
322	測定	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
323	男性	○	人	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
324	発音	△	回数	—	○	○	○	○	○	—	モノゴト
325	確保	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
326	社会	△	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
327	腫瘍	△	—	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
328	膜	○	枚	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
329	行政	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
330	診断	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
331	調達	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
332	録画	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
333	スイング	×	回数	—	○	○	○	×	○	—	コト
334	スポーツ	×	—	—	○	○	○	○	○	—	コト
335	タコ	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
336	ブツ	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
337	ページ	○	ページ	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
338	世界	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
339	世話	×	回数	—	○	×	○	○	○	—	コト

國立政治大學 National Chengchi University

番号	名詞	指示対象	数え方	場所格	行う	前	中	後	の際	の上	結果
340	事態	×	—	—	○	×	×	×	×	—	コト
341	人だかり	○	—	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
342	修正	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
343	○○円	○	円	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
344	削除	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
345	協定	△	—	ニ	○	×	×	○	×	—	モノゴト
346	商品	○	点	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
347	就職	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
348	○○座り	×	回数	—	×	○	×	○	○	—	コト
349	心構え	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
350	○○感	△	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
351	条件	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
352	生物	△	種	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
353	生産	×	回数	—	○	○	○	○	—	—	コト
354	登記	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
355	穴	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
356	考え	△	つ	ニ	×	×	○	×	○	—	モノゴト
357	血栓	○	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
358	行使	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
359	貯金	○	円	—	○	×	○	×	○	—	モノゴト
360	釣り	×	回数	—	×	×	○	○	○	—	コト
361	ケア	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
362	プログラム	○	本	ニ	○	○	○	○	×	—	モノゴト
363	事実	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
364	充電	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
365	削減	×	回数	ニ	○	○	○	○	×	—	コト
366	加工	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
367	実	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
368	対話	×	回数	—	○	○	○	○	○	△	コト
369	工場	○	棟	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
370	市場	○	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
371	把握	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
372	期待	×	回数	—	○	○	○	○	○	△	コト
373	業務	×	—	—	○	×	○	○	○	—	コト
374	潰瘍	△	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
375	種類	△	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ

國立政治大學 National Chengchi University

番号	名詞	指示対象	数え方	場所格	行う	前	中	後	の際	の上	結果
376	約束	△	つ	ニ	○	○	×	○	×	△	モノゴト
377	街	○	—	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
378	○○費	○	円	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
379	転換	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
380	連絡	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
381	選手	○	人	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
382	部屋	○	室, 部屋	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
383	野球	×	—	ニ	×	×	○	×	×	—	コト
384	コピー	○	枚、部	—	×	×	○	○	○	—	モノゴト
385	コメント	△	件	ニ	○	×	○	○	○	空間	モノゴト
386	ソフト	△	本	—	×	×	×	×	×	—	モノ
387	パフォーマンス	×	回数	—	○	○	○	○	×	—	コト
388	仕付け・躾	×	回数	—	○	×	○	×	○	—	コト
389	仲間	○	人	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
390	作成	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
391	使い分け	×	回数	—	○	×	×	×	×	—	コト
392	入札	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
393	内閣	△	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
394	判定	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
395	○○制	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
396	原因	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
397	○○型	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
398	基準	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
399	孫	○	人	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
400	感情	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
401	成長	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
402	散歩	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
403	書き換え	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
404	案	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
405	業者	△	社、人	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
406	段差	△	箇所	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
407	環境	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
408	癌	○	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
409	発展	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
410	結婚	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
411	自信	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ

國立政治大學 National Chengchi University

番号	名詞	指示対象	数え方	場所格	行う	前	中	後	の際	の上	結果
412	訓練	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
413	識別	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
414	速度	△	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
415	隈	○	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
416	雲	○	片、朶	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
417	おでき	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
418	ネットワーク	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
419	ポリープ	○	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
420	主張	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
421	予想	×	回数	—	○	○	○	○	○	△	コト
422	予測	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
423	借り入れ	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
424	収集	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
425	取材	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
426	基本	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	△	モノ
427	対処	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
428	帯	○	本、枚	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
429	戦争	×	回数	デ	○	○	○	○	○	—	コト
430	手出し	×	回数	—	×	×	×	○	×	—	コト
431	技術	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
432	振り込み	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
433	措置	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
434	整備	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
435	○○日	△	日	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
436	映画	○	本	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
437	植物	○	種	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
438	○○機	○	台	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
439	海	○	つ	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
440	物質	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
441	特定	×	回数	—	×	○	○	○	○	—	コト
442	申告	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
443	発行	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
444	（お）答え	△	つ	ニ	×	×	○	×	×	空間	モノゴト
445	納付	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
446	維持	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
447	薬	○	錠、粒	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ

國立政治大學 National Chengchi University

番号	名詞	指示対象	数え方	場所格	行う	前	中	後	の際	の上	結果
448	表	○	つ	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
449	観察	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
450	走行	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
451	はいはい	×	回数	—	×	×	○	×	×	—	コト
452	アクセス	×	回数	—	○	×	○	○	○	—	コト
453	オンオフ	×	回数	—	○	×	×	×	×	—	コト
454	パソコン	○	台	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
455	パターン	△	通り	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
456	メリット	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
457	リズム	△	拍	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
458	ルート	○	本	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
459	下水道	○	本	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
460	像	○	体、基	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
461	分割	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
462	収入	○	円	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
463	取り付け	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
464	向上	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
465	喧嘩	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
466	壁	○	枚	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
467	女の子	○	人	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
468	○○室	○	室	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
469	○○屋	○	軒	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
470	引き落とし	×	回数	—	○	○	×	○	○	—	コト
471	形成	×	回数	—	○	○	○	○	○	時間	コト
472	感覚	△	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
473	戦い	×	回数	デ	○	○	×	○	○	—	コト
474	戦	×	回数	デ	○	×	×	×	○	—	コト
475	数字	○	字、つ	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
476	数学	○	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
477	空き	○	箇所、つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
478	模様	○	つ	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ
479	機械	○	台	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
480	水疱	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
481	病院	○	棟	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
482	競馬	×	—	—	○	×	×	×	○	—	コト
483	縁	△	—	ニ	×	×	×	×	×	—	モノ

國立政治大學 National Chengchi University

付録

番号	名詞	指示対象	数え方	場所格	行う	前	中	後	の際	の上	結果
484	脳	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
485	裂け目	○	筋	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
486	補給	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
487	記録	△	つ、回数	—	○	○	○	○	○	時間	モノゴト
488	設置	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
489	試験	×	つ、回数	デ	○	○	○	○	○	—	コト
490	資料	△	点	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
491	農業	×	—	デ	○	×	×	×	×	—	コト
492	送受信	×	回数	—	○	○	○	○	○	—	コト
493	長生き	×	—	—	×	×	×	×	×	—	コト
494	離婚	×	回数	—	○	○	×	○	○	時間	コト
495	カード	○	枚	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
496	コンピューター	○	台	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
497	ダム	○	基	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
498	ほくろ	○	個数	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ
499	チェック	×	回数	—	○	×	○	○	○	時間	コト
500	ホテル	○	軒、棟	ニ	×	×	×	×	×	空間	モノ

國立政治大學 National Chengchi University